中之条町埋蔵文化財発掘調査報告書第19集

伊勢町地区遺跡群
上　原　遺　跡

中之条町駅南土地区画整理事業に伴う埋蔵文化財発掘調査報告書第１集

１９９９．３
群馬県中之条町教育委員会

序

中之条町は、群馬県の北西部に位置しており、盆地、河岸段丘、丘陵地、山間部と地形の変化に富んだ自然豊かな環境にあり、また、国指定の重要文化財である薬師堂や富沢家住宅をはじめとして、県指定、町指定の文化財や史跡に恵まれた町です。

更に町内には、土に埋もれた状態で存在する埋蔵文化財も多数存在しており、これまでにも各種開発に伴う発掘調査を数多く実施し、大きな成果を上げています。

上原・天神・川端という三つの遺跡からなる伊勢町地区遺跡群の調査は、駅南地区の土地区画整理事業に伴って実施しました。昭和62年度から平成５年度にかけて実施したこの調査では、弥生時代から平安時代の住居跡が500軒以上も発見されるなど、調査面積においても、実施した期間においても町にとっては初めて経験する大規模な調査で、調査の実施中には何度か新聞報道がなされるなど話題となった遺跡です。

この遺跡群の整理作業は、平成６年度から継続的に実施していますが、このたび、上原遺跡については、ひとまず整理作業が終了しましたので、報告書を刊行する運びとなりました。本書が、地域の歴史を解き明かすための資料として活用されることを願ってやみません。

最後になりましたが、今回の発掘調査の実施にあたり、ご指導ご協力をいただきました関係者の方々や、調査に従事していただいた作業員のみなさんに対して深く感謝申し上げます。

平成11年３月31日

中之条町教育委員会
教育長　中澤恒夫

例　　言

1　本書は、中之条町駅南土地区画整理事業に伴い、中之条町教育委員会が昭和62年度から平成５年度にかけて実施した、伊勢町地区遺跡群の発掘調査のうち、上原遺跡について報告するものである。

2　本遺跡は、群馬県吾妻郡中之条町大字伊勢町字上原に所在する。

3　発掘調査は昭和63年度から平成２年度にかけて、断続的に実施した。遺物整理については調査の中断期間に行ったほか、平成６年度から実施している伊勢町地区遺跡群全体の整理作業において行った。なお、本報告書の作成は平成９年１月から平成11年３月まで行った。

4　調査組織は以下の通りである（昭和62年度試掘調査～平成２年度）。

教　育　長	一場秀司
社会教育課長	福田孝行（昭和62年度～昭和63年度）
	蟻川敏彦（平成元年度～平成２年度）
社会教育係長	冨沢易和（昭和62年度・現、社会教育課長）
	水出隆夫（平成２年度・現、農林課庶務係長）
社会体育係長	田村宏司（昭和63年度～平成元年度・現、観光課観光係長）
調査担当者	福田義治（中之条町歴史民俗資料館・学芸員）
調査指導	巾　隆之（昭和62年度、群馬県教育委員会文化財保護課）

5　本書の執筆及び編集は、福田義治の協力を得て須崎幸夫（社会教育課主事）が行った。また、整理作業及び報告書の作成に当たっては、小菅昭三郎（嘱託）の協力を得た。

6　本調査における記録・出土遺物については、中之条町教育委員会で保管している。

7　調査ならびに本書の編集に際し、下記の方々にご指導、ご協力をいただいた（敬称略）。

群馬県教育委員会文化財保護課　駅南土地区画整理組合　株式会社コーエィ　株式会社測研　株式会社齊藤土木　株式会社八州　パリノ・サーヴェイ株式会社　宮崎建設株式会社

穴澤義功　石井克己　大栗勇一　唐澤至朗　神保侑史　関　邦一　早田　勉　田辺芳昭　田村公夫　長谷川福次　水田　稔　山崎　一

8　発掘調査作業員（敬称略）

伊東貴代子　岩上勝子　小渕幸子　金井フキ江　金井いの子　小池せつ子　斉藤君代　斉藤つね　桜井文子　清水茂子　清水夏子　関　はる　富澤久美子　冨沢けさよ　湯本重太郎　吉田むつ　綿貫絢子　加辺美江子（整理）　宮崎文江（整理）

10　整理作業員（敬称略）

小渕幸子　清水夏子　高橋正寿　水出波雄

凡　　例

1．遺物実測図中の断面基準線は標高で表し、方位記号は座標北を示す。

2．遺構及び遺物実測図については以下の縮尺を基本とした。

調査区全体図　1／300　　竪穴住居跡・掘立柱建物跡・土坑・溝　1／60

土器　1／4　　石製品（玉類）　1／1　　土製品・石製品（その他）・鉄製品　1／2

3．遺構・遺物写真の縮尺は統一していない。

4．遺構実測図中で用いたシンボルマークは、以下のことを示す。

● 土器・土製品　■ 石器・石製品　▲ 金属製品

5．遺構・遺物実測図中で用いたスクリーントーンは、以下のことを示す。

焼土分布範囲　　黒色土器

6．本遺跡では、A・B・D区それぞれ別々にグリッドを設定し調査したが、B区については、A区のグリッドをもとに設定した仮グリッドで調査を実施したので、本書におけるB区の遺構の位置は、A区のグリッドに換算して表した。

7．本遺跡において観察されたテフラについては、以下の略称を用いた。

榛名－渋川テフラ（Ｈｒ－Ｓ）：ＦＡ

浅間－粕川テフラ（Ａｓ－Ｋｋ）：粕川軽石

なお、本遺跡の発掘調査を実施した際に、天仁元（1108）年に発生した浅間山の噴火に由来すると考えられていた軽石が、その後に行った分析調査で粕川テフラに同定されたため、本書では粕川テフラに改めている。

8．主軸方位は、竈が設置されている住居跡についてはその設置方向を、竈を持たない住居跡、掘立柱建物跡、溝については長辺方向を主軸とし、座標北からの角度で表した。

9．遺跡の位置図には、国土地理院発行50,000分の1地形図の『中之条』を使用した。

目　　次

序
例　言
凡　例
第１章　発掘調査に至る経緯と調査の経過
第１節　調査に至る経緯 …… 1
第２節　調査の方法と経過 …… 1
第２章　遺跡の位置及び周辺の遺跡
第１節　遺跡の位置 …… 2
第２節　周辺の遺跡 …… 4
第３章　遺跡の概要と基本土層
第１節　遺跡の概要
（１）　Ａ区 …… 4
（２）　Ｂ区 …… 5
（３）　Ｄ区 …… 9
第２節　基本土層 …… 11
第４章　検出された遺構と遺物
第１節　上原遺跡Ａ区
（１）　竪穴式住居跡 …… 12
（２）　掘立柱建物跡 …… 38
（３）　溝 …… 41
（４）　土坑 …… 42
第２節　上原遺跡Ｂ区
（１）　溝 …… 43
（２）　土坑 …… 43
第３節　上原遺跡Ｄ区
（１）　竪穴式住居跡 …… 43
（２）　溝 …… 80
（３）　土坑 …… 82
（４）　堀 …… 84
第５章　まとめにかえて
第１節　調査の成果 …… 87
第２節　伊参城と小城 …… 87
報告書抄録

挿図目次

第 1 図　調査区及びグリッド設定図 ……折り込み
第 2 図　遺跡の位置と周辺の遺跡 ……3
第 3 図　A区全体図 ……折り込み
第 4 図　B区全体図 ……折り込み
第 5 図　D－1区全体図 ……5
第 6 図　D－2区全体図 ……6
第 7 図　D－3区全体図 ……7
第 8 図　D－4区全体図 ……8
第 9 図　D－5区全体図① ……9
第10図　D－5区全体図② ……10
第11図　基本土層 ……11
第12図　A－1号住居跡 ……12
第13図　A－1号住居跡出土遺物 ……13
第14図　A－2号住居跡 ……14
第15図　A－2号住居跡出土遺物① ……14
第16図　A－2号住居跡② ……15
第17図　A－3号住居跡 ……16
第18図　A－3号住居跡出土遺物① ……16
第19図　A－3号住居跡出土遺物② ……17
第20図　A－4号住居跡① ……18
第21図　A－4号住居跡② ……19
第22図　A－4号住居跡出土遺物 ……19
第23図　A－5号住居跡 ……20
第24図　A－5号住居跡出土遺物 ……21
第25図　A－6号住居跡 ……21
第26図　A－6号住居跡出土遺物 ……22
第27図　A－7号住居跡 ……23
第28図　A－8号住居跡① ……24
第29図　A－8号住居跡② ……25
第30図　A－8号住居跡出土遺物 ……25
第31図　A－9号住居跡 ……26
第32図　A－9号住居跡出土遺物 ……27
第33図　A－10号住居跡① ……29
第34図　A－10号住居跡② ……30
第35図　A－10号住居跡出土遺物① ……30
第36図　A－10号住居跡出土遺物② ……31
第37図　A－11号住居跡 ……32
第38図　A－11号住居跡出土遺物 ……32
第39図　A－12号住居跡 ……33
第40図　A－12号住居跡出土遺物 ……34
第41図　A－13号住居跡 ……35
第42図　A－14号住居跡 ……36
第43図　A－14号住居跡出土遺物 ……36
第44図　A－15号住居跡 ……37
第45図　A－15号住居跡出土遺物 ……38
第46図　A－1号掘立柱建物跡① ……39
第47図　A－1号掘立柱建物跡② ……40
第48図　A－2号掘立柱建物跡 ……40
第49図　A－3号掘立柱建物跡 ……41
第50図　D－1号住居跡 ……44
第51図　D－1号住居跡出土遺物 ……44
第52図　D－2号住居跡 ……45
第53図　D－2号住居跡出土遺物① ……45
第54図　D－2号住居跡出土遺物② ……46
第55図　D－3号住居跡 ……47
第56図　D－3号住居跡出土遺物 ……47
第57図　D－4号住居跡 ……48
第58図　D－4号住居跡出土遺物 ……49
第59図　D－5号住居跡 ……49
第60図　D－5号住居跡出土遺物 ……50
第61図　D－6号住居跡出土遺物 ……50
第62図　D－6号住居跡出土遺物 ……51
第63図　D－7号住居跡 ……51
第64図　D－8号住居跡 ……52
第65図　D－8号住居跡出土遺物 ……53
第66図　D－9号住居跡① ……54
第67図　D－9号住居跡② ……55
第68図　D－9号住居跡出土遺物 ……55
第69図　D－10号住居跡① ……56
第70図　D－10号住居跡② ……57
第71図　D－10号住居跡出土遺物 ……57
第72図　D－11号住居跡 ……58
第73図　D－12号住居跡 ……59
第74図　D－12号住居跡出土遺物 ……59
第75図　D－13号住居跡 ……60
第76図　D－13号住居跡出土遺物 ……61
第77図　D－14号住居跡出土遺物 ……62
第78図　D－14号住居跡 ……63
第79図　D－15号住居跡 ……64
第80図　D－15号住居跡出土遺物 ……64
第81図　D－16号住居跡① ……65
第82図　D－16号住居跡② ……66
第83図　D－16号住居跡出土遺物 ……67
第84図　D－17号住居跡出土遺物 ……68
第85図　D－17号住居跡 ……69
第86図　D－18号住居跡① ……70
第87図　D－18号住居跡② ……71
第88図　D－18号住居跡出土遺物① ……71
第89図　D－18号住居跡出土遺物② ……72
第90図　D－18号住居跡出土遺物③ ……73
第91図　D－19号住居跡① ……75
第92図　D－19号住居跡② ……76
第93図　D－19号住居跡出土遺物 ……76
第94図　D－20号住居跡 ……77
第95図　D－20号住居跡出土遺物 ……77
第96図　D－21号住居跡 ……78
第97図　D－22号住居跡 ……79
第98図　D－22号住居跡出土遺物 ……80
第99図　D－1号溝 ……81
第100図　D－1号溝出土遺物 ……81
第101図　D－1・6・7・15・16号土坑 ……83
第102図　D－29・39・41号土坑 ……84
第103図　D区土坑出土遺物 ……84
第104図　D－1号堀 ……85
第105図　D－2号堀 ……86
第106図　小城現況図 ……折り込み

表　目　次

第 1 表　A区溝計測表 ……42
第 2 表　A区土坑計測表 ……42
第 3 表　B区溝計測表 ……43
第 4 表　B区土坑計測表 ……43
第 5 表　D区溝計測表 ……81
第 6 表　D区土坑計測表 ……82

写真図版目次

ＰＬ１
遺跡遠景
A区（第１次調査区）全景
ＰＬ２
A－１号住居跡全景
A－２号住居跡全景
A－３号住居跡全景
A－４号住居跡全景
A－５号住居跡全景
A－６・12号住居跡全景
A－７号住居跡全景
A－８号住居跡全景
ＰＬ３
A－９号住居跡全景
A－10号住居跡遺物出土状況
A－10号住居跡竈全景
A－11号住居跡全景
A－13号住居跡全景
A－14号住居跡全景
A－15号住居跡全景
A－１号掘立柱建物跡全景
ＰＬ４
A－２号掘立柱建物跡全景
A－３号掘立柱建物跡全景
D－１号住居跡全景
D－２号住居跡全景
D－３号住居跡全景
D－４号住居跡全景
D－５号住居跡全景
D－６号住居跡全景
ＰＬ５
D－７号住居跡全景
D－８号住居跡全景
D－９号住居跡全景
D－10号住居跡全景
D－11号住居跡全景
D－12号住居跡遺物出土状況
D－13号住居跡全景
D－14号住居跡全景
ＰＬ６
D－15号住居跡遺物出土状況
D－16号住居跡全景
D－17号住居跡全景
D－18号住居跡全景
D－19住居跡全景
D－19号住居跡竈全景
D－20号住居跡遺物出土状況
D－21号住居跡全景
ＰＬ７
D－22号住居跡全景
D－１号溝全景
D－１号土坑全景
D－29号土坑遺物出土状況
D－１号堀全景
D－２号堀全景
ＰＬ８
A－１号住居跡出土遺物
A－２号住居跡出土遺物
A－３号住居跡出土遺物
ＰＬ９
A－３号住居跡出土遺物
A－４号住居跡出土遺物
A－５号住居跡出土遺物
A－６号住居跡出土遺物
ＰＬ10
A－６号住居跡出土遺物
A－８号住居跡出土遺物
A－９号住居跡出土遺物
A－10号住居跡出土遺物
ＰＬ11
A－10号住居跡出土遺物
A－11号住居跡出土遺物
A－12号住居跡出土遺物
A－14号住居跡出土遺物
A－15号住居跡出土遺物
D－１号住居跡出土遺物
D－２号住居跡出土遺物
ＰＬ12
D－２号住居跡出土遺物
D－３号住居跡出土遺物
D－４号住居跡出土遺物
D－５号住居跡出土遺物
D－６号住居跡出土遺物
D－８号住居跡出土遺物
D－９号住居跡出土遺物
ＰＬ13
D－９号住居跡出土遺物
D－10号住居跡出土遺物
D－12号住居跡出土遺物
D－13号住居跡出土遺物
ＰＬ14
D－13号住居跡出土遺物
D－14号住居跡出土遺物
D－15号住居跡出土遺物
D－16号住居跡出土遺物
ＰＬ15
D－16号住居跡出土遺物
D－17号住居跡出土遺物
D－18号住居跡出土遺物
ＰＬ16
D－18号住居跡出土遺物
D－19号住居跡出土遺物
D－20号住居跡出土遺物
D－22号住居跡出土遺物
D－１号溝出土遺物
D－41号土坑出土遺物

第１章　発掘調査に至る経緯と調査の経過

第１節　調査に至る経緯

駅南地区は、中之条町大字伊勢町の市街地南側にあり、北はＪＲ吾妻線、南は吾妻川に挟まれた東西1.1km、南北0.5km、面積約45万平方メートルの地区である。

この地区は、これまで主に農業用地として利用されてきたが、道路をはじめとする公共施設の整備改善が不充分な中で、県道や町道に沿って工場や住宅の建設が徐々に進行している状況にあり、将来、無秩序な市街化が生活環境の悪化をもたらすのではないかと懸念された。こうした状況を改善するために、中之条町駅南土地区画整理組合を事業主体として、幹線道路を根幹とした道路の整備を図り、公共設備を整備改善すると共に町の新しい市街地を造成することを目的とした、土地区画整理事業が計画された。

しかし、当地には、『群馬県遺跡台帳』に記載されている天神遺跡があるほか、一部の耕地には土器片が散在していることなどにより、弥生時代から平安時代の遺物包蔵地であると認識されていた。加えて、中世の城館跡である小城跡や伊参城跡も存在している。

町教育委員会と開発課（平成３年４月から都市計画課、平成10年４月から土木課都市計画係）が、当地における埋蔵文化財の取り扱いについて協議・調整を重ねた結果、道水路部分及び遺構が破壊される切土部分については、まず、埋蔵文化財の確認調査を行い、遺構が確認された区域については更に発掘調査を実施し、記録保存の措置を図ることで合意した。

第２節　調査の方法と経過

遺跡の名称については、小字名により、上原、天神、川端遺跡とし、更に各遺跡を工事計画の区画をもとにアルファベットで区割りした。また、これらの三遺跡を伊勢町地区遺跡群と総称して調査を実施していくこととした。調査は、工事の実施計画に合わせて試掘調査を行い、遺構が確認された区域については、適宜調査区を設定して本発掘調査を実施した。なお、遺跡群の試掘調査は、昭和62年度から平成２年度にかけて、国庫補助事業として実施した。

上原遺跡については、Ａ～Ｆ区までの六区分とし、Ａ・Ｂ区は昭和62年度に、Ｃ・Ｄ・Ｅ・Ｆ区については昭和63年度に試掘調査を実施した。この結果、Ａ・Ｂ・Ｄ区において遺構が確認され、本発掘調査を実施した。

このうち、Ｄ区についてはすでに住宅建設が進んでいる区域で、工事も道路整備が主であったので、新設道路を中心にその周囲の切り土部分が調査対象となった。したがって、試掘トレンチにより遺構が確認された部分について、適宜拡幅して調査区を設定したため、調査区が分散することになり、更にＤ－１～５区と細分して調査を実施した。また、調査区の設定にあたっては、安全対策について特に考慮し、宅地への交通確保のために、現況道路部分を除くなどの措置をとる一方で、可能な部分については遺構の検出状況に応じて若干の拡張を行うなど臨機に対応した。

発掘調査は工事の実施計画や事業の進行状況に応じて行ったので、部分的な調査を積み重ねていくという結果になった。各区における調査実施期日及び面積は以下の通りである。

A区（第１次）	昭和63年５月11日～昭和63年７月23日	(1,630㎡)
〃（第２次）	平成元年７月18日～平成元年８月５日	(850㎡)
B区	昭和63年７月６日～昭和63年７月23日	(800㎡)
D－１区	平成元年２月３日～平成元年３月20日	(240㎡)
D－２区	平成元年４月17日～平成元年５月22日	(240㎡)
D－３区（第１次）	平成元年４月19日～平成元年６月８日	(150㎡)
〃（第２次）	平成元年10月12日～平成元年12月６日	(1,050㎡)
D－４区	平成元年６月12日～平成元年７月６日	(200㎡)
D－５区（第１次）	平成元年９月11日～平成元年10月16日	(180㎡)
〃（第２次）	平成２年７月17日～平成２年７月31日	(500㎡)

本発掘調査は、重機による表土除去の後、人力により遺構確認作業を行った。なお、A・B区については、試掘調査の結果をもとに更に２m幅のトレンチを設定して、遺構の分布状況を把握した上で表土除去を行った。検出された遺構については、覆土除去作業を行った後、平・断面図を作成し、合わせてモノクロ及びリバーサルフィルムによる写真撮影を行った。遺構平・断面図の縮尺は20分の１を基本としたが、遺構によっては10分の１や40分の１の縮尺を選択して作成し、調査区全体図については100分の１で作成した。

調査におけるグリッドの設定方法についてであるが、A区においては、国家座標のX＝64,920．Y＝－87,248を起点として、４m単位で東西ラインには西へ向かってアルファベットを、南北ラインには南へ向かってアラビア数字を割り当てた。また、B区については、中世の溝やピットが若干検出されただけであったので、A区から移動した座標点をもとに仮グリッドを設定して調査を実施した。しかし遺跡ごと、あるいは調査区ごとにではなく、伊勢町地区遺跡群全体をカバーする統一したグリッドを設定した方が調査や整理作業を行う上で効率的であろうとの考えから、D－１区の調査からは設定単位を５mに改めた上で、A区と同様の方法でグリッド設定を行った。すなわち、地区の最北西に当たるX＝65,100．Y＝－87,900を起点とし、東西ラインにはアルファベットのAからTまでを、南北ラインにはアラビア数字を割り当てた。なお、東西ラインのアルファベットには更にアラビア数字を付し、100mごとに１つずつ加えていくこととした。呼称は、東西－南北という順序で、北東隅のポイントをもって表した。

第２章　遺跡の位置及び周辺の遺跡

第１節　遺跡の位置

中之条町は群馬県の北西部、吾妻郡の東部に位置する。町の中央部を四万川が、東部を名久田川が南流し、南部を流れる吾妻川に注ぐ。これらの河川の合流点付近には中之条盆地と呼ばれる山間盆地が発達している。また、上記河川の流域に数段の河岸段丘が発達し、吾妻川流域の河岸段丘上に中之条町、吾妻町の市街地が形成され、他の河川の河岸段丘上にも平坦面を中心に住宅地や耕地が形成されている。

土地区画整理事業が実施された駅南地区は、中之条町の最南部、吾妻川の左岸に形成された河岸段丘上の平坦地に位置しており、北はＪＲ吾妻線、東は桃瀬川、西は胡桃沢川を境界とした地域である。なお、現在

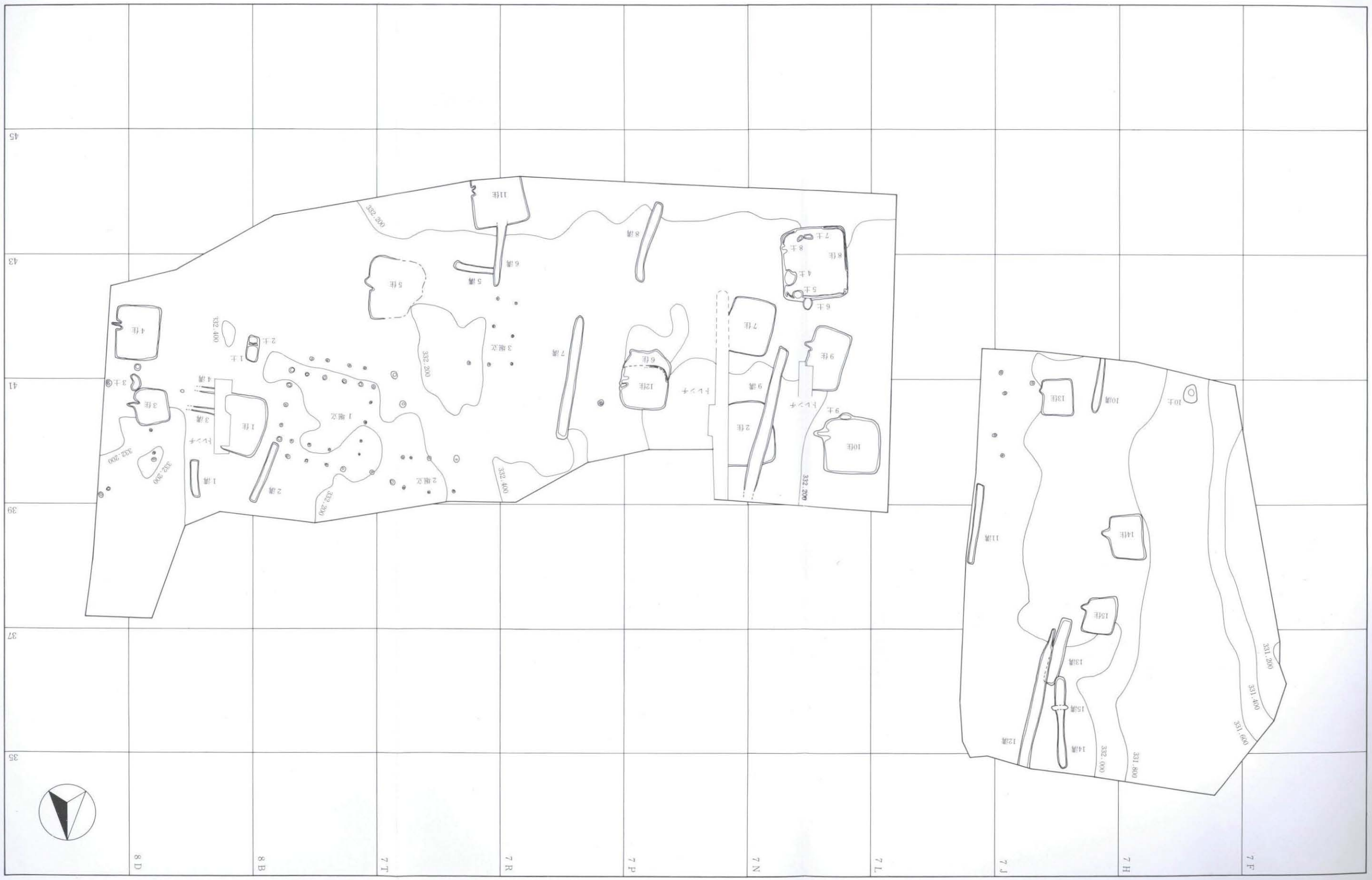
第1図　調査区及びグリッド設定図（1／2,500）

は工事の実施により失われたが、当時は地区の中央を10m程の段丘涯が東西に走っており、これによって上下二段に分かれていた。

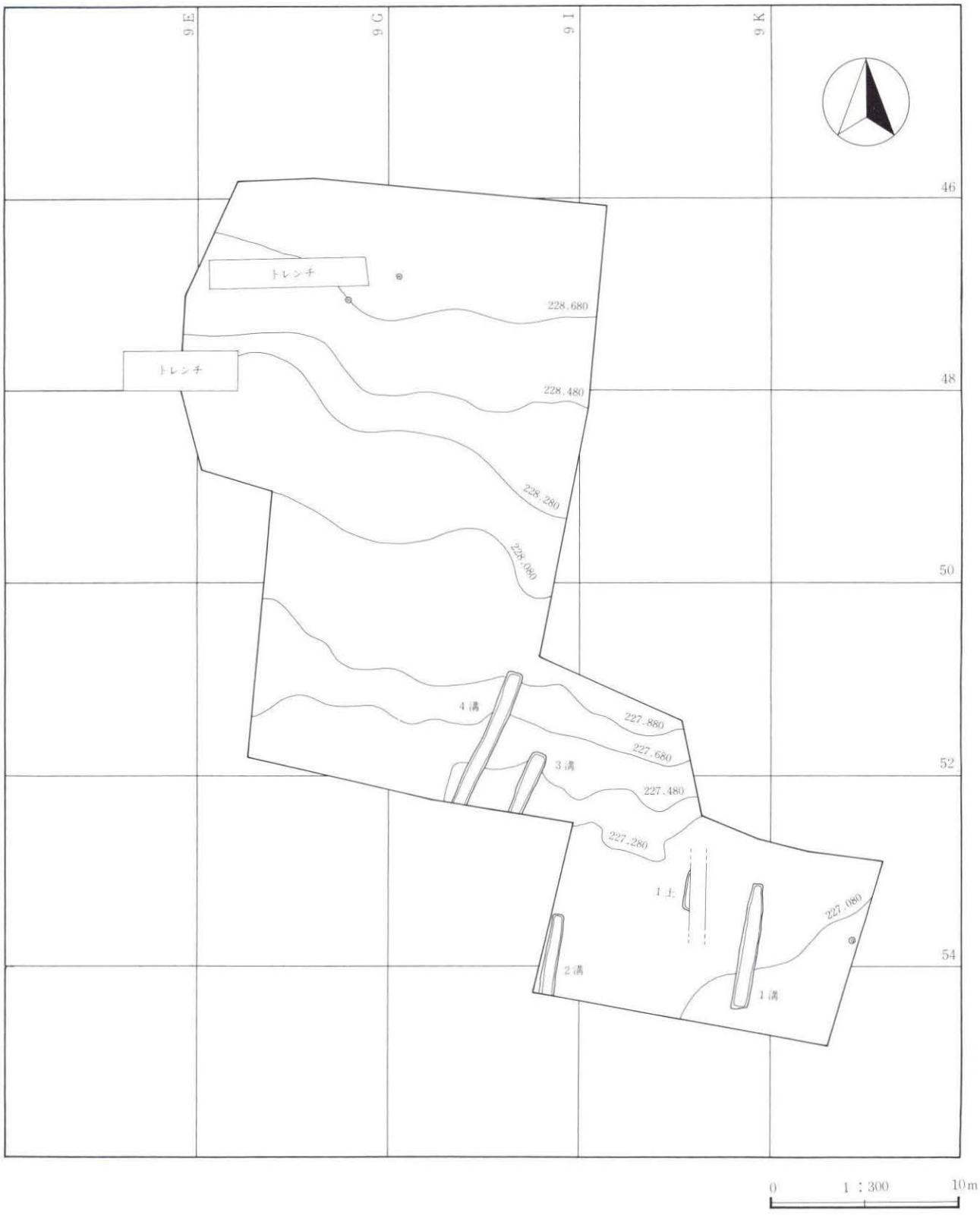
昭和63年度から平成２年度にかけて断続的に調査を実施した上原遺跡は、中之条町大字伊勢町字上原に所在し、駅南地区の北東部に位置している。当時の地形では、二段に分かれていた駅南地区の上段部に立地しており、遺跡の西側は地区の境界である桃瀬川が、ほぼ中央部を五良沢がともに段丘を浸食しながら南流していた（五良沢は現在都市下水路として改修されている）。標高は330m前後、当時調査地のほとんどは水田・畑であった。

第２図　遺跡の位置と周辺の遺跡(1/50,000)

1　上原遺跡	2　天神遺跡	3　川端遺跡	4　五十嵐遺跡	5　宿割遺跡	6　柳沢遺跡
7　下平遺跡	8　下尻高遺跡	9　中沢遺跡	10　長岡遺跡	11　七日市遺跡	12　桃瀬遺跡
13　小塚遺跡	14　石の塔古墳	15　小川古墳群	16　笛吹塚古墳	17　小塚古墳	18　樋塚古墳
19　名久田８号墳	20　天台瓦窯遺跡	21　菅田遺跡			


1：300
10m
35
37
39
41
43
45
7 F
7 H
7 J
7 L
7 N
7 P
7 R
7 T
8 B
8 D
1住
2住
3住
4住
5住
6住
7住
8住
9住
10住
11住
12住
13住
14住
15住
1土
2土
3土
4土
5土
6土
7土
8土
9土
10土
1溝
2溝
3溝
4溝
5溝
6溝
7溝
8溝
9溝
10溝
11溝
12溝
13溝
14溝
15溝
1 堀北
2 堀北
3 堀北
トレンチ
332.200
332.400
331.200
331.400
331.600
331.800
332.000

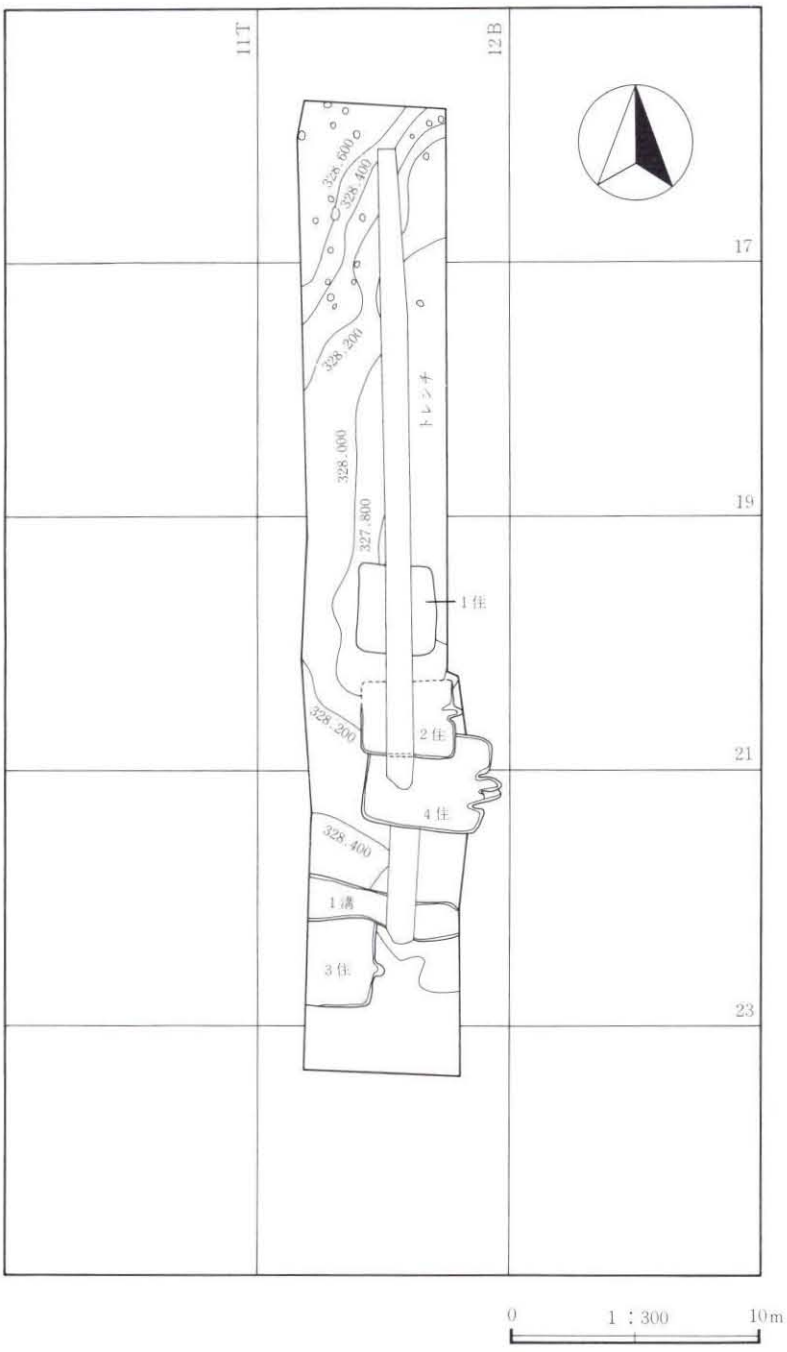
第3図　A区全体図


9E
9G
9I
9K
46
48
50
52
54
トレンチ
トレンチ
228.680
228.480
228.280
228.080
227.880
227.680
227.480
227.280
227.080
4溝
3溝
2溝
1溝
1土
0
1：300
10m

第４図　Ｂ区全体図

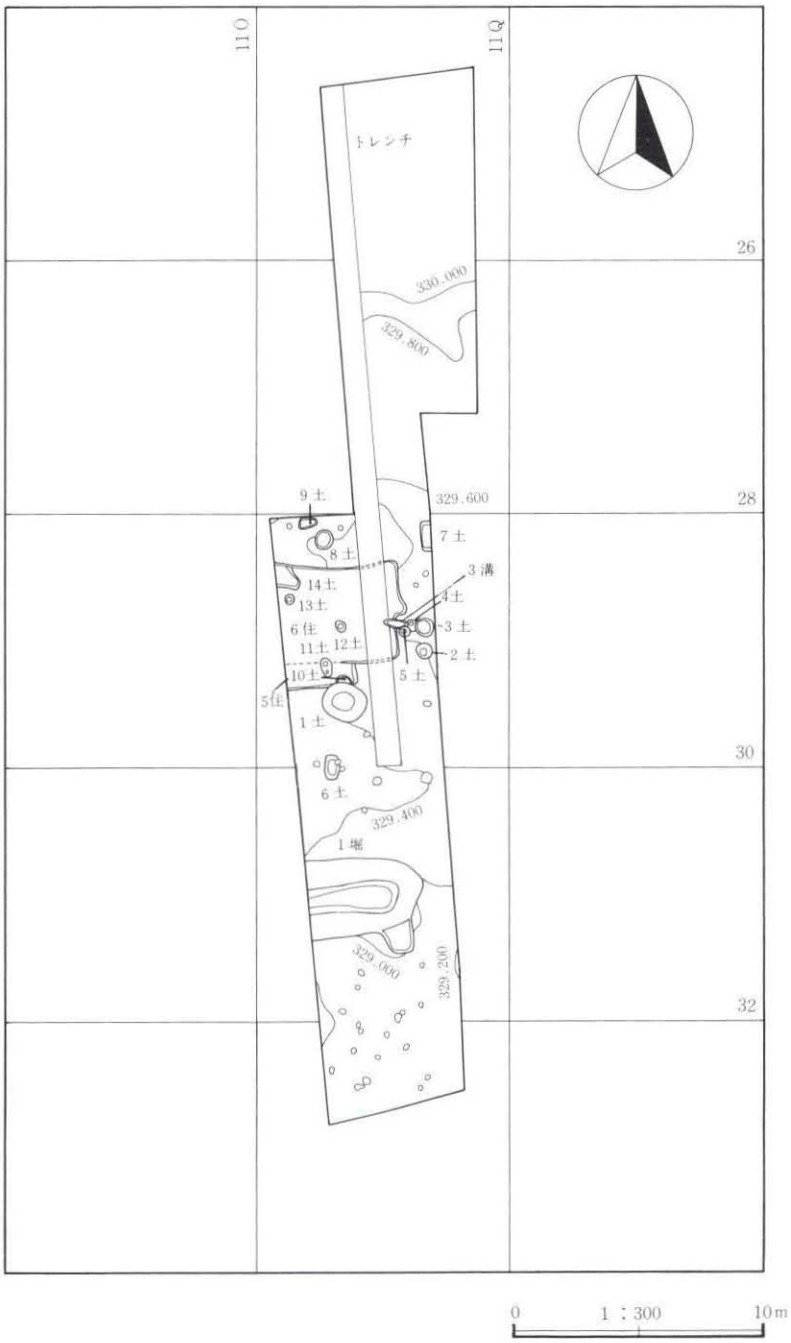
（2）B区

A区の東側、県道植栗・伊勢町線の西側に位置する。検出された遺構は、溝4条、土坑1基、ピット3基である。いずれも粕川軽石を主体とする暗褐色土を覆土としており、中世の遺構と考えられる。



第5図　D－1区全体図

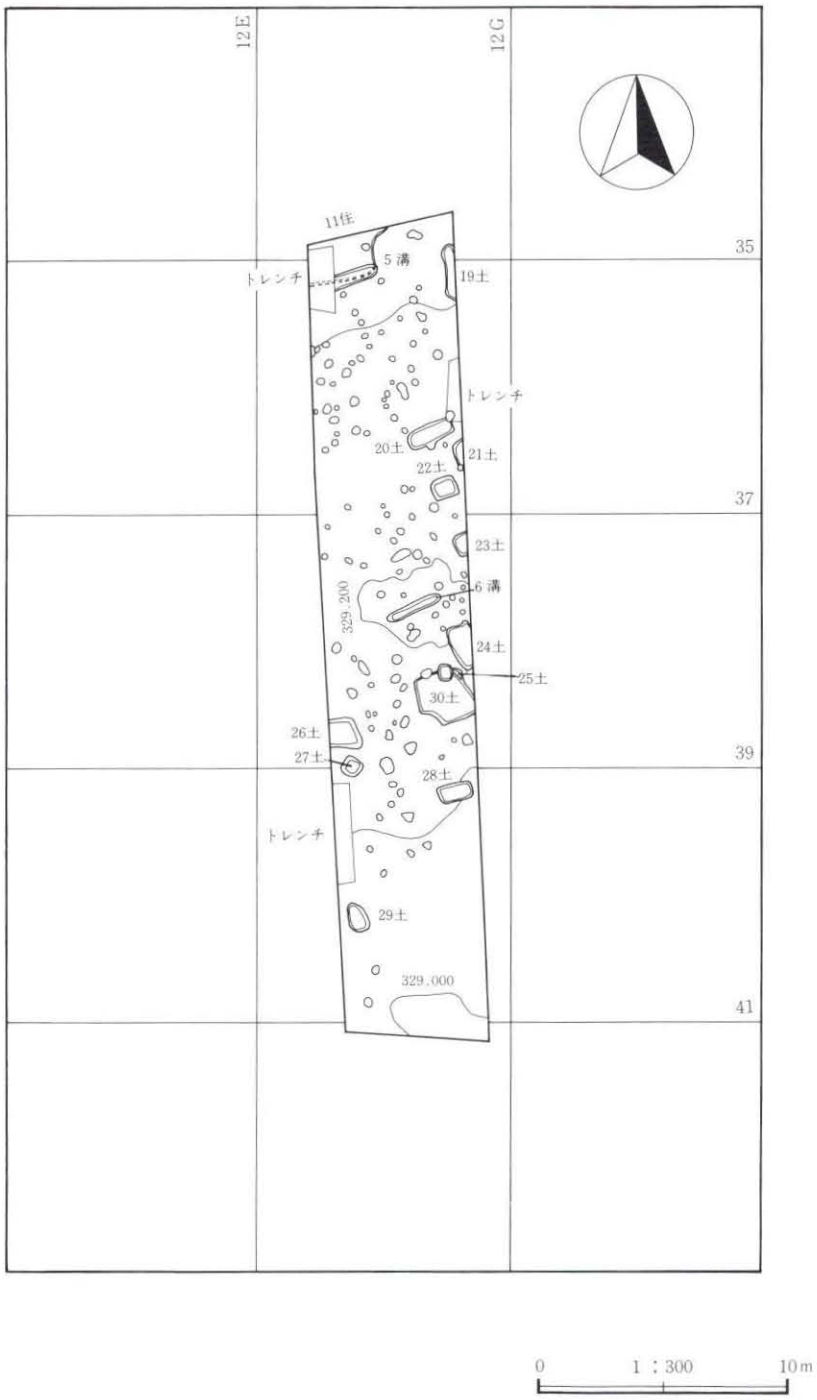
なお、当地は中世の館跡とされる伊参城の推定地でもある。よって、遺構の分布状況を把握するための試掘調査を実施した際に、伊参城関連の遺構の検出に努めたものの、確認することはできなかった。



第6図　D－2区全体図

11J
11L
7住
36土
16住
331.200
34土
15住
8住
20住
37土
35土
9住
17住
9溝
331.000
330.800
330.600
18住
21住
32土
15土
17土
18土
4溝
11溝
10溝
16土
38土
52土
53土
45土
39土
19住
46土
40土
48土
51土
41土
47土
44土
330.400
330.200
10住
14住
33土
48土
49土
50土
12溝
22住
13住
15
17
19
21
23
0
1：300
10m

第7図　D－3区全体図

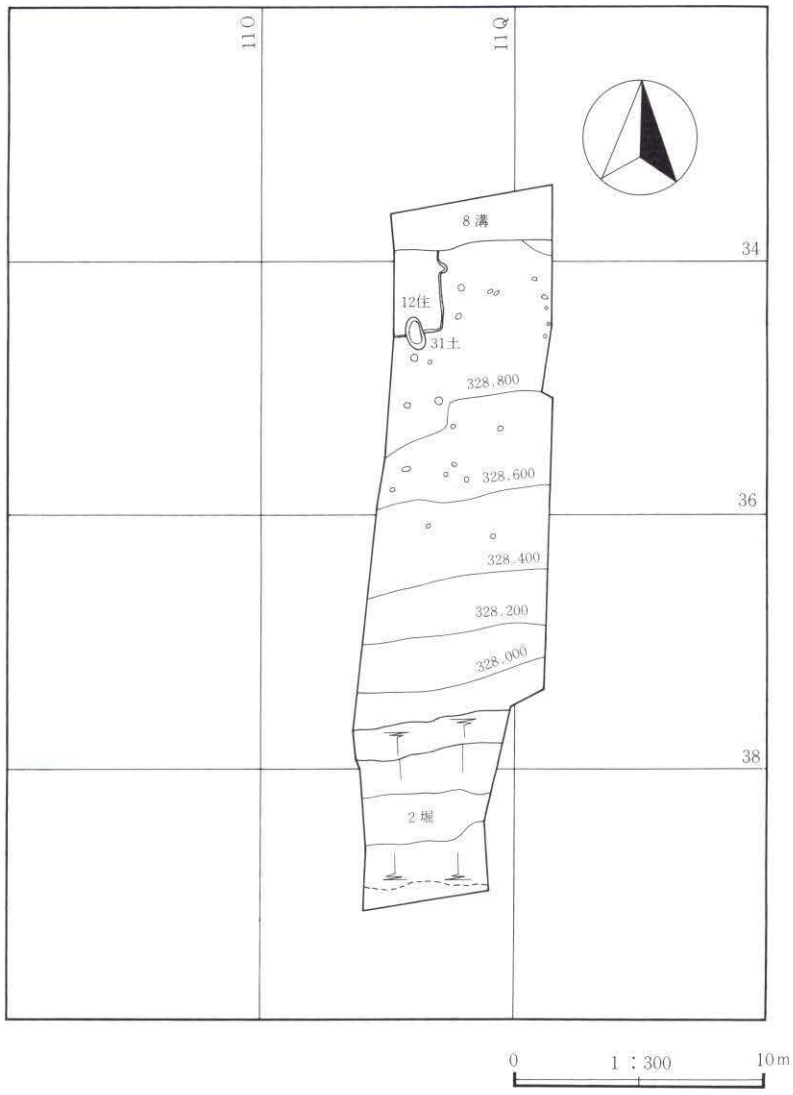

12E
12G
35
37
39
41
11住
5溝
トレンチ
19土
トレンチ
20土
21土
22土
23土
6溝
329.200
24土
25土
30土
26土
27土
28土
トレンチ
29土
329.000
0
1：300
10m

第8図　D－4区全体図

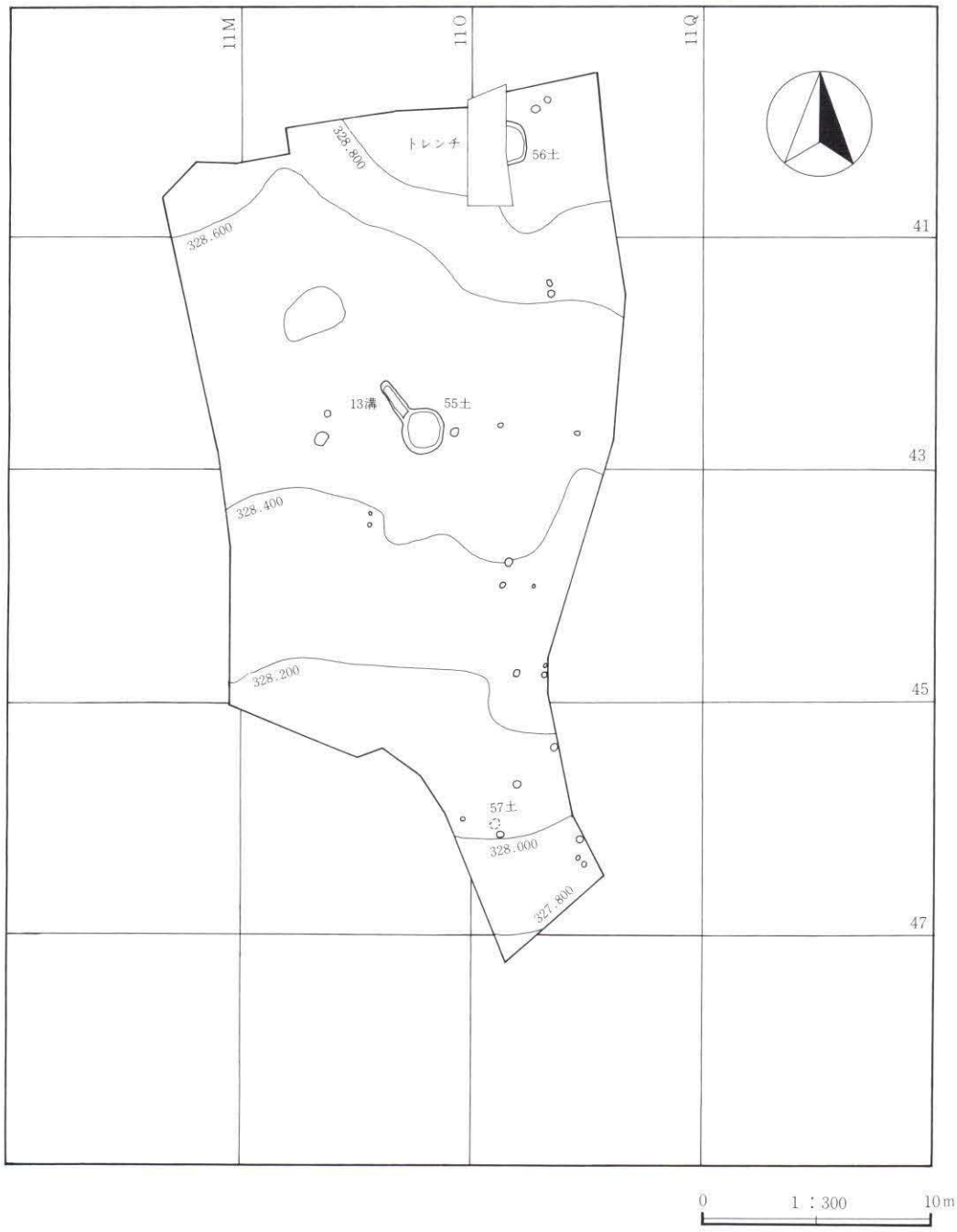
（3）D区

駅南地区の東端部に位置する。五良沢と桃瀬川に挟まれたこの区域は、小城と呼ばれる戦国時代の城跡の推定地でもある。

検出された遺構は、竪穴式住居跡22軒、溝11条、土坑57基、堀２条、ピット273基である。主な遺構について細分区ごとにみると、D区の北東に位置するD－１区では住居４・溝１、中央に位置するD－２区では住居２・溝１・土坑13・堀１、北側に位置するD－３区では住居14・溝５・土坑26、南東に位置するD－４区では住居１・溝２・土坑14、南側に位置するD－５区では住居１・溝２・土坑４・堀１である。住居跡の年代は古墳時代２軒、奈良時代５軒、平安時代12軒、時期不明３軒であった。



第９図　D－５区全体図①

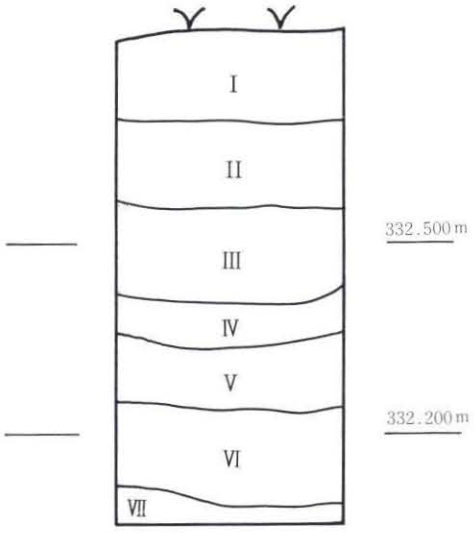


第10図　D－5区全体図②

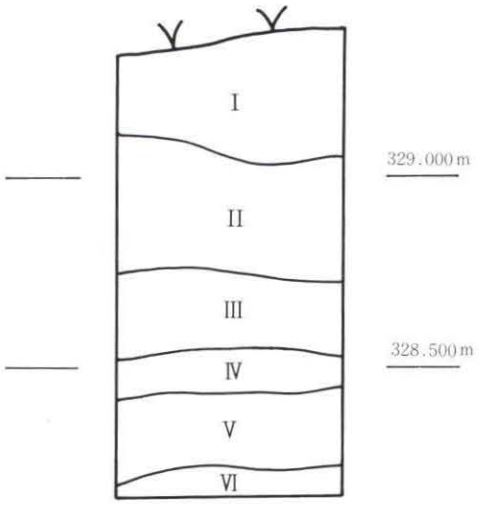
第2節　基本土層

A・B・D区の土層については、以下に示すとおりである。調査区により若干の高低差はあるものの、層序に大きな変化は見られない。

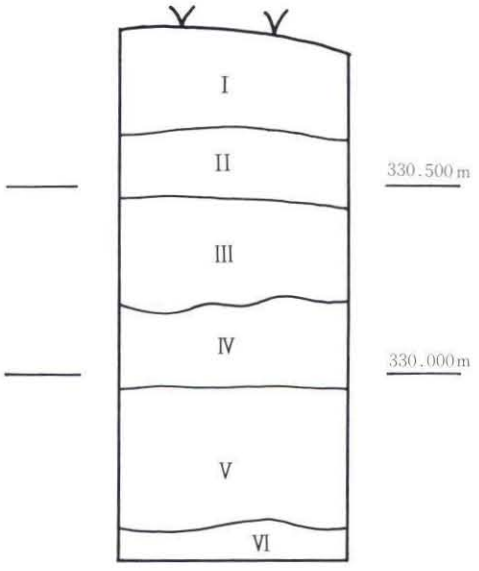
A区



B区



D区



A区

Ⅰ	耕作土	
Ⅱ	粕川軽石層	黒褐色の色調を呈する。
Ⅲ	暗褐色土	ＦＡブロック（小）を少量含む。パミスを微量含む。
Ⅳ	ＦＡ層	黄褐色のブロック状。
Ⅴ	黒褐色土	パミスを少量含む。
Ⅵ	暗褐色土	パミスを微量含む。
Ⅶ	ローム層	

B区

Ⅰ	耕作土	
Ⅱ	粕川軽石層	上位は黒褐色、下位は灰褐色の色調を呈する。
Ⅲ	暗褐色土	ＦＡ粒子を多く含む。ＦＡブロック（大）を微量含む。パミスを微量含む。
Ⅳ	ＦＡ層	
Ⅴ	黒褐色土	ロームブロック（小）を微量含む。
Ⅵ	ローム層	

D区

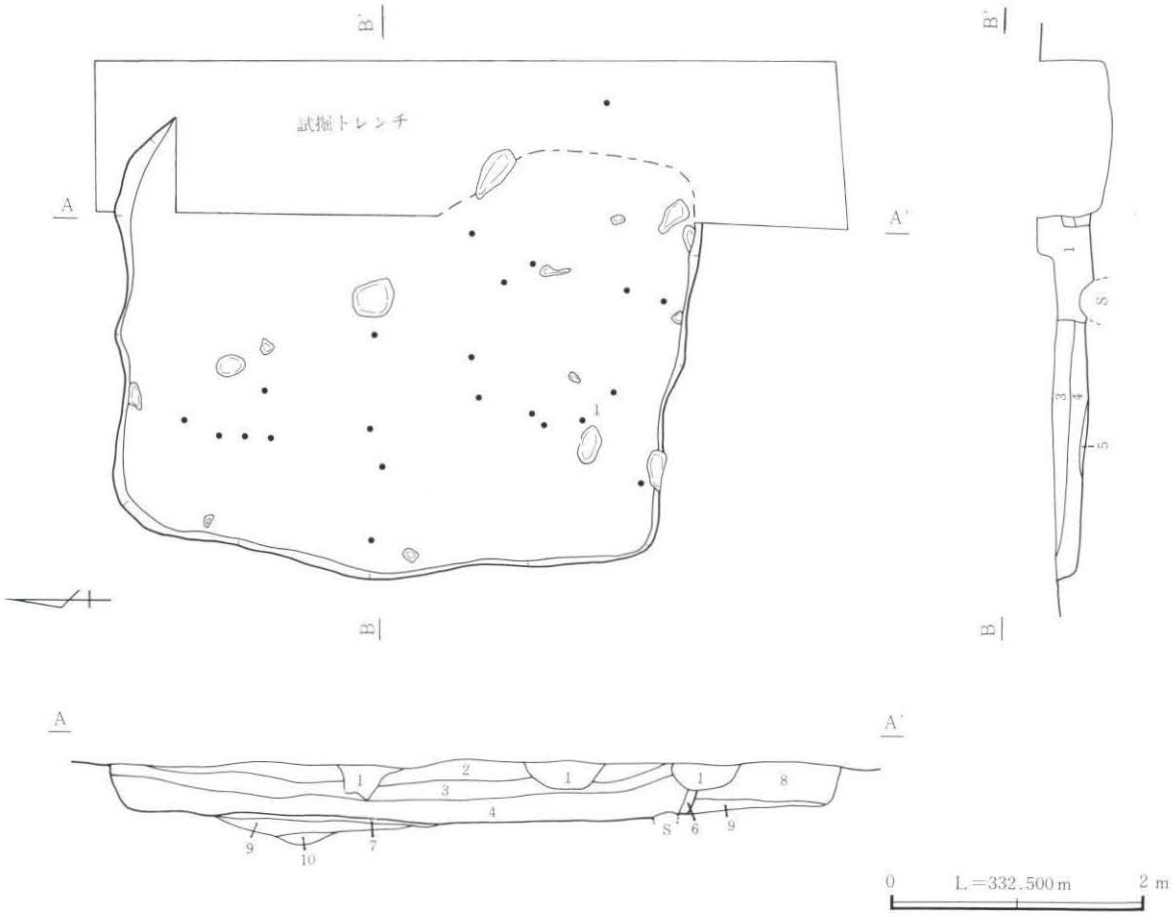
Ⅰ	耕作土	
Ⅱ	粕川軽石層	上位は黒褐色、下位は灰黄褐色の色調を呈する。
Ⅲ	暗褐色土	ＦＡブロックを少量含む。
Ⅳ	ＦＡ層	
Ⅴ	黒褐色土	ローム粒子を少量含む。
Ⅵ	ローム漸移層	

第11図　基本土層

第４章　検出された遺構と遺物

第１節　上原遺跡Ａ区

（１）　竪穴式住居跡

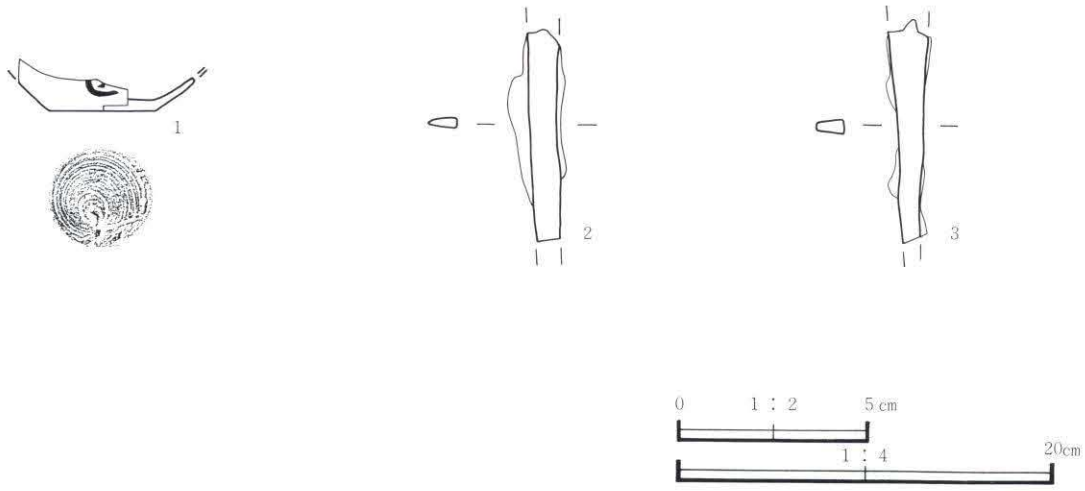


Ａ－１号住居跡
1．暗褐色土　粕川軽石多量。
2．暗褐色土　ＦＡ粒を少量。
3．暗褐色土　ＦＡ粒含む。ＦＡブロック（小）微量。カーボンブロック微量。
4．暗褐色土　ＦＡ粒多量。ＦＡブロック（小）少量。カーボンブロック少量。焼土ブロック（小）微量。
5．暗褐色土　４層に灰を含む。
6．黒褐色土　ＦＡ粒少量。
7．暗褐色土　ＦＡ粒少量。ＦＡブロック（小）少量。ロームブロック（小）少量。貼り床。
8．黒褐色土　ＦＡ粒微量。
9．ローム漸移層
10．ローム層

第12図　Ａ－１号住居跡

A－1号住居跡

位置　第1次調査区の東側、O4・5グリッドに位置する。　**形状**　東壁が試掘トレンチに切られるが、南北方向を長辺とする長方形であったと推定される。　**規模**　長辺4.64m、短辺不明。壁高31cm。　**主軸方位**　N－95°－E。　**床面**　ローム漸移層で構築。ロームブロック、FAブロックを含む暗褐色土で床を貼っている。平坦で、壁際を除き残存状態は良好であった。　**竈**　調査では検出されていないが、削平された東壁に設置されていたと推定される。　**柱穴**　検出されなかった。　**貯蔵穴**　検出されなかった。　**周溝**　検出されなかった。　**遺物**　須恵器の坏、鉄製刀子が出土している。量的には少ない。　**時代**　平安時代。



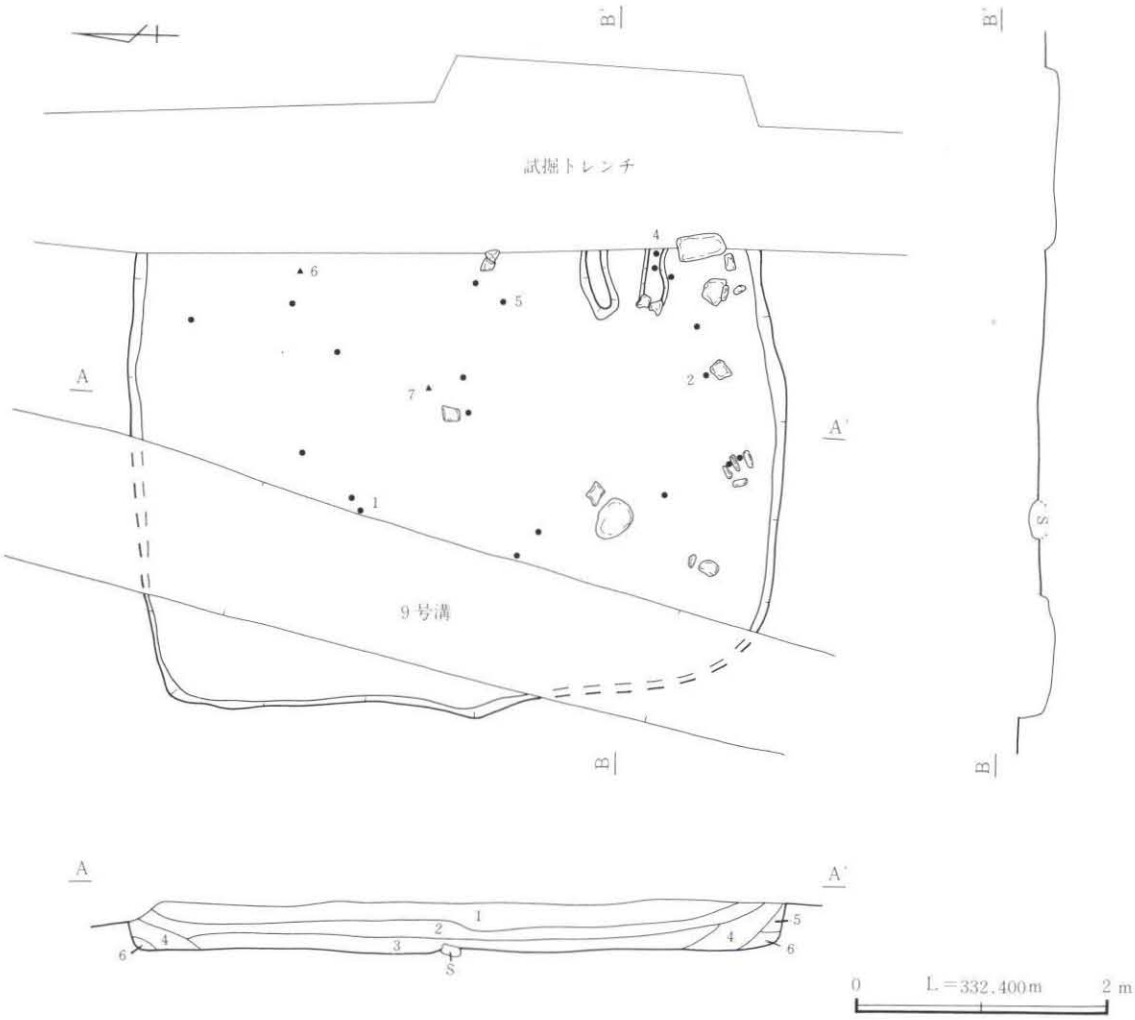
第13図　A－1号住居跡出土遺物

A－1号住居跡出土遺物観察表

遺物番号	土器種別 器種	出土位置 残存状況	法量(cm)	①胎土 ②色調 ③焼成	成・整形技法の特徴	備考
1	須恵器 坏	＋10cm 1/3	口 底 5.6 高	①細砂粒を微量 ②浅黄 ③良好	ロクロ整形、底部回転糸切り	体部外面に墨書
2	鉄製品 刀子	覆土	長さ（5.6）cm　幅0.9cm　厚さ0.3cm　重量9.8g			
3	鉄製品 刀子	覆土	長さ（5.9）cm　幅1.1cm　厚さ0.4cm　重量6.8g			

A－2号住居跡

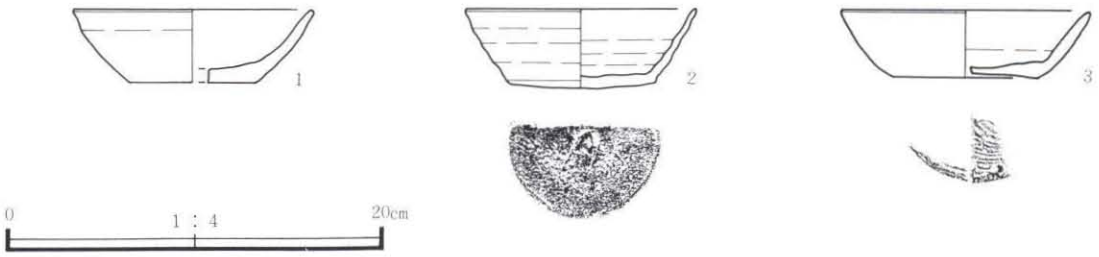
位置　第1次調査区の西側、D4・5、E4・5グリッドに位置する。　**形状**　東壁が試掘トレンチに切られるが、南北方向を長辺とする長方形と推定される。北壁から南西隅にかけて9号溝に切られている。　**規模**　長辺5.18m、短辺不明。壁高22cm。　**主軸方位**　N－88°－E。　**床面**　ローム漸移層で構築。ロームブロック、FAブロックを含む暗褐色土で床を貼っている。平坦で壁際を除き残存状態は良好であった。　**竈**　東壁のやや南寄りに設置されている。試掘トレンチに切られ、両袖の下部のみ検出された。　**柱穴**　検出されなかった。　**貯蔵穴**　検出されなかった。　**周溝**　検出されなかった。　**遺物**　土師器の坏・甕、須恵器の坏、鉄釘が出土している。　**時代**　平安時代。



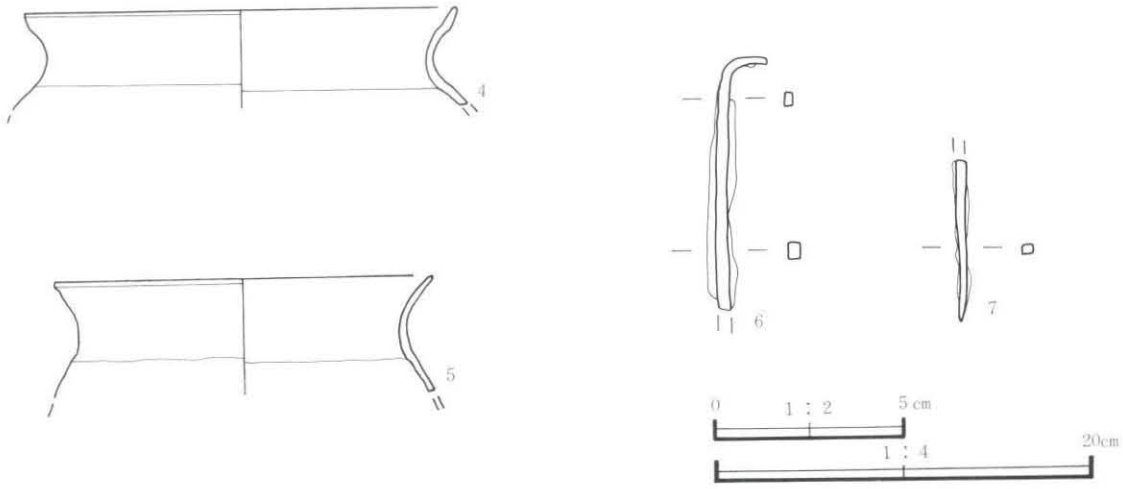
A－2号住居跡

1．暗褐色土　FA粒多量。FAブロック（小）微量、（中）微量。焼土ブロック（小）微量。カーボンブロック微量。
2．暗褐色土　FA粒含む。FAブロック（小）微量。ローム粒微量。焼土ブロック（小）少量。カーボンブロック少量。
3．暗褐色土　FAブロック（小）微量。ローム粒含む。焼土ブロック（小）含む。カーボンブロック含む。
4．暗褐色土　FAブロック（小）多量、（中）多量。ローム粒少量。カーボンブロック少量。
5．黒褐色土　FA粒微量。
6．明褐色土　FAブロック（小）微量。ローム粒多量。

第14図　A－2号住居跡



第15図　A－2号住居跡出土遺物①



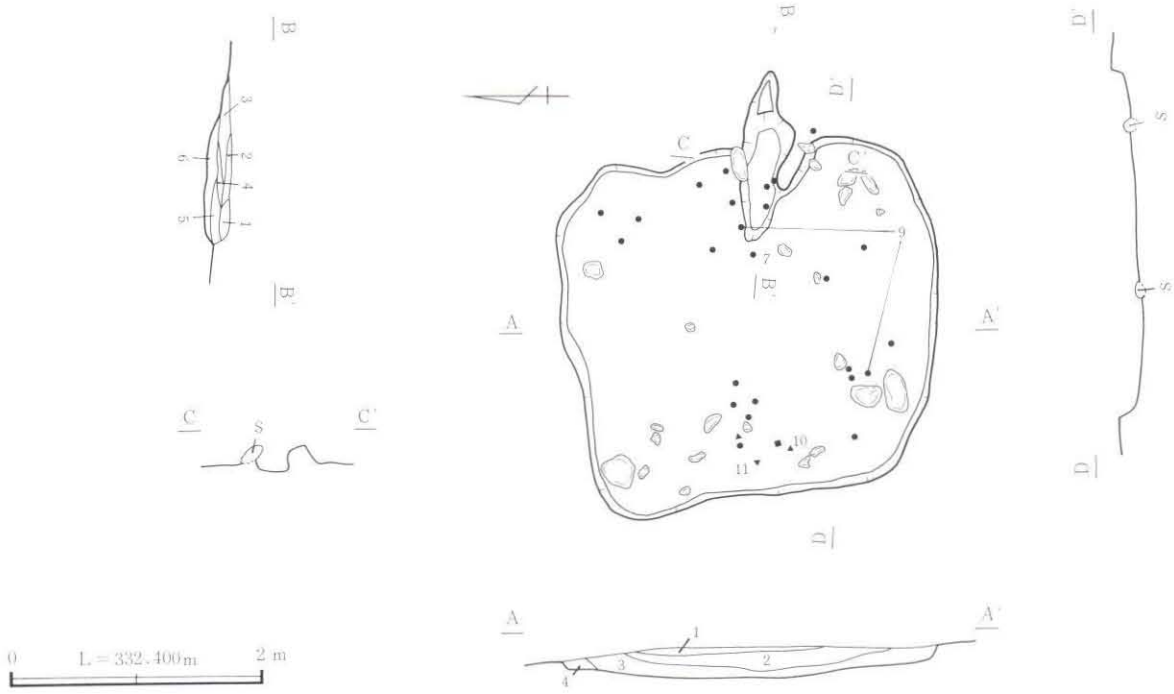
第16図　A－2号住居跡出土遺物②

A－2号住居跡出土遺物観察表

遺物番号	種類 器種	出土位置 残存状況	法量(cm)	①胎土 ②色調 ③焼成	成・整形技法の特徴	備考
1	土師器 坏	－3cm 1/4	口（12.6） 底（6.4） 高 3.9	①砂粒を微量 ②橙 ③普通	口縁部横撫で、体部外面撫で内面横撫で、底部撫で	
2	須恵器 坏	＋14cm 1/2	口（12.2） 底（7.8） 高 4.2	①砂粒を微量 ②灰白 ③良好	ロクロ整形、底部回転篦切り後周辺篦撫で	
3	須恵器 坏	覆土 1/3	口（13.2） 底（7.6） 高 3.6	①砂粒、小礫を含む ②灰黄褐 ③良好	ロクロ整形、底部回転糸切り	
4	土師器 甕	竈袖部 口縁部	口 22.8 底 高	①細砂粒・黒色鉱物粒含む ②にぶい橙 ③普通	口縁部横撫で、胴部外面篦削り、内面撫で	
5	土師器 甕	＋1cm 口縁部破片	口（20.0） 底 高	①砂粒含む ②赤褐 ③良好	口縁部横撫で、胴部外面篦削り、内面撫で	
6	鉄製品 釘	＋2cm	長さ（7.7）cm 幅0.4cm 厚さ0.4cm 重量8.9g			
7	鉄製品 釘	＋3cm	長さ（4.3）cm 幅0.3cm 厚さ0.3cm 重量1.8g			

A－3号住居跡

位置　第1次調査区の東端、P5、Q5・6グリッドに位置する。　**形状**　南壁がやや張り出した正方形。　**規模**　長辺（南北）3.05m、短辺（東西）2.80m。壁高16cm。　**主軸方位**　N－80°－E。　**床面**　暗褐色土層で構築。ほぼ平坦だが、残存状態は中央部のみ良好であった。　**竈**　東壁のやや南寄りに設置されている。前面から燃焼部にかけて5cm程落ち込んでおり、燃焼部と煙道部は段により分かれている。袖は右袖が検出され、左袖部には袖石のみ残存していた。　**柱穴**　検出されなかった。　**貯蔵穴**　検出されなかった。　**周溝**　検出されなかった。　**遺物**　須恵器の坏・皿・甑・羽釜、土師器の甕、鉄製紡錘車・刀子が出土している。　**時代**　平安時代。



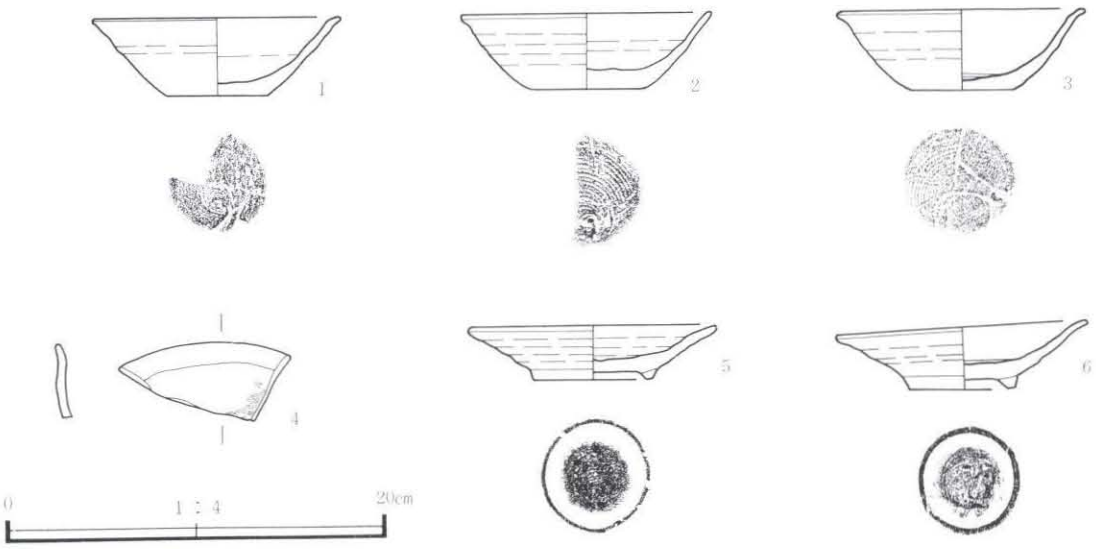
A－3号住居跡竈

1．暗褐色土　焼土粒多量。
2．暗褐色土　ＦＡ粒少量。ＦＡブロック（小）少量。
3．暗褐色土　ＦＡ粒微量。ＦＡブロック（小）微量。
4．暗褐色土　ＦＡ粒微量。ＦＡブロック（小）微量。焼土粒多量。焼土ブロック（小）少量。
5．橙色土　焼土。
6．暗褐色土　焼土ブロック（小）多量。カーボンブロック多量。灰含む。

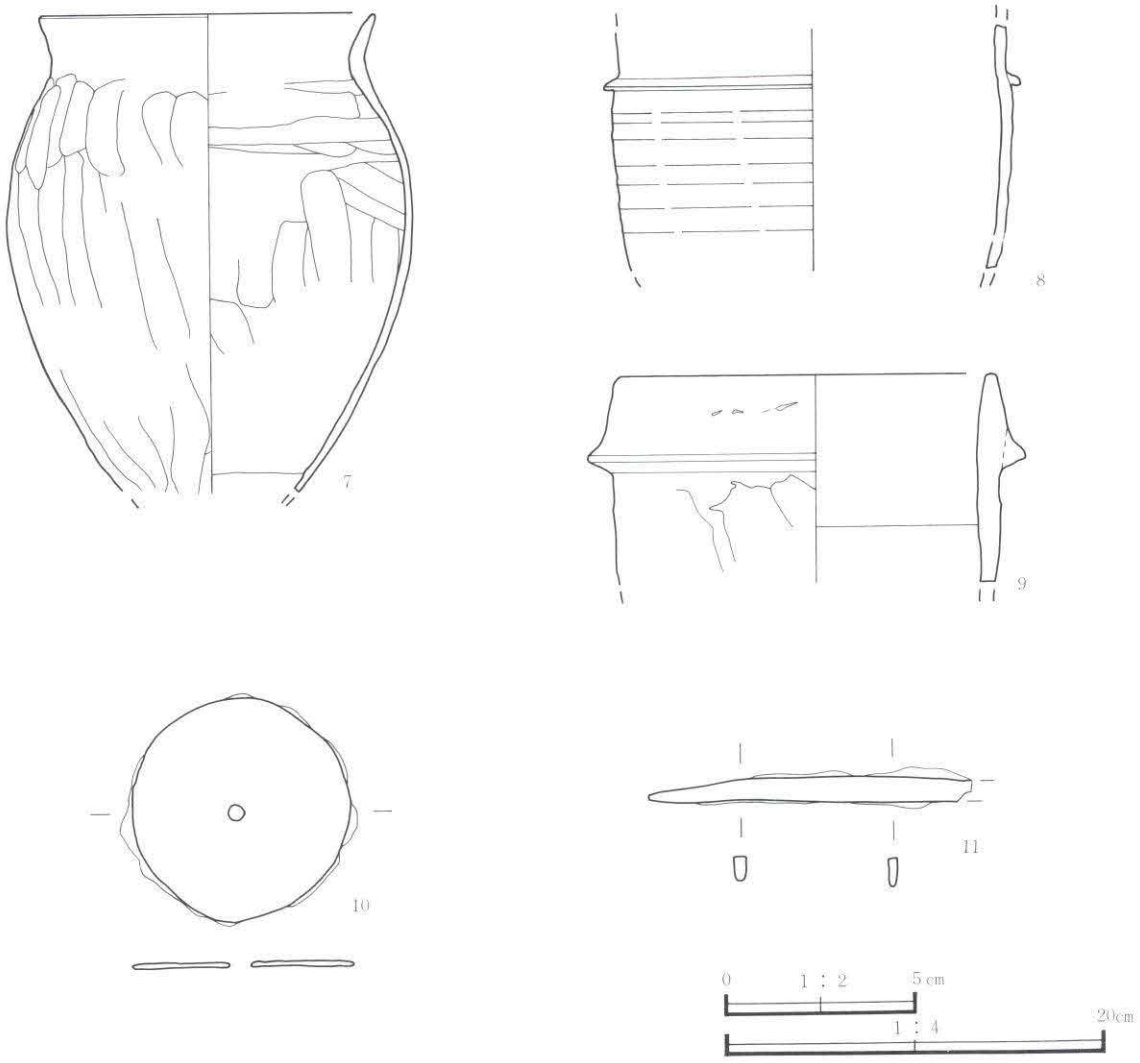
A－3号住居跡

1．暗褐色土　ＦＡ粒少量。ＦＡブロック（小）少量。
2．暗褐色土　ＦＡ粒含む。ＦＡブロック（小）少量。カーボンブロック少量。
3．暗褐色土　ＦＡ粒含む。ＦＡブロック（中）微量。黒褐色土ブロック（小）微量。
4．明褐色土　ＦＡ粒多量。

第17図　A－3号住居跡



第18図　A－3号住居跡出土遺物①

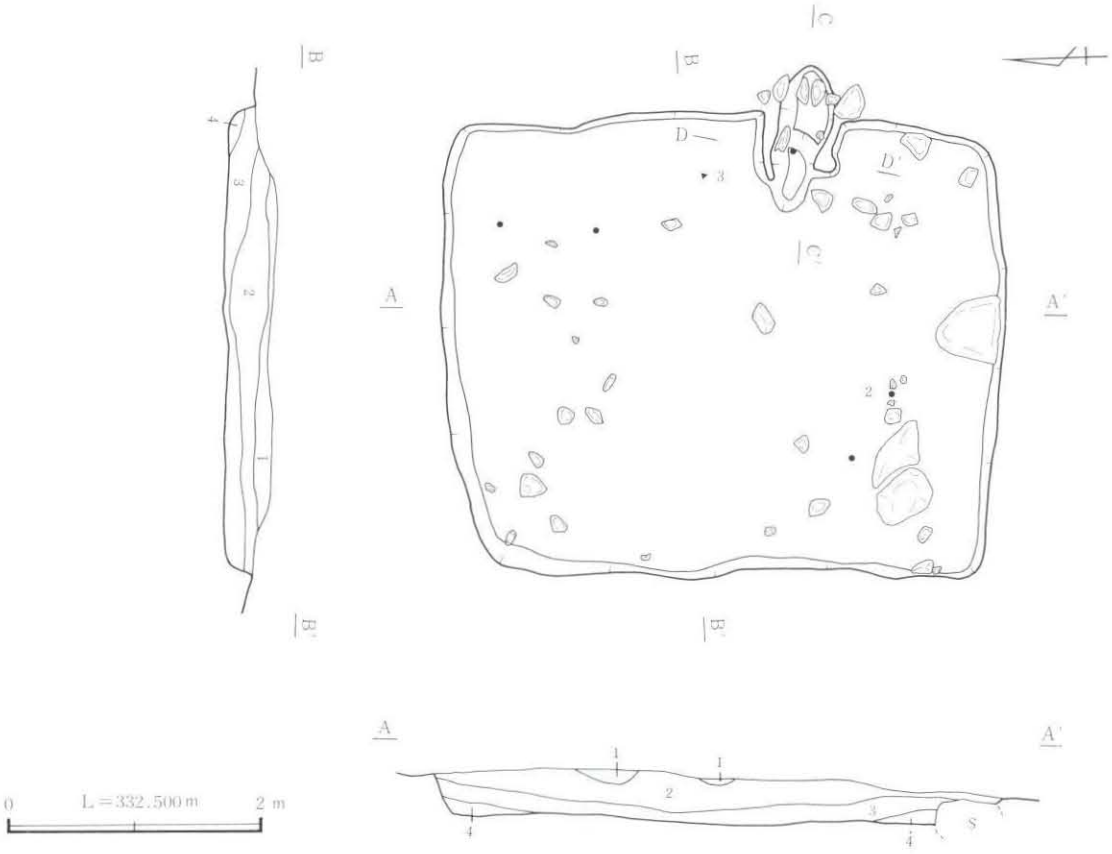


第19図　A－3号住居跡出土遺物②

A－3号住居跡出土遺物観察表

遺物番号	種類 器種	出土位置 残存状況	法量(cm)	①胎土 ②色調 ③焼成	成・整形技法の特徴	備考
1	須恵器 坏	覆土 1/2	口 (13.0) 底 (2.6) 高 4.2	①砂粒を微量 ②暗青灰 ③良好	ロクロ整形、底部回転糸切り	
2	須恵器 坏	覆土 1/2	口 (13.3) 底 (5.8) 高 4.0	①砂粒を微量 ②灰白 ③良好	ロクロ整形、底部回転糸切り	
3	須恵器 坏	覆土 1/2	口 (13.0) 底 5.4 高 3.7	①砂粒を微量 ②灰白 ③良好	ロクロ整形、底部回転糸切り	
4	須恵器 坏	覆土 破片	口 底 高	①細砂粒を微量 ②灰白 ③良好	ロクロ整形	体部内面に墨書
5	須恵器 皿	覆土 2/3	口 (13.2) 底 (6.2) 高 2.9	①砂粒を微量 ②灰白 ③良好	ロクロ整形、底部回転糸切り後高台貼付	

遺物番号	種類 器種	出土位置 残存状況	法量(cm)	①胎土 ②色調 ③焼成	成・整形技法の特徴	備考
6	須恵器 皿	覆土 1/2	口 13.4 底 5.6 高 3.7	①細砂粒を微量 ②浅橙 ③良好	ロクロ整形、底部回転糸切り後高台貼付	
7	土師器 甕	＋3cm 1/4	口 (17.6) 底 高	①細砂粒を微量 ②橙 ③良好	口縁部横撫で、胴部外面篦削り、内面撫で	
8	須恵器 甑	＋2cm 口～胴部 1/4	口 底 高	①粗砂粒を微量 ②にぶい赤褐 ③良好	ロクロ整形後鍔貼付	
9	須恵器 羽釜	竈 破片	口 (19.0) 底 高	①小礫微量・白色鉱物粒含む ②明赤褐 ③良好	ロクロ整形後鍔貼付、胴部外面篦削り	
10	鉄製品 紡錘車	＋2cm	径5.9cm 厚さ0.1cm 重量31.3g			
11	鉄製品 刀子	±0cm	長さ (8.5) cm 幅0.8cm 厚さ0.4cm 重量7.7g			

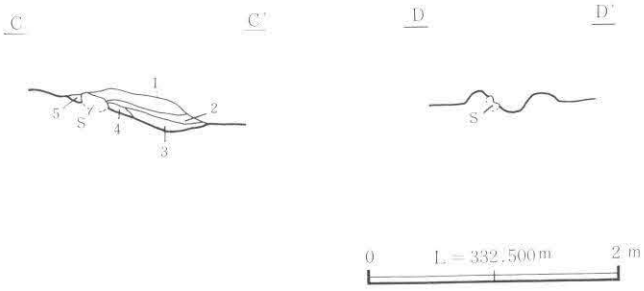


A－4号住居跡
1．暗褐色土　粕川軽石多量。
2．暗褐色土　FA粒含む。FAブロック（中）微量。
3．暗褐色土　FA粒含む。FAブロック（中）多量、（大）微量。焼土ブロック（小）少量。カーボンブロック少量。
4．暗褐色土　FA粒少量。

第20図　A－4号住居跡①

A－4号住居跡竈

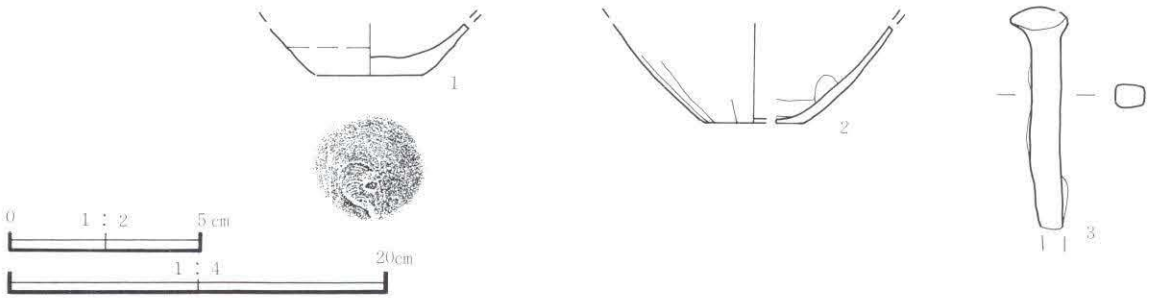
1．暗褐色土　FA粒少量。FAブロック（小）少量。
　　焼土粒少量。焼土ブロック（小）少量。
2．暗褐色土　FA粒微量。FAブロック（中）少量。
　　焼土粒少量。焼土ブロック（小）少量。
3．暗褐色土　焼土粒多量。焼土ブロック（小）多量。
4．暗褐色土　焼土粒やや多。焼土ブロック（小）やや多。
5．暗褐色土　FA粒少量。FAブロック（小）少量。



第21図　A－4号住居跡②

A－4号住居跡

位置　第1次調査区の東端、Q6・7グリッドに位置する。　**形状**　南北方向を長辺とする長方形。　**規模**　長辺4.09m、短辺3.78m。壁高34cm。　**主軸方位**　N－90°－E。　**床面**　ローム漸移層で構築。平坦だが、残存状態は中央部のみ良好で、全体的に礫が露出していた。　**竈**　東壁のやや南寄りに設置されている。前面から燃焼部にかけて4cm程落ち込んでおり、燃焼部と煙道部は段により分かれている。煙道部からは構築材と推定される礫が検出された。　**柱穴**　検出されなかった。　**貯蔵穴**　検出されなかった。　**周溝**　検出されなかった。　**遺物**　須恵器の坏、土師器の甕、鉄釘が出土している。土器の出土は少なく、ほとんどが破片であった。　**時代**　平安時代。



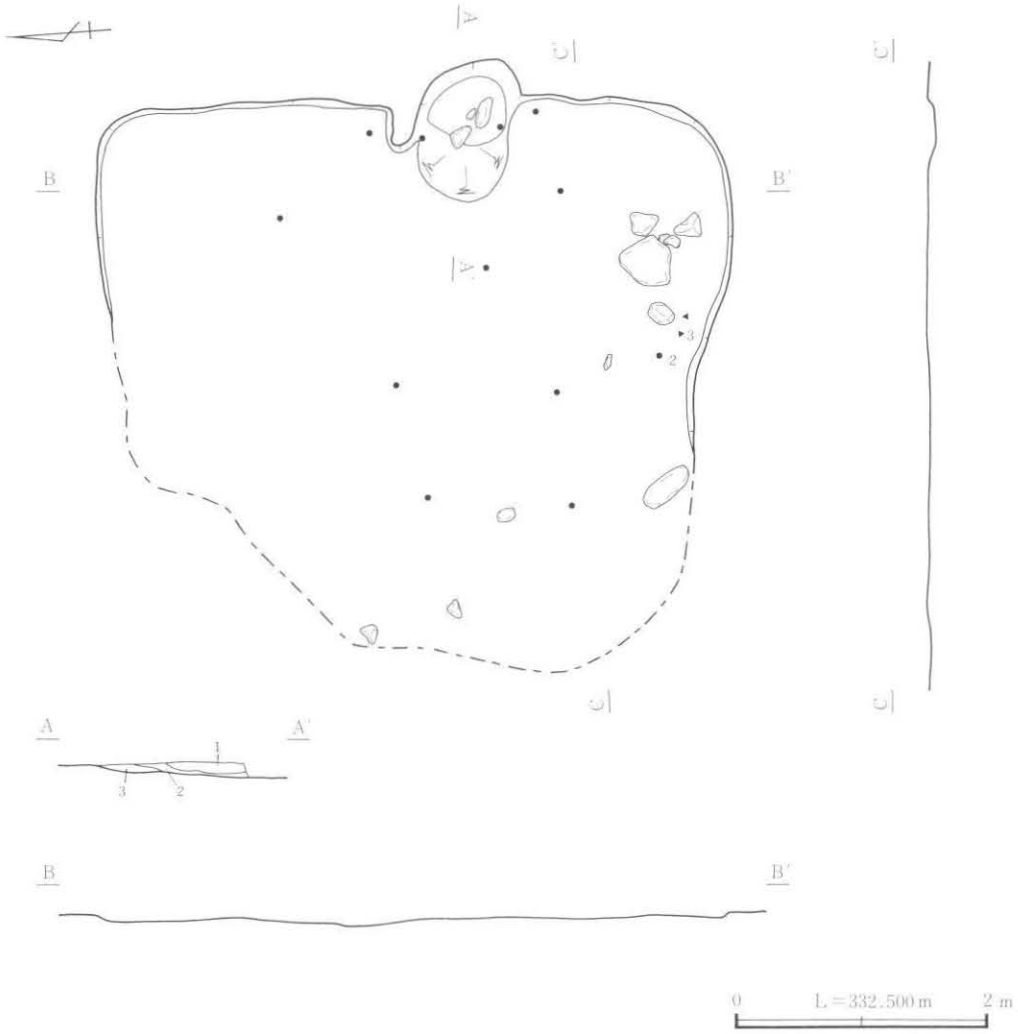
第22図　A－4号住居跡出土遺物

A－4号住居跡出土遺物観察表

遺物番号	種類 器種	出土位置 残存状況	法量(cm)	①胎土 ②色調 ③焼成	成・整形技法の特徴	備考
1	須恵器 坏	覆土 底部	口 底 5.5 高	①砂粒を微量 ②灰白 ③良好	ロクロ整形、底部回転糸切り	
2	土師器 甕	±0cm 底部破片	口 底（5.0） 高	①砂粒を微量 ②赤褐 ③良好	底部外面篦削り、内面篦撫で	
3	鉄製品 釘	＋4cm	長さ（5.9）cm　幅0.8cm　厚さ0.6cm　重量7.5g			

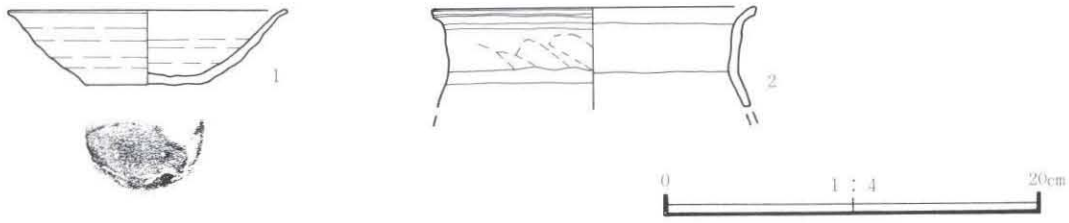
A－5号住居跡

位置　第1次調査区の中央付近、L7・8グリッドに位置する。　**形状**　西側が削平されたため不明。　**規模**　南北辺5.04m、東西辺不明。壁高8㎝。　**主軸方位**　N－95°－E。　**床面**　暗褐色土層で構築。調査し得た住居東側における残存状態は良好であった。　**竈**　東壁のほぼ中央に設置されている。前面から燃焼部にかけて緩やかに落ち込む。袖は左袖の下部がわずかに検出された。　**柱穴**　検出されなかった。　**貯蔵穴**　検出されなかった。　**周溝**　検出されなかった。　**遺物**　須恵器の坏、土師器の甕、鉄滓が出土している。量的にはきわめて少ない。　**時代**　平安時代。



A－5号住居跡竈
1．暗褐色土　粕川軽石多量。FAブロック（小）少量。焼土ブロック（小）少量。カクラン。
2．暗褐色土　焼土ブロック（小）少量。
3．暗褐色土　焼土粒多量。

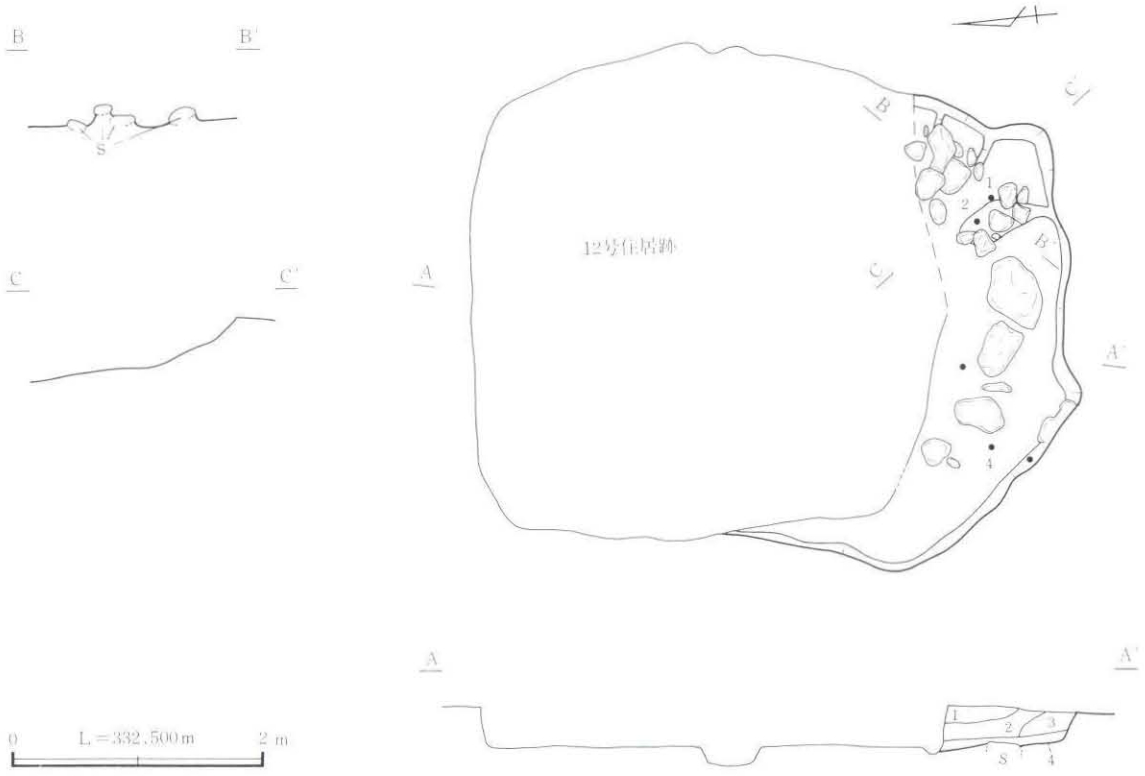
第23図　A－5号住居跡



第24図　A－5号住居跡出土遺物

A－5号住居跡出土遺物観察表

遺物番号	種類 器種	出土位置 残存状況	法量(cm)	①胎土 ②色調 ③焼成	成・整形技法の特徴	備考
1	須恵器 坏	覆土 1/2	口 (14.8) 底 (6.4) 高 4.0	①細砂粒を微量 ②明緑灰 ③良好	ロクロ整形、底部回転糸切り後撫で調整	
2	土師器 甕	＋9cm 口縁部破片	口 (17.2) 底 高	①小礫を微量 ②にぶい褐 ③良好	口縁部横撫で	口縁部外面に指頭痕
3	鉄滓	＋5cm	長さ14.7cm 幅12.0cm 高さ5.4cm 重量465g			

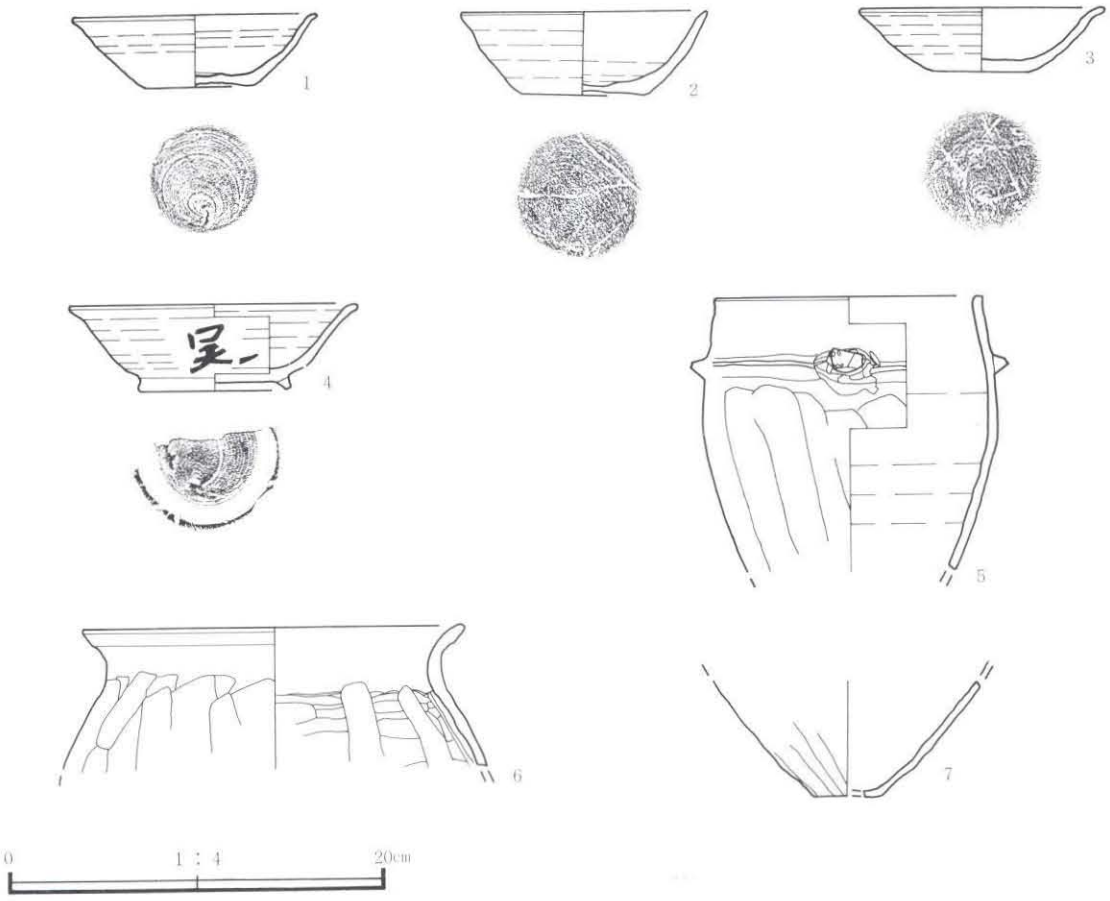


A－6号住居跡
1．暗褐色土　FA粒含む。FAブロック（小）、少量、（中）少量。焼土ブロック（小）微量。
2．暗褐色土　FA粒含む。FAブロック（小）少量、（中）少量。焼土ブロック（小）含む。カーボンブロック少量。
3．暗褐色土　FA粒含む。FAブロック（小）含む、（中）含む。ローム粒少量。
4．暗褐色土　FA粒微量。ローム粒含む。ロームブロック（小）微量。カーボンブロック少量。

第25図　A－6号住居跡

A－6号住居跡

位置　第1次調査区の西側、F6、G6グリッドに位置する。　**形状**　北側の大半を12号住居に切られ不明。　**規模**　東西辺（北西－南東）3.30m、南北辺（南西－北東）不明。壁高29cm。　**主軸方位**　N－137°－E。　**床面**　ローム層で構築している。大半を12号住に切られるが、調査し得た住居南側では、床面上で礫が検出された。　**竈**　東壁に設置されている。袖部から構築材の礫が検出された。焼土などは見られなかった。　**柱穴**　検出されなかった。　**貯蔵穴**　検出されなかった。　**周溝**　検出されなかった。　**遺物**　須恵器の坏・埦・羽釜、土師器の甕が出土している。覆土中からの出土も多かった。　**時代**　平安時代。

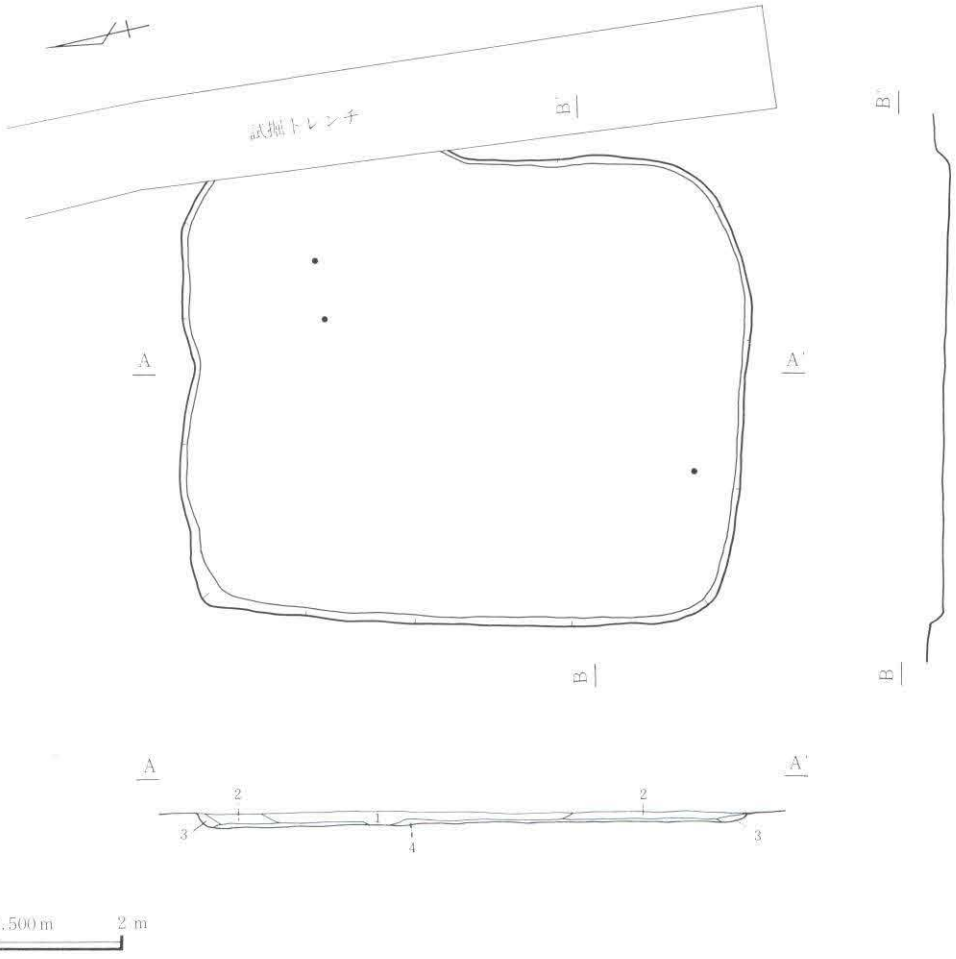


第26図　A－6号住居跡出土遺物

A－6号住居跡出土遺物観察表

遺物番号	種類 器種	出土位置 残存状況	法量(cm)	①胎土 ②色調 ③焼成	成・整形技法の特徴	備考
1	須恵器 坏	竈 ほぼ完形	口 12.9 底 5.7 高 3.8	①砂粒・黒色鉱物粒を微量 ②灰白 ③良好	ロクロ整形、底部回転糸切り	口縁一部欠損
2	須恵器 坏	竈 ほぼ完形	口 13.0 底 6.4 高 4.6	①砂粒を含む ②暗青灰 ③良好	ロクロ整形、底部回転糸切り	口縁一部欠損
3	須恵器 坏	覆土 4/5	口 13.0 底 5.8 高 3.4	①砂粒・黒色鉱物粒を微量 ②浅黄 ③良好	ロクロ整形、底部回転糸切り	

遺物番号	種類 器種	出土位置 残存状況	法量(cm)	①胎土 ②色調 ③焼成	成・整形技法の特徴	備考
4	須恵器 埦	＋3cm 1/2	口 (15.2) 底 (8.2) 高 4.5	①細砂粒を含む ②褐灰 ③良好	ロクロ整形、底部回転糸切り後高台貼付	体部外面に墨書
5	須恵器 羽釜	覆土 口～胴部 1/3	口 14.2 底 高	①砂粒・黒色鉱物粒を含む ②黄橙 ③普通	ロクロ整形後鍔・把手貼付、胴部篦削り	
6	土師器 甕	覆土 口～胴上部3/5	口 20.2 底 高	①細砂粒を含む ②橙 ③良好	口縁部横撫で、胴部外面篦削り内面篦撫で	
7	土師器 甕	覆土 底部	口 底 (3.6) 高	①細粒を含む ②にぶい黄橙 ③良好	外面篦削り、内面撫で	

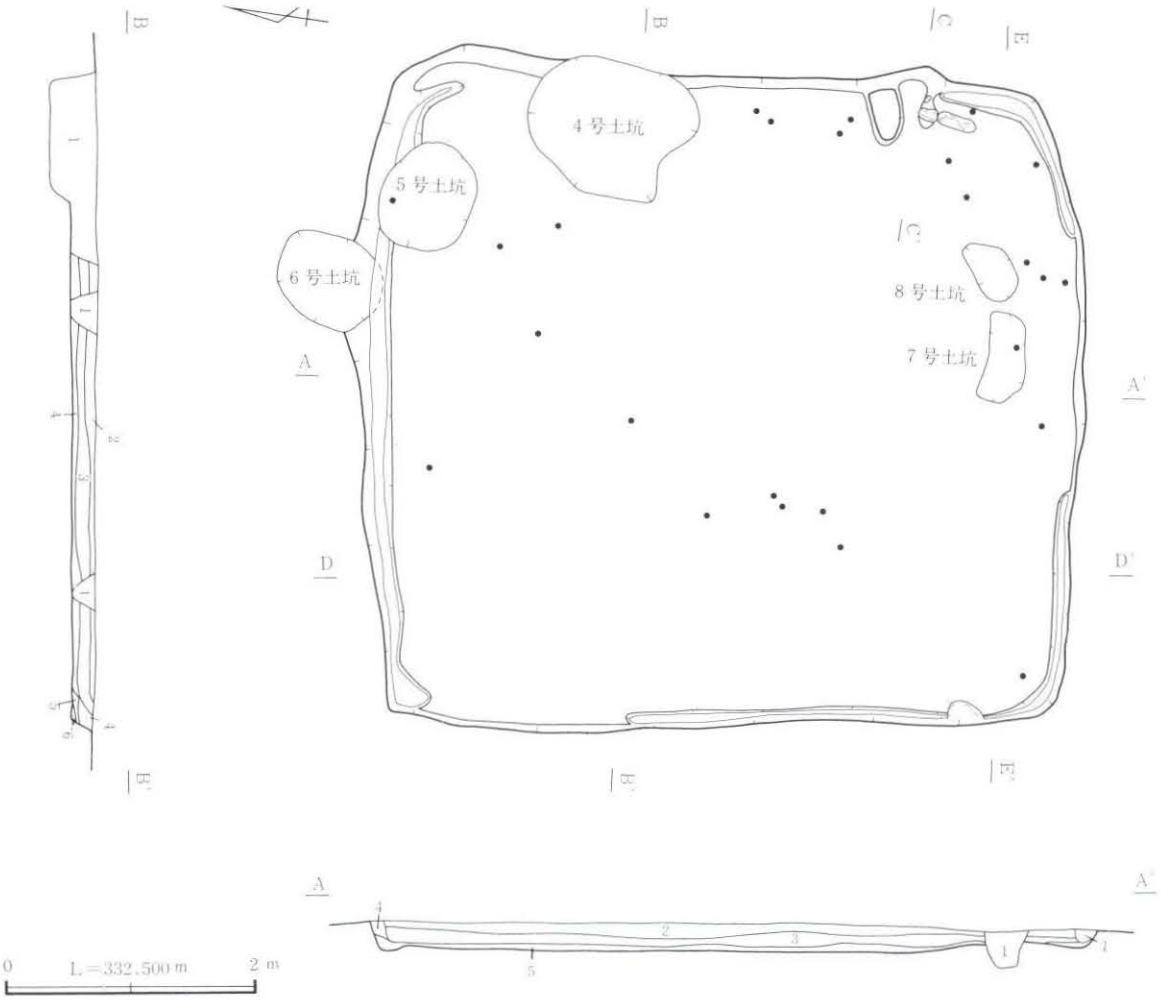


A－7号住居跡
1．暗褐色土　FA粒少量。ローム粒少量。ロームブロック（小）微量。
2．暗褐色土　FA粒含む。FAブロック（小）含む。ローム粒少量。
3．暗褐色土　FA粒微量。ローム粒多量。
4．暗褐色土　ローム粒多量。ロームブロック（中）微量。

第27図　A－7号住居跡

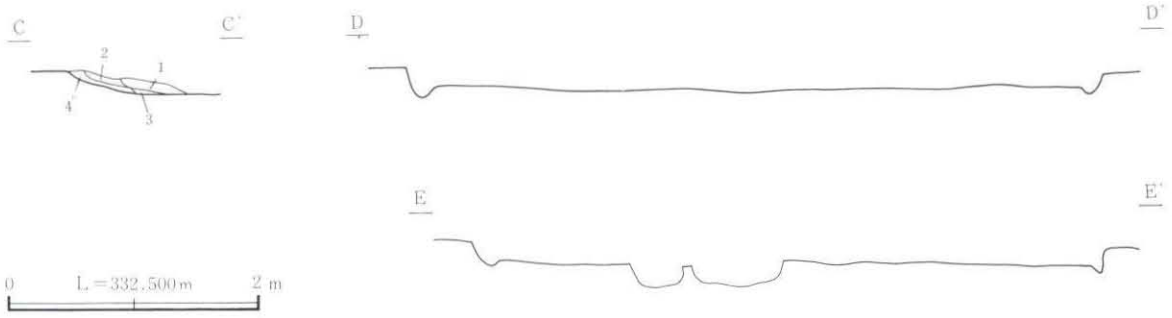
A－7号住居跡

位置　第1次調査区の西側、D6・7、E6・7グリッドに位置する。　**形状**　南北方向を長辺とする長方形。　**規模**　長辺4.50m、短辺3.72m。壁高12cm。　**主軸方位**　N－104°－E。　**床面**　暗褐色土層で構築。平坦であるが、残存状態は悪かった。　**竈**　調査では検出されていないが、試掘トレンチに切られた東壁の北寄りに設置されていたと推定される。　**柱穴**　検出されなかった。　**貯蔵穴**　検出されなかった。　**周溝**　検出されなかった。　**遺物**　きわめて少なく、土師器片、須恵器片が若干出土した程度である。　**時代**　平安時代。



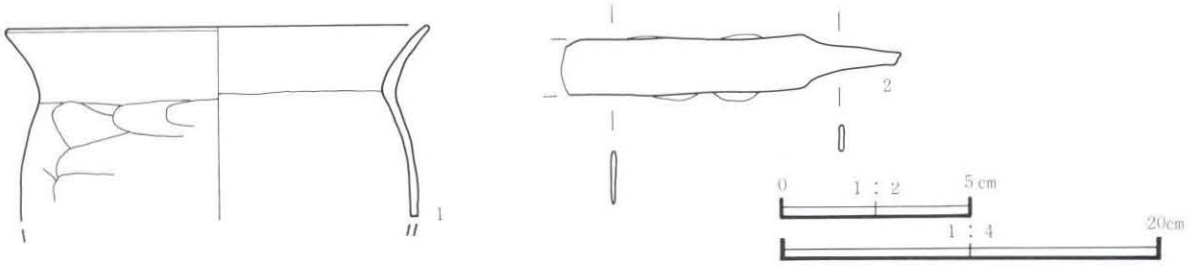
A－8号住居跡
1．暗褐色土　粕川軽石主体。
2．暗褐色土　FA粒含む。FAブロック（小）少量。
3．暗褐色土　FA粒多量。FAブロック（小）含む。FAブロック（中）少量、（大）少量。ロームブロック（小）少量。黒色土ブロック（小）微量。カーボンブロック微量。
4．暗褐色土　FA粒微量。
5．暗褐色土　ローム粒含む。ロームブロック（小）少量、（中）少量。
6．暗褐色土　5層より黒味強い

第28図　A－8号住居跡①



A－8号住居跡竈
1．暗褐色土　FA粒多量。FAブロック（小）多量。焼土ブロック（小）多量。カーボンブロック少量。
2．暗褐色土　焼土粒多量。焼土ブロック（小）多量。
3．暗褐色土　焼土粒含む。灰を多く含む。
4．暗褐色土　FA粒多量。FAブロック（小）多量。カーボンブロック微量。

第29図　A－8号住居跡②



第30図　A－8号住居跡出土遺物

A－8号住居跡

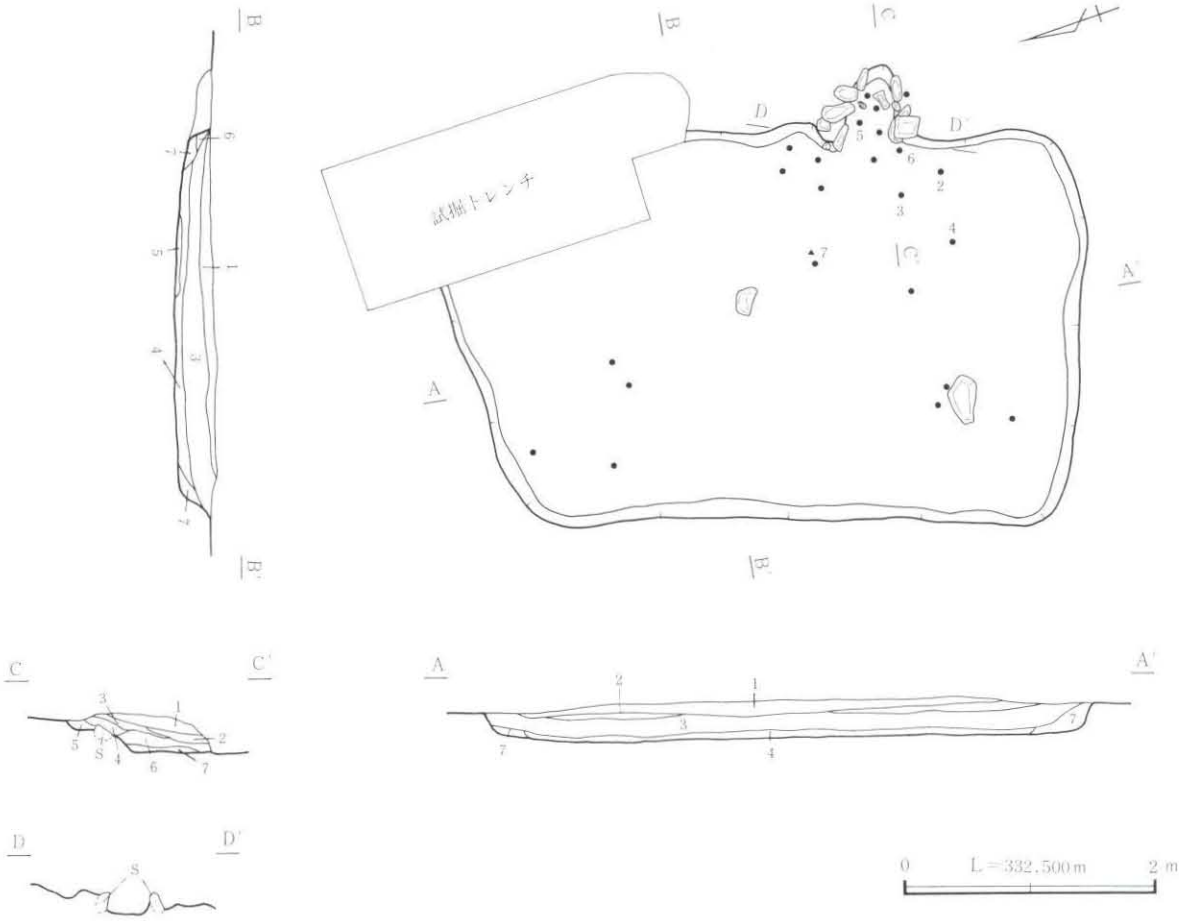
位置　第1次調査区の南西端、C7・8・9、D7・8・9グリッドに位置する。　**形状**　やや南北方向に長い長方形。4～8号土坑に切られる。　**規模**　長辺5.74m、短辺5.45m。壁高18cm。　**主軸方位**　N－98°－E。　**床面**　ローム漸移層で構築。平坦で、貼り床が検出されるなど、残存状態は良好であった。　**竈**　東壁の南寄りに設置されている。左袖の下部が検出されたが、右袖は構築材と推定される礫のみ検出された。　**柱穴**　検出されなかった。　**貯蔵穴**　検出されなかった。　**周溝**　北壁、西壁の南側から南西隅及び南東隅において検出された。深さは4～13cmである。　**遺物**　土師器の甕、鉄製品が出土している。量的にやや少なく、ほとんどが破片であった。　**時代**　平安時代。

A－8号住居跡出土遺物観察表

遺物番号	種類 器種	出土位置 残存状況	法量(cm)	①胎土 ②色調 ③焼成	成・整形技法の特徴	備考
1	土師器 甕	覆土 口～胴上部1/4	口（22.2） 底 高	①細砂粒を含む ②赤褐 ③良好	口縁部横撫で、胴部外面箆削り、内面撫で	
2	鉄製品	覆土	長さ（8.9）cm　幅1.5cm　厚さ0.2cm　重量9.9g			刀子か？

A－9号住居跡

位置　第1次調査区の西端、C6・7グリッドに位置する。　**形状**　南北方向を長辺とする長方形。北東隅は、試掘トレンチに切られるが、やや張り出していたと推定される。　**規模**　長辺5.12m、短辺3.13m。壁高30cm。　**主軸方位**　N－108°－E。　**床面**　ローム漸移層で構築。平坦で貼り床が検出されるなど、残存状況は比較的良好であった。　**竈**　東壁やや南寄りに設置されている。構築材の礫が検出されており、燃焼部の側壁に据えられていたと推定される。袖は、左袖がわずかに検出されたのみである。　**柱穴**　検出さ

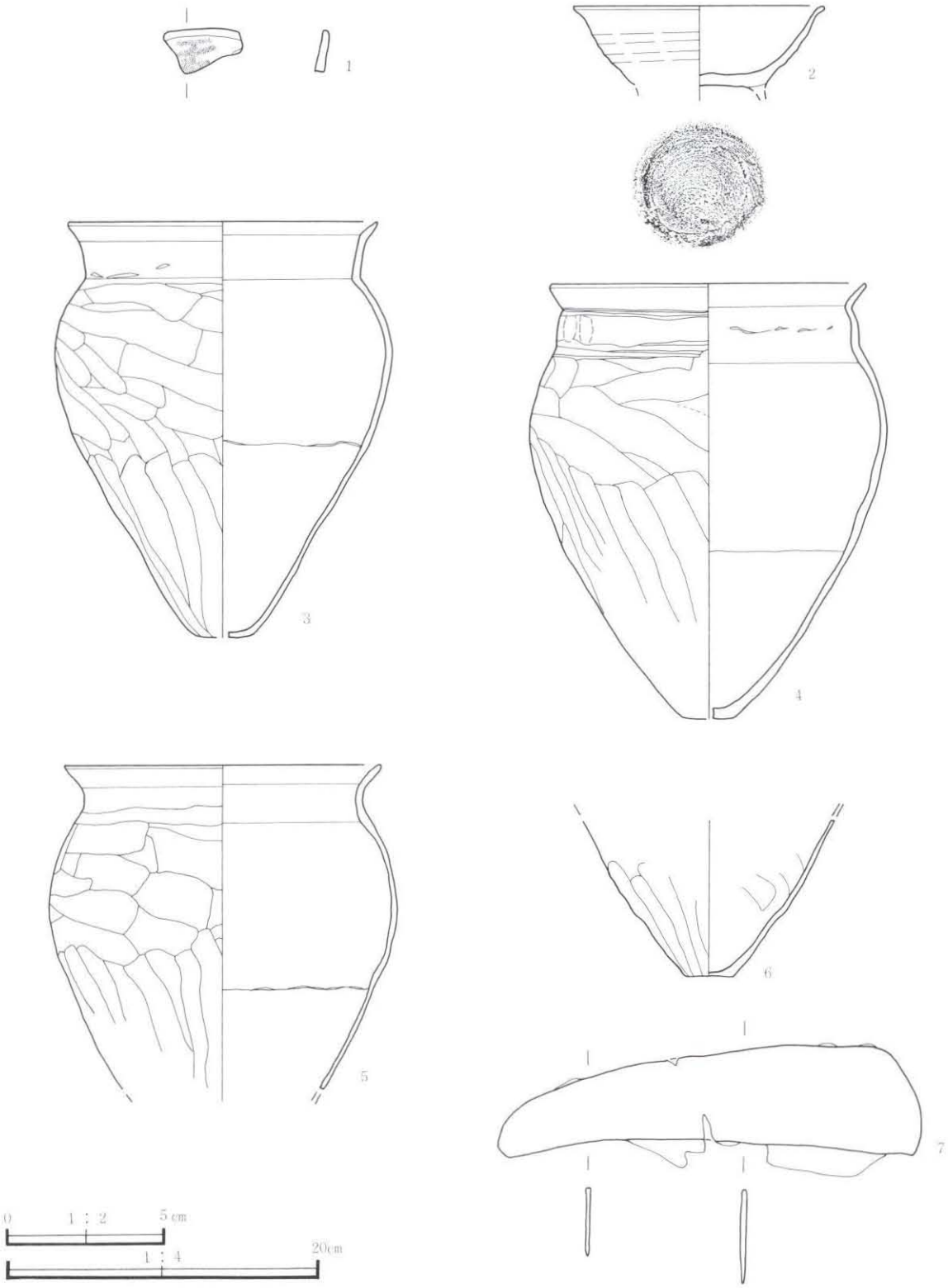


A－9号住居跡竈
1．暗褐色土　FA粒含む。FAブロック（小）含む。カーボンブロック微量。
2．暗褐色土　FA粒含む。FAブロック（小）含む。カーボンブロック多量。
3．暗褐色土　FAブロック（小）少量。焼土ブロック（小）少量。カーボンブロック少量。
4．暗褐色土　FAブロック（小）微量、（中）微量。焼土ブロック（小）多量。
5．暗褐色土　焼土粒微量。
6．暗褐色土　FAブロック（小）少量。焼土ブロック（小）多量。カーボンブロック多量。
7．赤色土　焼土。

A－9号住居跡
1．暗褐色土　FA粒含む。FAブロック（小）含む。カーボンブロック微量。
2．暗褐色土　FA粒含む。FAブロック（小）含む。カーボンブロック少量。
3．暗褐色土　FA粒多量。FAブロック（小）多量、（中）多量、（大）微量。ロームブロック（小）微量。焼土ブロック（小）含む。カーボンブロック少量。
4．暗褐色土　FA粒少量。FAブロック（小）少量。ローム粒含む。ロームブロック（大）微量。
5．暗褐色土　FA粒少量。FAブロック（小）少量。ローム粒やや多。ロームブロック（大）少量。
6．明褐色土　ローム粒多量。
7．黒褐色土　FA粒少量。FAブロック（小）少量。

第31図　A－9号住居跡

れなかった。 **貯蔵穴** 検出されなかった。 **周溝** 検出されなかった。 **遺物** 須恵器の坏・椀、土師器の甕、鉄製鎌が出土している。特に竈周辺での出土が多かった。 **時代** 平安時代。



第32図 A－9号住居跡出土遺物

A－9号住居跡出土遺物観察表

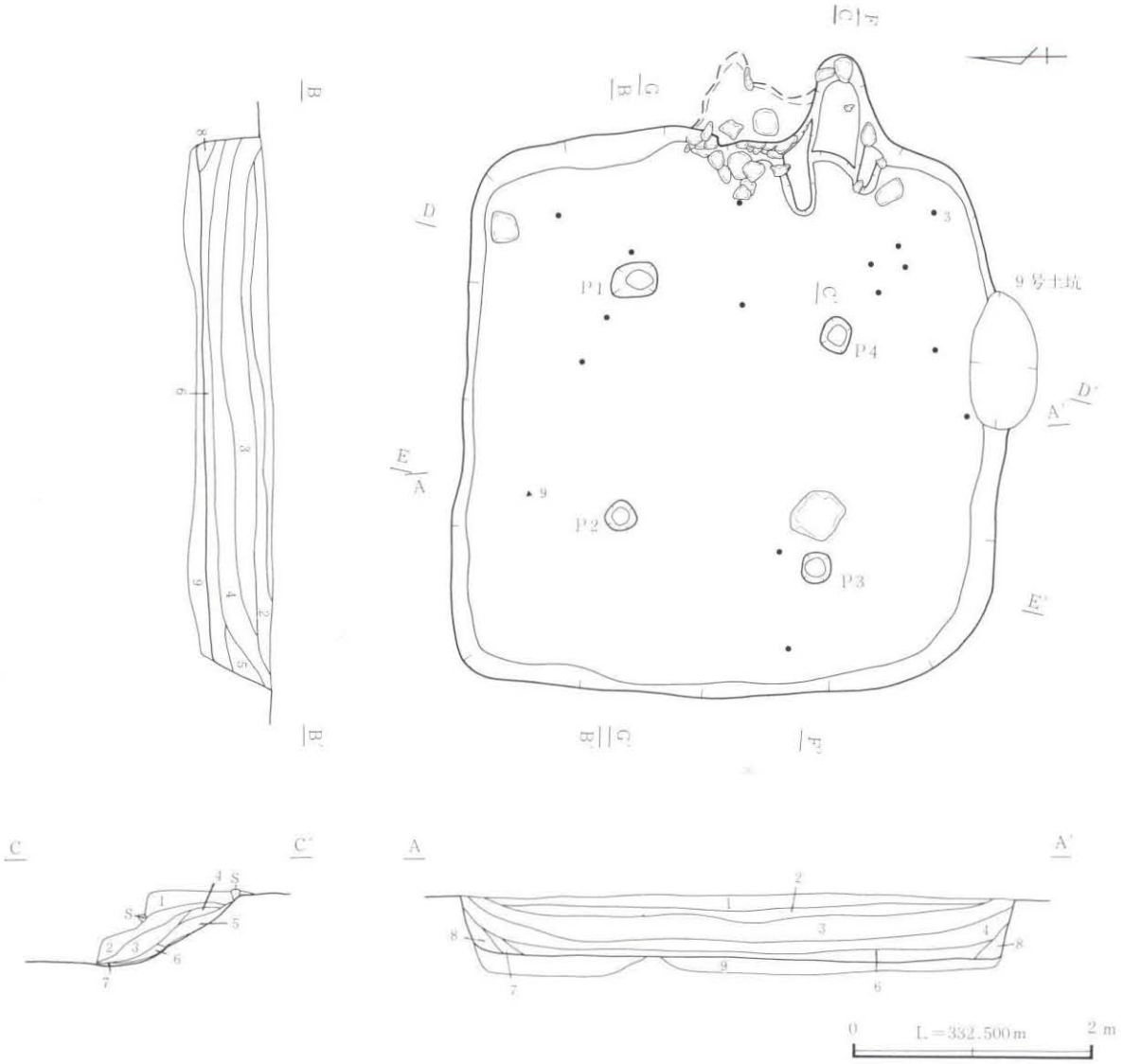
遺物番号	種類 器種	出土位置 残存状況	法量(cm)	①胎土 ②色調 ③焼成	成・整形技法の特徴	備考
1	須恵器 坏	覆土 破片	口 底 高	①砂粒・黒色鉱物粒を含む ②灰白 ③良好	ロクロ整形	体部外面に墨書
2	須恵器 埦	＋1cm 4/5	口 16.1 底 高	①砂粒・小礫を含む ②灰白 ③普通	ロクロ整形、底部回転糸切り後高台貼付	高台欠損
3	土師器 甕	＋2cm 4/5	口 19.6 底（3.6） 高 26.4	①細砂粒・砂粒を含む ②橙 ③良好	口縁部横撫で、胴部外面箆削り、内面撫で	
4	土師器 甕	＋7cm 3/4	口 20.2 底（3.2） 高 27.6	①細砂粒・砂粒を含む ②橙 ③良好	口縁部横撫で、胴部外面箆削り、内面撫で	口縁部外面に指頭痕
5	土師器 甕	竈 口～胴下部2/3	口 20.2 底 高	①細砂粒を含む ②橙 ③良好	口縁部横撫で、胴部外面箆削り、内面撫で	
6	土師器 甕	＋5cm 底部2/3	口 底 3.1 高	①細砂粒を含む ②橙 ③良好	外面箆削り、内面箆撫で	
7	鉄製品 鎌	＋1cm	長さ（13.6）cm 幅3.4cm 厚さ0.2cm 重量56.0g			

A－10号住居跡

位置 第1次調査区の北西端、B4・5、C4・5グリッドに位置する。 **形状** やや東西方向に長い長方形。南壁の一部を9号土坑に切られる。 **規模** 長辺4.74m、短辺4.45m。壁高53cm。 **主軸方位** N－93°－E。 **床面** ローム漸移層で構築。粘土ブロックを含む暗褐色土で床が貼られていた。平坦だが、堅緻な面が検出されたのは中央部のみであった。 **竈** 東壁の南寄りに設置されている。両袖と構築材が若干検出されている。燃焼部と煙道部は段により分かれている。なお、堀りかた調査で、廃棄された竈が北側において検出された。廃棄された竈の部分で検出された礫は、移設した際に壁を補強するために積まれたと推定される。 **柱穴** 堀りかた調査で主柱穴4基が検出された。規模はP_1が径40×30cm、深さ25cm、P_2が径26×24cm、深さ26cm、P_3が径27×26cm、深さ20cm、P_4が30×25cm、深さ14cmである。 **貯蔵穴** 検出されなかった。 **周溝** 検出されなかった。 **遺物** 遺物量はきわめて多く、土師器の坏・甕、須恵器の坏・埦・蓋・壺、石製紡錘車、鉄釘が出土している。 **時代** 奈良時代。

A－11号住居跡

位置 第1次調査区の南側、J9・10、K9・10グリッドに位置する。 **形状** 南側を後世の攪乱により破壊されており不明。北壁の中央部は6号溝に切られる。 **規模** 南北辺不明、東西辺4.52m。壁高25cm。 **主軸方位** N－83°－E。 **床面** 礫層で構築。残存状態は悪かった。 **竈** 東壁に設置されている。両袖とも検出されたが残存状態は悪かった。前面に焼土の分布が見られた。 **柱穴** 検出されなかった。 **貯蔵穴** 検出されなかった。 **周溝** 検出されなかった。 **遺物** 土師器の小型甕が出土している。量的にはやや少ない。 **時代** 平安時代。



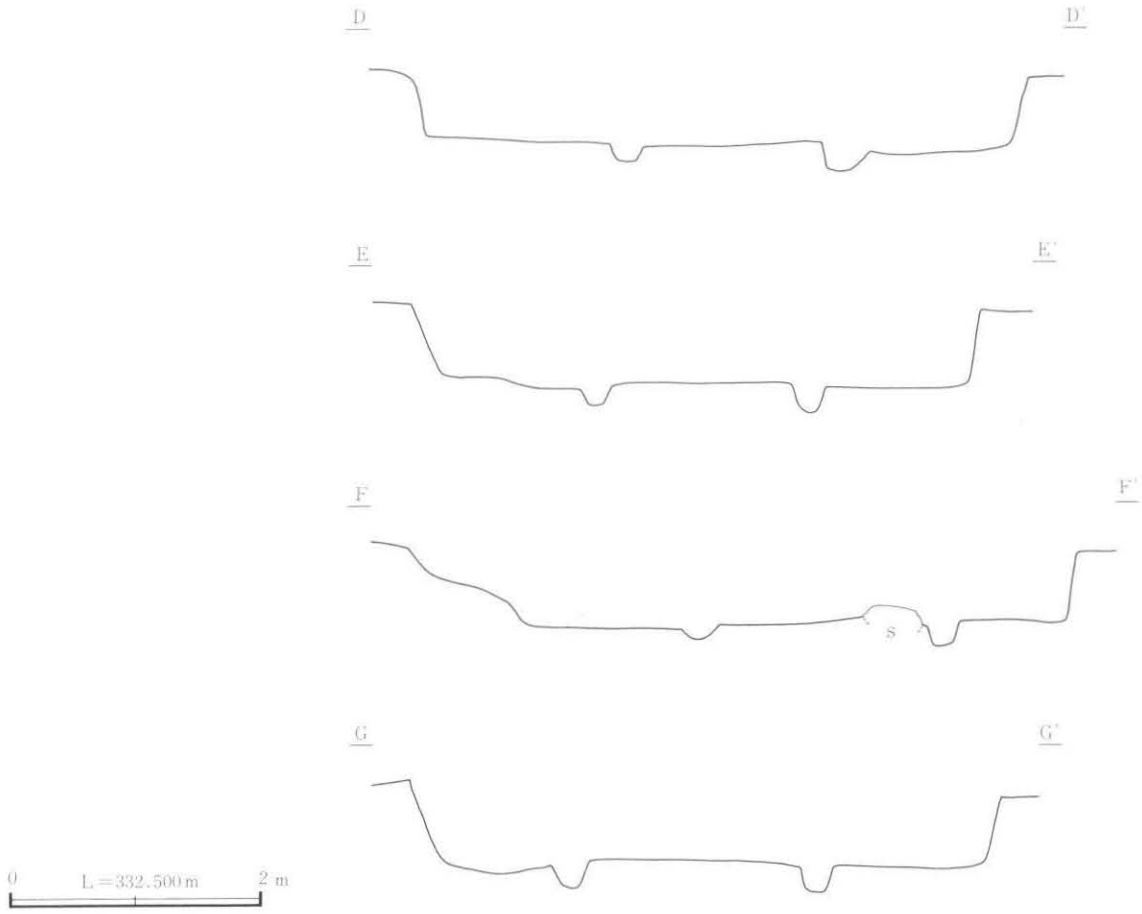
A－10号住居跡

1．暗褐色土　FA粒多量。FAブロック（小）少量。焼土ブロック（小）微量。カーボンブロック微量。
2．暗褐色土　FA粒多量。FAブロック（小）含む、（中）少量。焼土ブロック（小）微量。カーボンブロック少量。
3．暗褐色土　FA粒多量。FAブロック（小）含む、（中）多量、（大）含む。焼土ブロック（小）少量。カーボンブロック多量。
4．暗褐色土　FA粒多量。FAブロック（小）含む、（中）多量、（大）微量。焼土ブロック（小）少量。カーボンブロック含む。
5．暗褐色土　FAブロック（小）少量。カーボンブロック少量。
6．暗褐色土　FA粒含む。FAブロック（小）少量、（中）含む、（大）微量。焼土ブロック（小）少量。カーボンブロック含む。
7．暗褐色土　FA粒多量。FAブロック（中）多量。カーボンブロック少量。
8．暗褐色土　FA粒少量。FAブロック（中）少量。
9．暗褐色土　黒褐色土ブロック多量。粘土ブロック多量。焼土ブロック（小）少量。カーボンブロック少量。

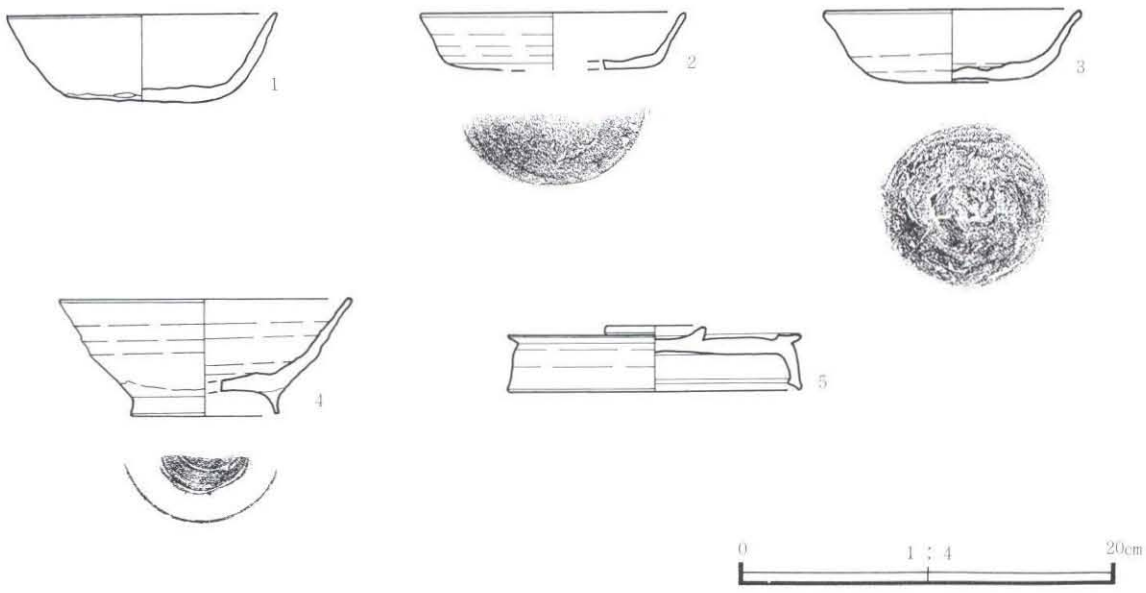
A－10号住居跡竈

1．暗褐色土　FA粒多量。FAブロック（小）多量、（中）少量、（大）少量。
2．暗褐色土　FA粒含む。FAブロック（小）含む。焼土ブロック（小）少量。カーボンブロック少量。
3．暗褐色土　焼土ブロック及び粘土ブロックとの混土。カーボンブロック含む。
4．暗褐色土　FA粒含む。FAブロック（小）含む。焼土ブロック（小）含む。カーボンブロック含む。
5．暗褐色土　粘土ブロック少量。カーボンブロック少量。
6．焼土
7．灰土

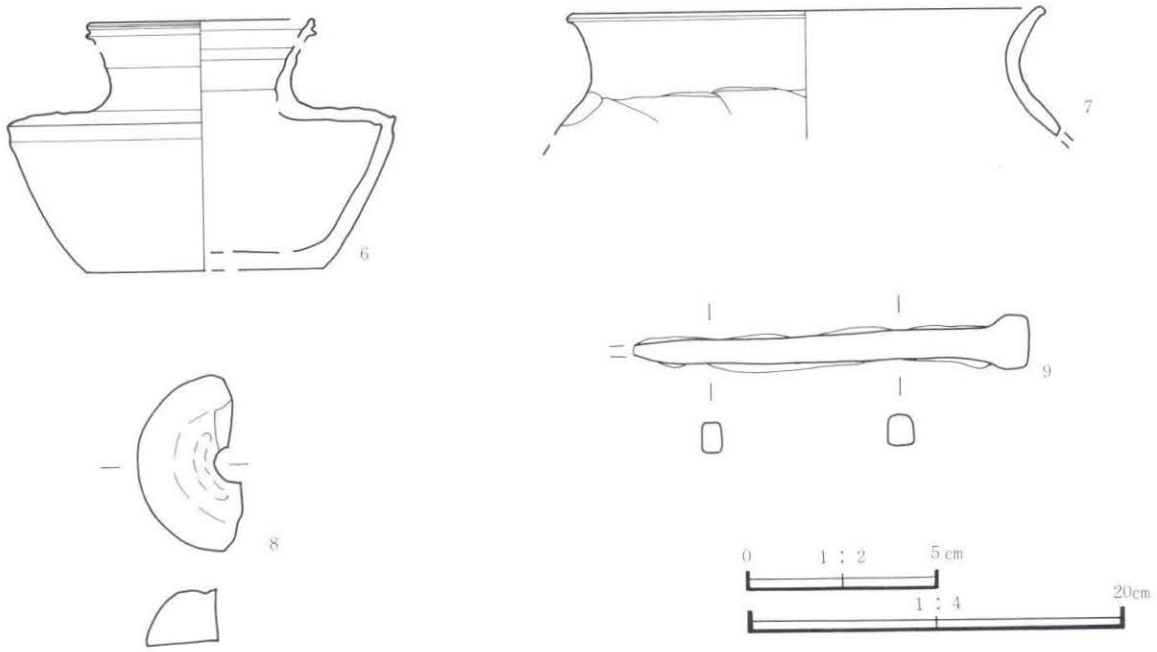
第33図　A－10号住居跡①



第34図　A－10号住居跡②



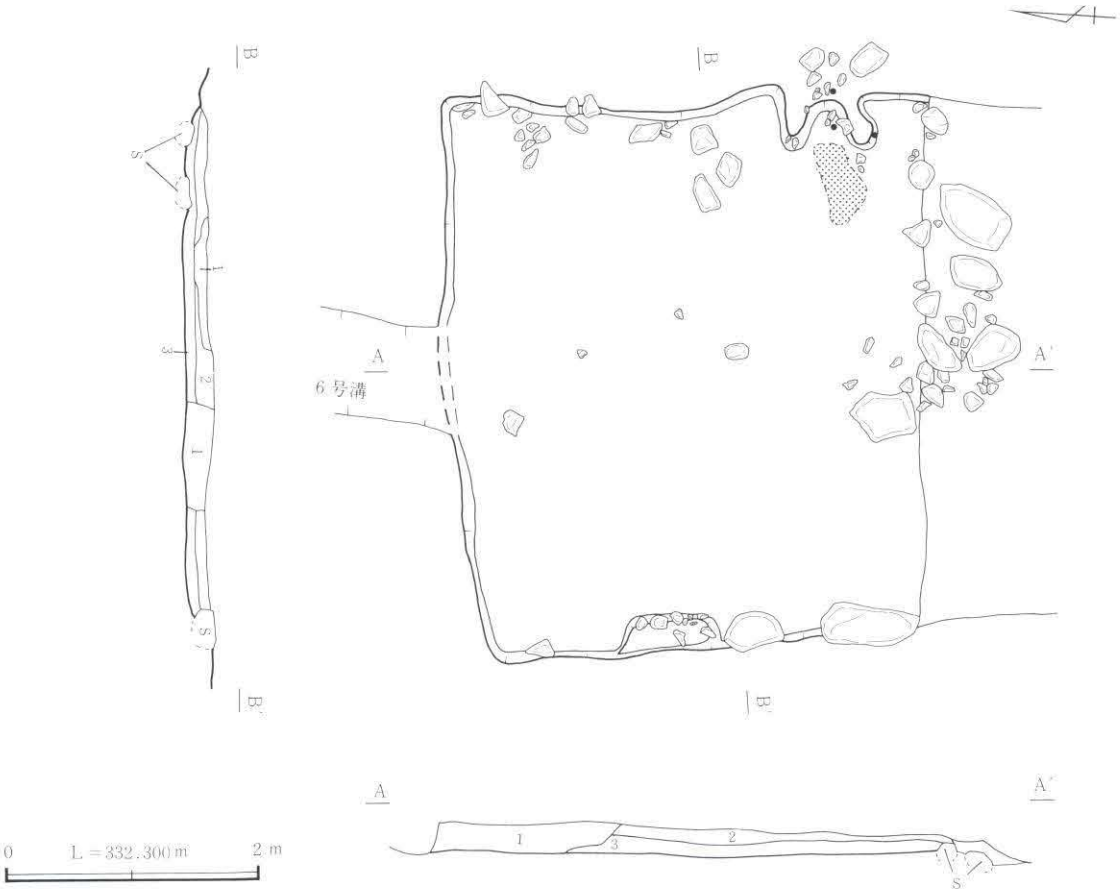
第35図　A－10号住居跡出土遺物①



第36図　A－10号住居跡出土遺物②

A－10号住居跡出土遺物観察表

遺物番号	種類 器種	出土位置 残存状況	法量(cm)	①胎土 ②色調 ③焼成	成・整形技法の特徴	備考
1	土師器 坏	覆土 3/4	口 14.2 底 8.2 高 4.8	①砂粒を含む ②橙 ③やや軟質	口縁部横撫で、体部外面撫で内面横撫で、底部外面篦削り内面撫で	
2	須恵器 坏	覆土 2/5	口 (14.0) 底 (11.4) 高 3.0	①細砂粒を微量 ②灰 ③良好	ロクロ整形、底部切り離し後撫で調整	
3	須恵器 坏	－1cm 2/3	口 (13.6) 底 (7.0) 高 3.7	①砂粒・白色鉱物粒を含む ②灰 ③良好	ロクロ整形、底部回転篦切り後周辺回転篦削り	
4	須恵器 埦	竈 1/2	口 (15.4) 底 (7.8) 高 6.2	①砂粒を微量 ②灰 ③良好	ロクロ整形、底部回転糸切り後高台貼付	
5	須恵器 蓋	覆土 1/4	摘 5.3 口 (15.6) 高 3.5	①細砂粒を微量 ②灰 ③良好	ロクロ整形後、摘み貼付	
6	須恵器 壺	覆土 1/3	口 (6.0) 底 (12.2) 高	①細砂粒を微量 ②灰白 ③良好	ロクロ整形	口縁部に1条の凹線が巡る
7	土師器 甕	覆土 口縁部1/4	口 (25.2) 底 高	①砂粒・白色鉱物粒を含む ②橙 ③普通	口縁部横撫で、胴部外面篦削り、内面撫で	
8	石製品 紡錘車	覆土 1/2	径 (2.4) cm 厚さ1.5cm 重量23.7g			
9	鉄製品 釘	＋11cm	長さ (10.5) cm 幅1.5cm 厚さ0.7cm 重量20.7g			



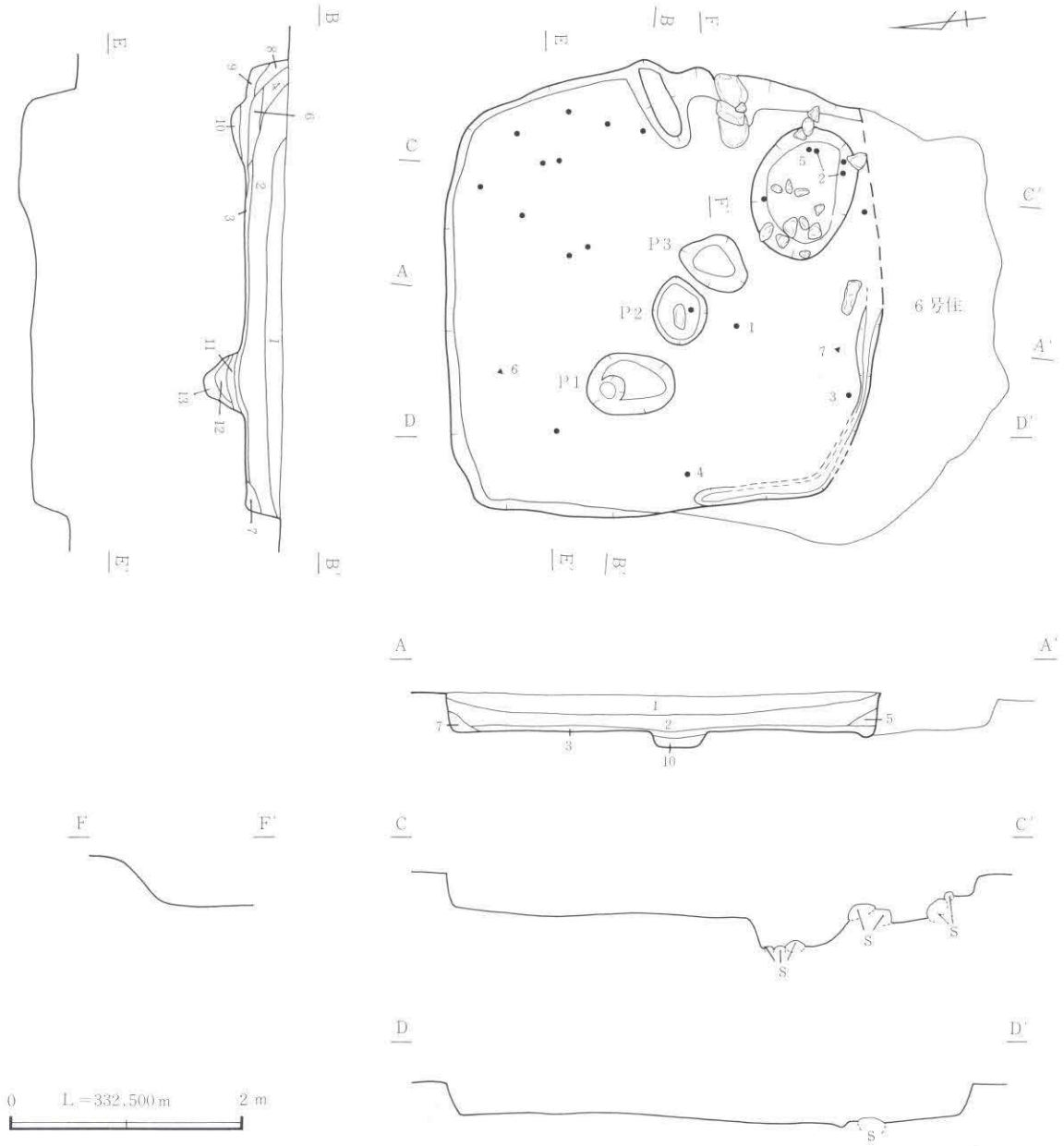
A－11号住居跡
1．暗褐色土　粕川軽石を多く含む。カクラン。
2．暗褐色土　ＦＡ粒含む。ＦＡブロック（小）含む。カーボンブロック少量。
3．暗褐色土　ＦＡ粒多量。ＦＡブロック（中）多量。ローム粒少量。カーボンブロック少量。

第37図　Ａ－11号住居跡

第38図　Ａ－11号住居跡出土遺物

Ａ－11号住居跡出土遺物観察表

遺物番号	種類 器種	出土位置 残存状況	法量(cm)	①胎土 ②色調 ③焼成	成・整形技法の特徴	備考
1	土師器 小型甕	覆土 口縁部破片	口（12.6） 底 高	①細砂粒含む・白色鉱物粒を微量 ②明赤褐 ③良好	口縁部横撫で、胴部外面箆削り、内面撫で	



A－12号住居跡

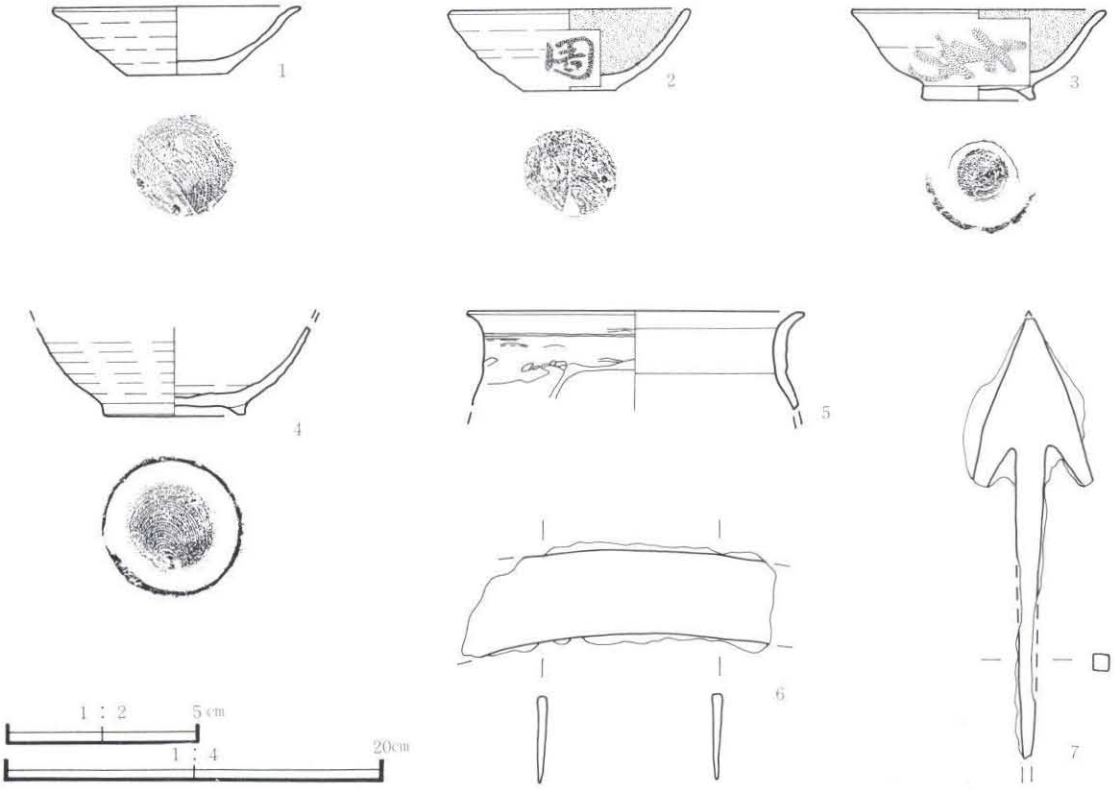
1．暗褐色土　ＦＡ粒含む。ＦＡブロック（小）含む。ＦＡブロック（中）含む。ローム粒少量。
2．暗褐色土　ＦＡ粒多量。ＦＡブロック（小）含む、（中）含む、（大）少量。焼土ブロック（小）少量。カーボンブロック含む。
3．暗褐色土　ＦＡ粒含む。ＦＡブロック（小）少量、（中）少量。ローム粒含む。ロームブロック（中）少量。焼土ブロック（小）少量。カーボンブロック含む。
4．黒褐色土　ＦＡ粒含む。ＦＡブロック（小）少量、（中）少量。
5．暗褐色土　ＦＡ粒含む。ＦＡブロック（小）少量、（中）少量。焼土ブロック（小）含む。カーボンブロック少量。
6．暗褐色土　ＦＡブロック（小）微量。焼土ブロック（小）少量。カーボンブロック少量含む。粘土ブロック少量。
7．暗褐色土　ＦＡ粒少量。ＦＡブロック（小）少量。ローム粒含む。ロームブロック（小）含む。
8．暗褐色土　ＦＡ粒少量。ＦＡブロック（小）少量。焼土ブロック（小）少量。カーボンブロック微量。
9．暗褐色土　焼土ブロック（小）含む。カーボンブロック含む。粘土ブロック微量。
10．暗褐色土　焼土ブロックとの混土。
11．明褐色土　焼土粒多量。焼土ブロック（小）多量。ロームブロック（中）含む。カーボンブロック含む。
12．暗褐色土　ローム粒含む。焼土ブロック（小）微量。
13．明褐色土　ローム粒多量。

第39図　Ａ－12号住居跡

A－12号住居跡

位置　第１次調査区の西側、Ｆ５・６、Ｇ５・６グリッドに位置する。　**形状**　正方形。　**規模**　長辺（東西）3.83m、短辺（南北）3.83m。壁高35cm。　**主軸方位**　N－96°－E　**床面**　ローム層で構築。残存状態は中央部のみ良好であった。　**竈**　東壁中央に設置されている。右袖部からは構築材の礫が検出された。

柱穴　住居中央付近で３基のピットが検出されたが、主柱穴とは考え難い。規模はP_1が径75×54cm、深さ35cm、P_2が径56×47cm、深さ15cm、P_3が径60×45cm、深さ13cmである。　**貯蔵穴**　南東隅で検出された。規模は径112×86cm、深さ25cmである。　**周溝**　南西隅で検出された。深さは２～５cmである。　**遺物**　量的には多くないものの、須恵器の坏・埦、土師器の甕、鉄製鎌・鏃が出土している。ただし、重複する６号住の遺物が混入している可能性もある。　**時代**　平安時代。



第40図　A－12号住居跡出土遺物

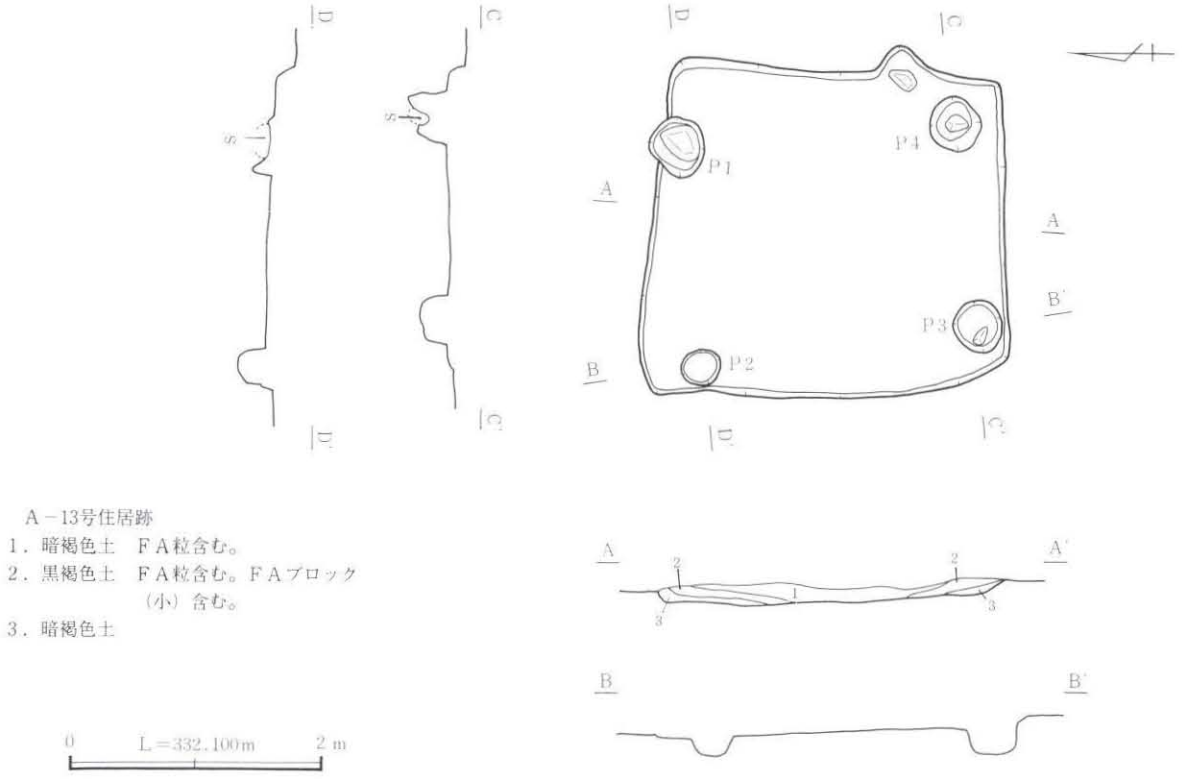
A－12号住居跡出土遺物観察表

遺物番号	種類 器種	出土位置 残存状況	法量(cm)	①胎土 ②色調 ③焼成	成・整形技法の特徴	備考
1	須恵器 坏	＋5cm ほぼ完形	口 13.0 底 5.4 高 3.6	①砂粒・粗砂粒を含む ②灰白 ③良好	ロクロ整形、底部回転糸切り	口縁一部欠損
2	須恵器 坏	－6cm ほぼ完形	口 12.8 底（4.8） 高 5.3	①白・黒色鉱物粒を含む ②にぶい黄橙 ③良好	ロクロ整形、底部回転糸切り	体部外面に墨書 内面黒色処理 底部一部欠損
3	須恵器 埦	＋33cm 2/3	口（13.4） 底（6.0） 高 4.8	①白・黒色鉱物粒を含む ②浅黄 ③良好	ロクロ整形後高台貼付	体部外面に墨書 内面黒色処理

遺物番号	種類 器種	出土位置 残存状況	法量(cm)	①胎土 ②色調 ③焼成	成・整形技法の特徴	備考
4	須恵器 埦	+13cm 2/3	口 底 7.6 高	①細砂粒を微量 ②灰白 ③良好	ロクロ整形、底部回転糸切り後高台貼付	
5	土師器 甕	−6cm 口縁部破片	口 (17.8) 底 高	①細砂粒を含む ②にぶい褐 ③良好	口縁部横撫で、胴部篦削り	
6	鉄製品 鎌	−7cm	長さ (8.3) cm 幅2.4cm 厚さ0.3cm 重量23.2g			
7	鉄製品 鏃	+19cm	長さ (11.6) cm 幅 (3.2) cm 厚さ0.7cm 重量20.4g			

A−13号住居跡

位置 第2次調査区の南端、7I・7J−40グリッドに位置する。 **形状** やや南北に長い長方形で、北壁に比べ南壁がやや短い。 **規模** 長辺2.92m、短辺2.68m。壁高19cm。 **主軸方位** N−91°−W。 **床面** 平坦な床面が検出されたが、残存状態は悪かった。 **竈** 東壁やや南寄りに設置されている。袖は検出されず、燃焼部は住居の壁外に張り出している。 **柱穴** 4基が検出された。いずれも壁際に位置しており、規模は、P_1が径47×43cm、深さ16cm、P_2が径32×28cm、深さ23cm、P_3が径40×39cm、深さ20cm、P_4が42cm×42cm、深さ32cmである。 **貯蔵穴** 検出されなかった。 **周溝** 検出されなかった。 **遺物** 出土していない。 **時代** 不明。

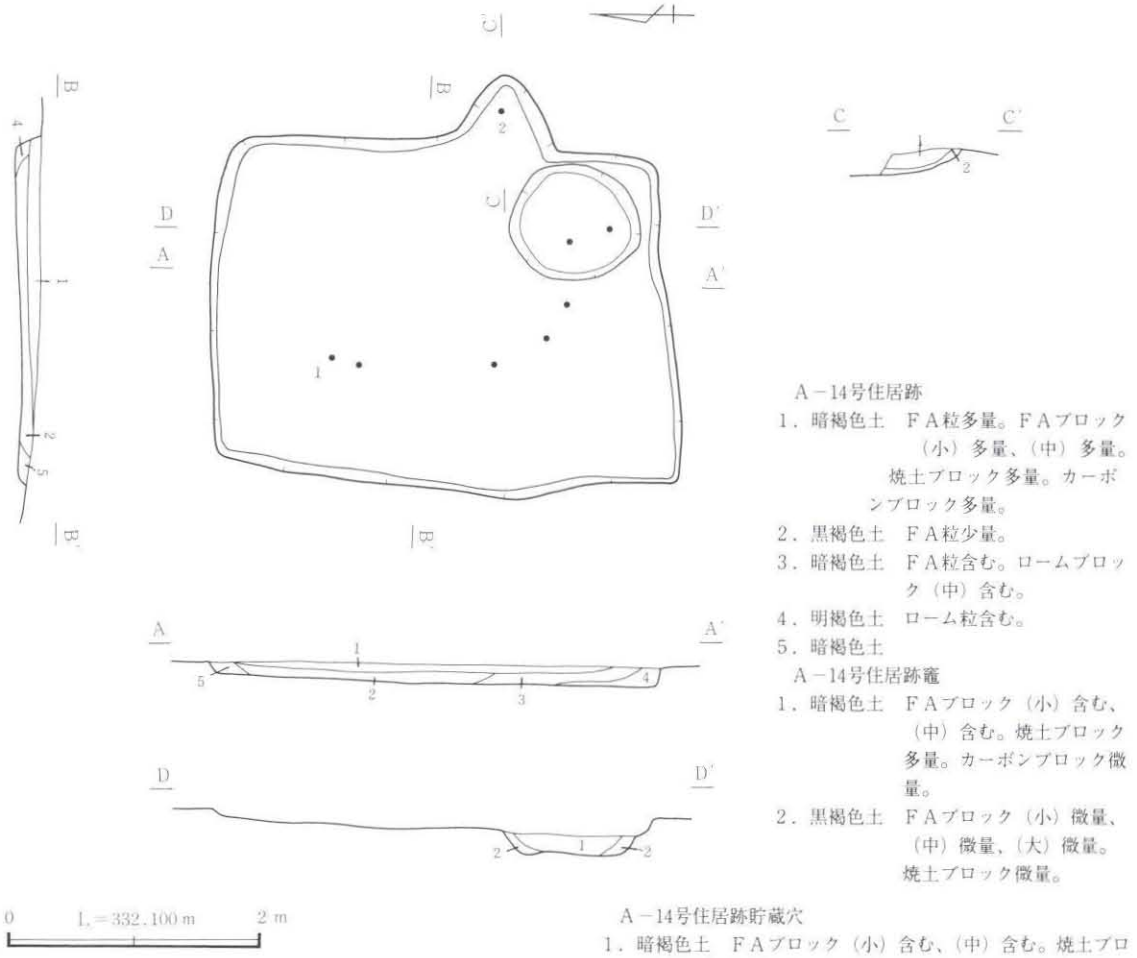


第41図 A−13号住居跡

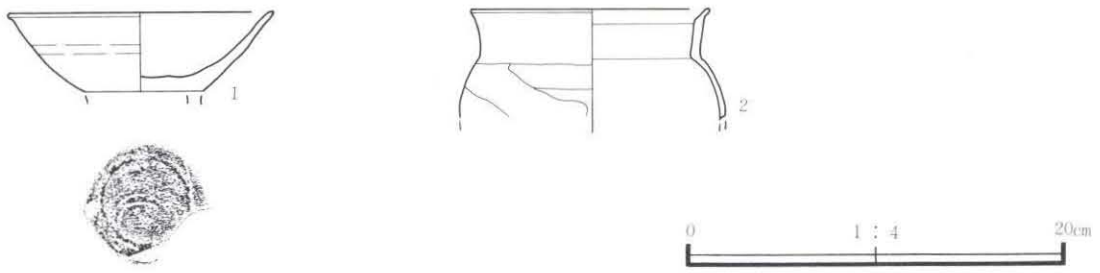
A－14号住居跡

位置　第２次調査区の中央、７Ｈ・７Ｉ－38グリッドに位置する。　**形状**　南北方向を長辺とする長方形。

規模　長辺3.78m、短辺2.88m。壁高12cm。　**主軸方位**　Ｎ－92°－Ｅ。　**床面**　残存状態は悪く、中央



第42図　A－14号住居跡



第43図　A－14号住居跡出土遺物

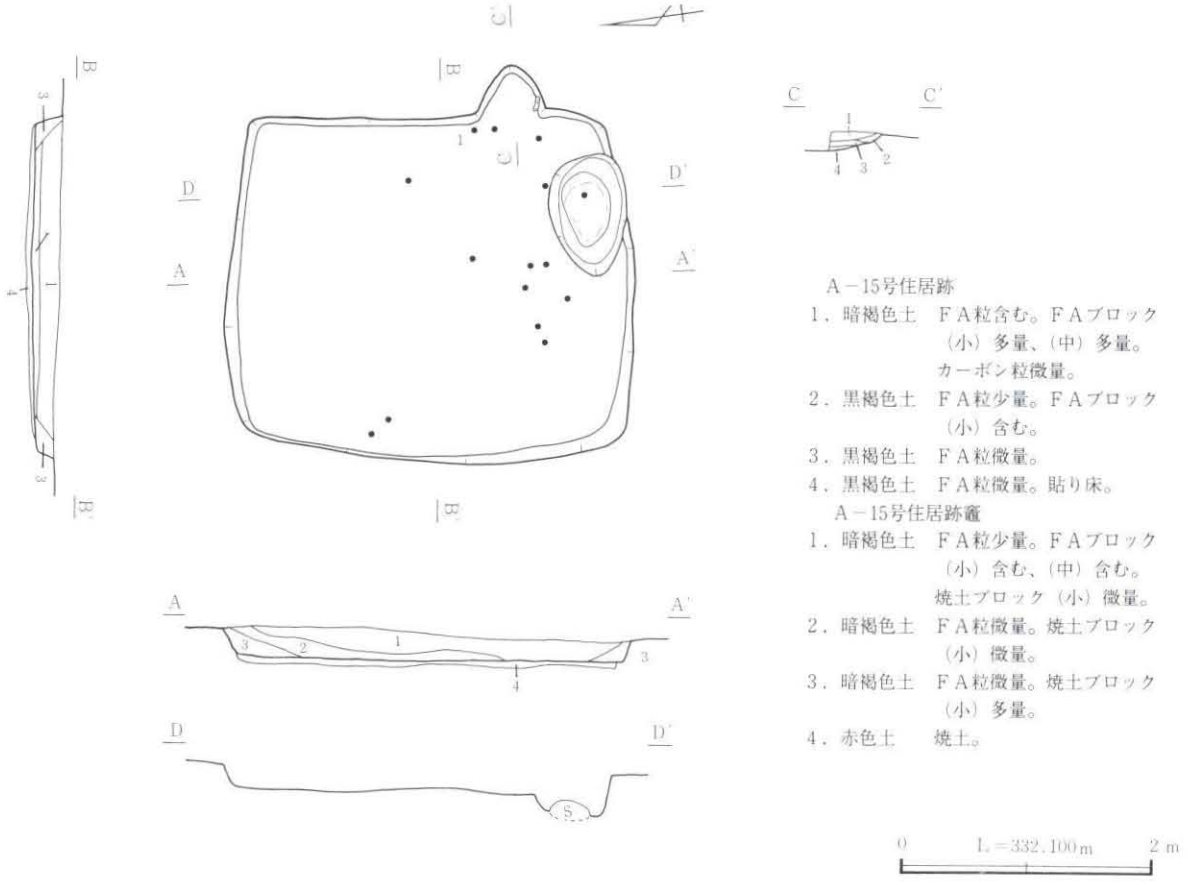
部にのみやや堅緻な面が検出された。 **竈** 東壁の南寄りに設置されている。袖は検出されず、燃焼部は住居の壁外に張り出している。 **柱穴** 検出されなかった。 **貯蔵穴** 南東隅で検出された。規模は径104×91cm、深さ15cmである。 **周溝** 検出されなかった。 **遺物** 須恵器の椀、土師器の小型甕が出土している。量的には少なく、ほとんどが破片であった。 **時代** 平安時代。

A－14号住居跡出土遺物観察表

遺物番号	種類 器種	出土位置 残存状況	法量(cm)	①胎土 ②色調 ③焼成	成・整形技法の特徴	備考
1	須恵器 椀	＋9cm 2/3	口 14.1 底 高	①砂粒を含む、粗砂粒を微量 ②灰黄 ③普通	ロクロ整形、底部回転糸切り後高台貼付	高台欠損
2	土師器 小型甕	竈 口～胴上部	口 12.6 底 高	①細砂粒を含む、粗砂粒を微量 ②橙 ③普通	口縁部横撫で、胴部外面篦削り、内面撫で	

A－15号住居跡

位置 第2次調査区の中央、7Ｉ－36・37グリッドに位置する。 **形状** 南北方向を長辺とする長方形で東壁は西壁に比べやや短い。 **規模** 長辺3.24m、短辺2.82m。壁高26cm。 **主軸方位** N－99°－E。 **床面** ローム漸移層で構築。ＦＡを若干含む黒褐色土で床が貼られており、残存状態は、壁際を除き良好であ



第44図 A－15号住居跡

った。 **竈** 東壁の南東隅寄りに設置されている。袖は検出されず、燃焼部は住居の壁外に張り出している。 **柱穴** 検出されなかった。 **貯蔵穴** 南東隅付近で検出された。規模は径96×62cm、深さ23cmである。 **周溝** 検出されなかった。 **遺物** 須恵器の埦が出土している。量的にも少ない。 **時代** 平安時代。

第45図 A－15号住居跡出土遺物

A－15号住居跡出土遺物観察表

遺物番号	種類 器種	出土位置 残存状況	法量(cm)	①胎土 ②色調 ③焼成	成・整形技法の特徴	備考
1	須恵器 埦	＋3cm 2/5	口（14.6） 底（6.0） 高 5.3	①砂粒・粗砂粒を含む ②灰白 ③良好	ロクロ整形、底部回転糸切り後高台貼付	

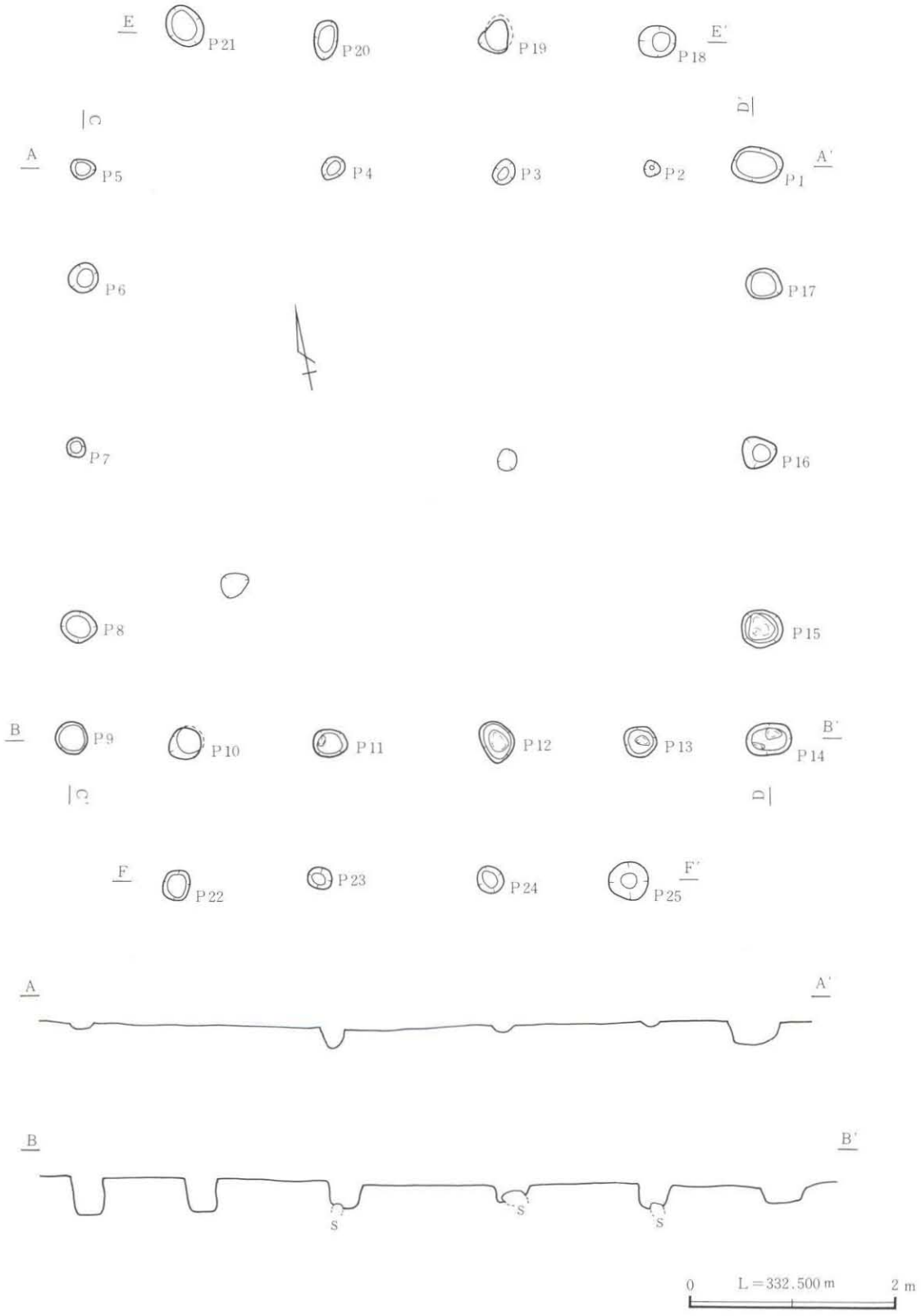
（2） 掘立柱建物跡

A－1号掘立柱建物跡

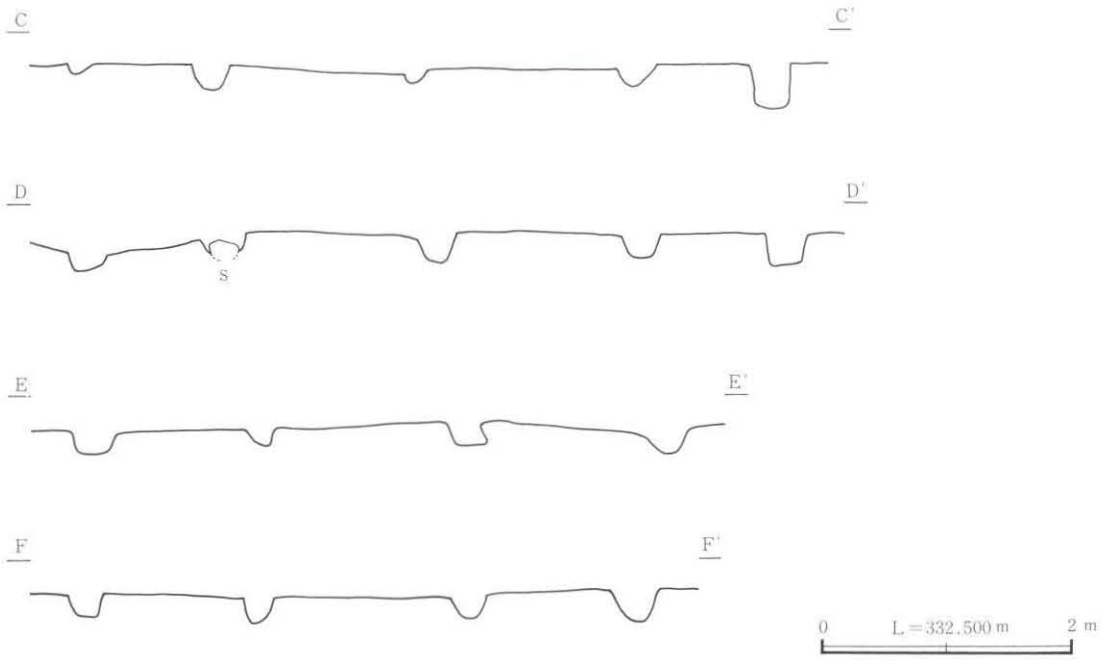
位置 第1次調査区の東側、L5・6、M4～6、N4～6グリッドに位置する。 **形状** 桁行5間、梁行4間の建物跡で、東西方向を長辺とする長方形を呈する。北辺及び南辺に庇が付く。 **規模** 東西6.70m、南北5.52mだが、庇を含めると南北間は8.28mである。柱間寸法は桁行で1.00～1.62m（庇部1.32～1.66m）、梁行で1.04～1.74m（庇部1.22～1.38m）である。 **主軸方位** N－102°－E。 **柱穴** 検出された柱穴数は25基で、覆土は粕川軽石を主体とする暗褐色土である。規模は径16×16cm～50×32cm、深さ6～36cmである。 **遺物** P_{17}から土師器甕の小破片が出土している。

A－2号掘立柱建物跡

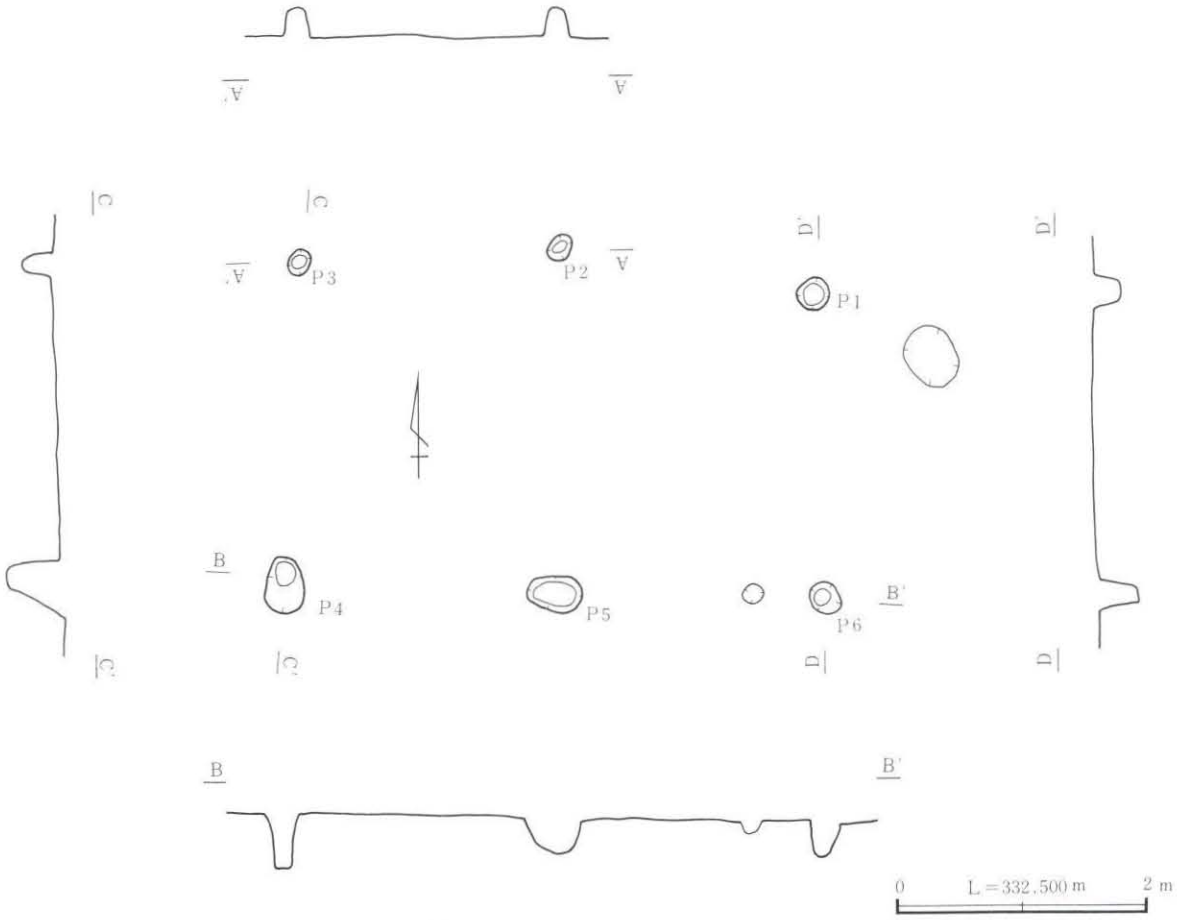
位置 第1次調査区の北側、K4、L4グリッドに位置する。 **形状** 桁行2間、梁行1間の建物跡で、東西方向を長辺とする長方形を呈する。 **規模** 東西4.08m、南北2.76m。柱間寸法は桁行で2.08～2.12m、梁行で2.40～2.76mである。 **主軸方位** N－94°－E。 **柱穴** 検出された柱穴数は6基で、覆土はFAブロックを含む暗褐色土である。規模は径20×16cm～44×28cm、深さ22～47cmである。 **遺物** 出土していない。



第46図　A－1号掘立柱建物跡①



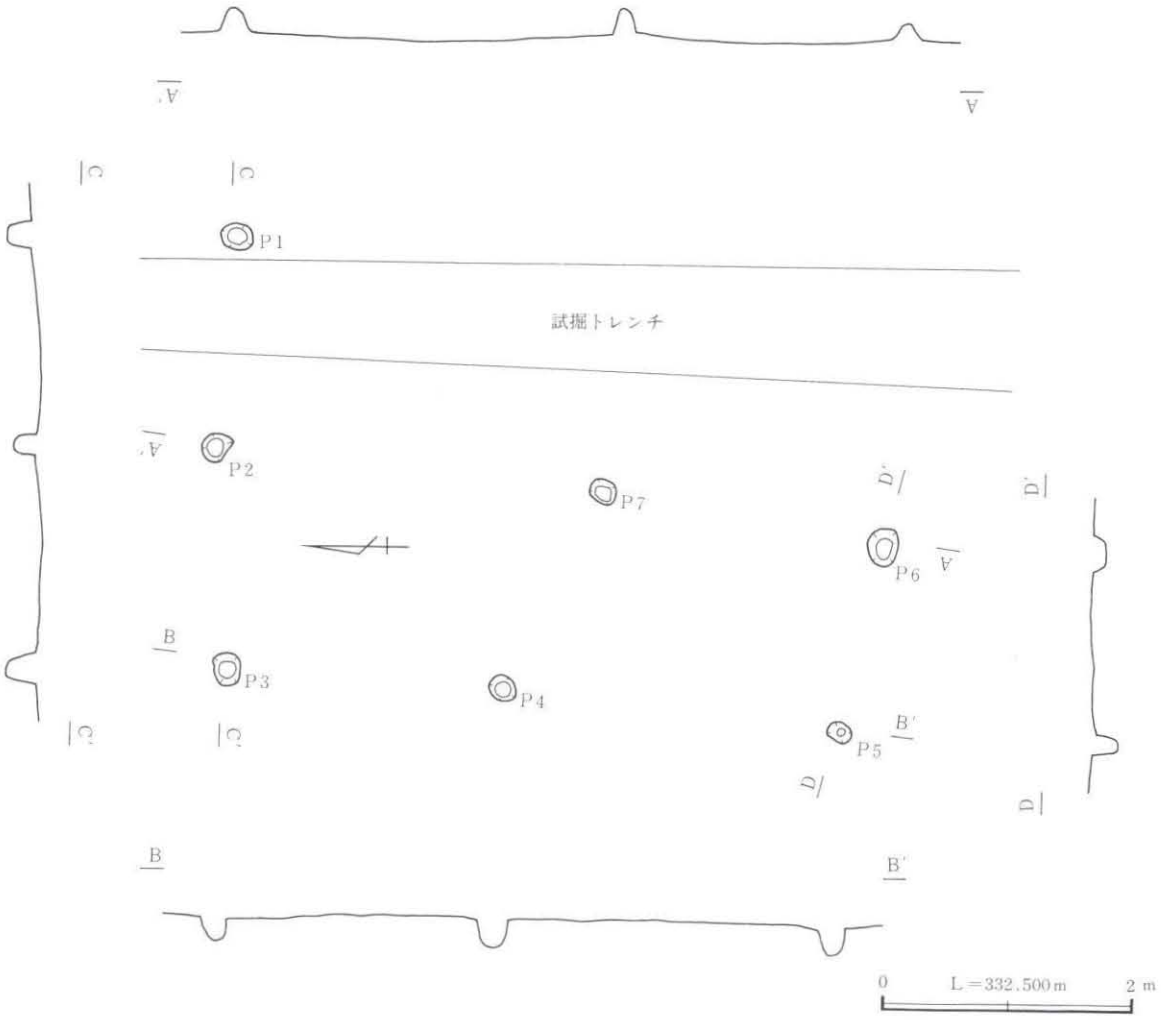
第47図　A－1号掘立柱建物跡②



第48図　A－2号掘立柱建物跡

A－3号掘立柱建物跡

位置　第1次調査区の中央、J 6・7グリッドに位置する。　**形状**　桁行2間、梁行2間の建物跡で、南北方向を長辺とする長方形を呈する。　**規模**　東西4.88m、南北2.76m。柱間寸法は桁行で2.20～3.10m、梁行で1.52～1.76mである。　**主軸方位**　N－6°－E。　**柱穴**　試掘トレンチに切られたため、検出された柱穴数は7基である。規模は径20×16cm～30×24cm、深さ12～24cm、覆土はFAブロックを含む暗褐色土である。　**遺物**　出土していない。



第49図　A－3号掘立柱建物跡

（3）　溝

溝は15条検出されている。1～9号までが第1次調査区で、10～15号が第2次調査区で検出された。覆土に粕川軽石を含んでいることから、年代はすべて中世以降と推定される。

このうち、5・10号溝を除いた溝についてみると、1・2・6～14号が南北方向に、3～5・15号が東西

方向に向いている。主軸方位に注目してみると、南北・東西ともそれぞれ25°の範囲内に納まっており、規則性が窺える。また、覆土は粕川軽石を主体とし、形状もよく似ている。このことから、降下した粕川軽石を埋める目的で掘られた溝ではないかとも考えられる。いずれにしても軽石降下後間もない時期の遺構であろう。

溝の概要については以下の通りである。個々の実測図は掲載しないので、遺構の位置・形状等については第3図を参照されたい。

第1表　A区溝計測表

遺構名	位置	規模（m）			主軸方位	備考
		長辺	短辺	深さ		
1号溝	P4	2.99	0.66	0.30	N－ 0°	覆土は粕川軽石主体土。
2号溝	N4、O3・4	5.10	0.66	0.51	N－ 22° －E	覆土は粕川軽石主体土。
3号溝	P5	(2.46)	0.48	0.14	N－101° －E	覆土は粕川軽石主体土。
4号溝	P6	(1.22)	0.48	0.13	N－108° －E	覆土は粕川軽石主体土。
5号溝	J8、K8	(3.16)	0.59	0.13	N－ 98° －E	覆土は粕川軽石を含む暗褐色土。現代
6号溝	J8・9	(5.03)	0.84	0.20	N－ 10° －E	覆土は粕川軽石主体土。
7号溝	H5～7	10.00	0.93	0.32	N－ 9° －E	覆土は粕川軽石主体土。
8号溝	G8・9	6.70	0.81	0.14	N－ 18° －E	覆土は粕川軽石主体土。
9号溝	D4～6、E4	(11.50)	1.18	0.20	N－ 14° －E	覆土は粕川軽石主体土。
10号溝	7I－40・41	4.38	0.64	0.17	N－ 10° －E	覆土は粕川軽石を含む暗褐色土。
11号溝	7K－38	6.36	0.63	0.36	N－ 6° －E	覆土は粕川軽石主体土。
12号溝	7G－35・36	11.30	1.03	0.26	N－ 13° －E	覆土は粕川軽石主体土。
13号溝	7I－36・37	5.50	1.12	0.51	N－ 15° －E	覆土は粕川軽石主体土。
14号溝	7I－35・36	7.33	0.88	0.36	N－ 1° －E	覆土は粕川軽石主体土。
15号溝	7F－35	1.34	0.30	0.18	N－ 84° －E	覆土は粕川軽石主体土。

（4）　土坑

土坑は10基検出されている。1～9号が第1次調査区で、10号が第2次調査区で検出された。覆土の状態から年代を推定すると、3・9号が古墳時代から平安時代、1・2・10号が中世、4～8号が現代である。

土坑の概要については以下の通りである。土坑についても実測図は掲載しないので、遺構の位置・形状等については第3図を参照されたい。

第2表　A区土坑計測表

遺構名	位置	形状	規模（cm）			備考
			長辺	短辺	深さ	
1号土坑	O6	長方形	132	83	19	覆土は粕川軽石主体土。
2号土坑	O6・7	正方形	72	60	16	覆土は粕川軽石主体土。
3号土坑	Q6	不整形	153	76	8	覆土はFAブロック含む暗褐色土。
4号土坑	D8	不整形	133	108	16	覆土は粕川軽石を含む暗褐色土。現代
5号土坑	D7	楕円形	88	67	12	覆土は粕川軽石を含む暗褐色土。現代
6号土坑	C7、D7	楕円形	(81)	71	26	覆土は粕川軽石を含む暗褐色土。現代
7号土坑	D9	長方形	71	33	17	覆土は粕川軽石を含む暗褐色土。現代
8号土坑	D9	長方形	54	32	19	覆土は粕川軽石を含む暗褐色土。現代
9号土坑	C5	楕円形	104	56	59	覆土はFAブロックを含む暗褐色土。
10号土坑	7G－40	楕円形	142	118	45	覆土は粕川軽石主体土。

第２節　上原遺跡Ｂ区

（１）　溝

溝は４条検出されている。Ａ区で検出された溝と同様、覆土はいずれも粕川軽石を主体としており、年代は中世と推定される。

溝の概要については以下の通りである。遺構の位置・形状等については、第４図を参照されたい。

第３表　Ｂ区溝計測表

遺構名	位置	規模（m）			主軸方位	備考
		長辺	短辺	深さ		
１号溝	３Ａ21・22ほか	6.64	0.90	0.26	Ｎ－８°－Ｅ	覆土は粕川軽石主体土。
２号溝	２Ｗ21・22	(4.29)	0.78	0.32	Ｎ－８°－Ｅ	覆土は粕川軽石主体土。
３号溝	２Ｗ19・20	(3.48)	0.84	0.26	Ｎ－26°－Ｅ	覆土は粕川軽石主体土。
４号溝	２Ｖ18～20ほか	(7.54)	0.88	0.19	Ｎ－24°－Ｅ	覆土は粕川軽石主体土。

（２）　土坑

土坑は１基検出されている。覆土には粕川軽石が含まれており、年代は中世と推定される。

土坑の概要については以下の通りである。溝と同様、実測図は掲載しないので、第４図を参照されたい。

第４表　Ｂ区土坑計測表

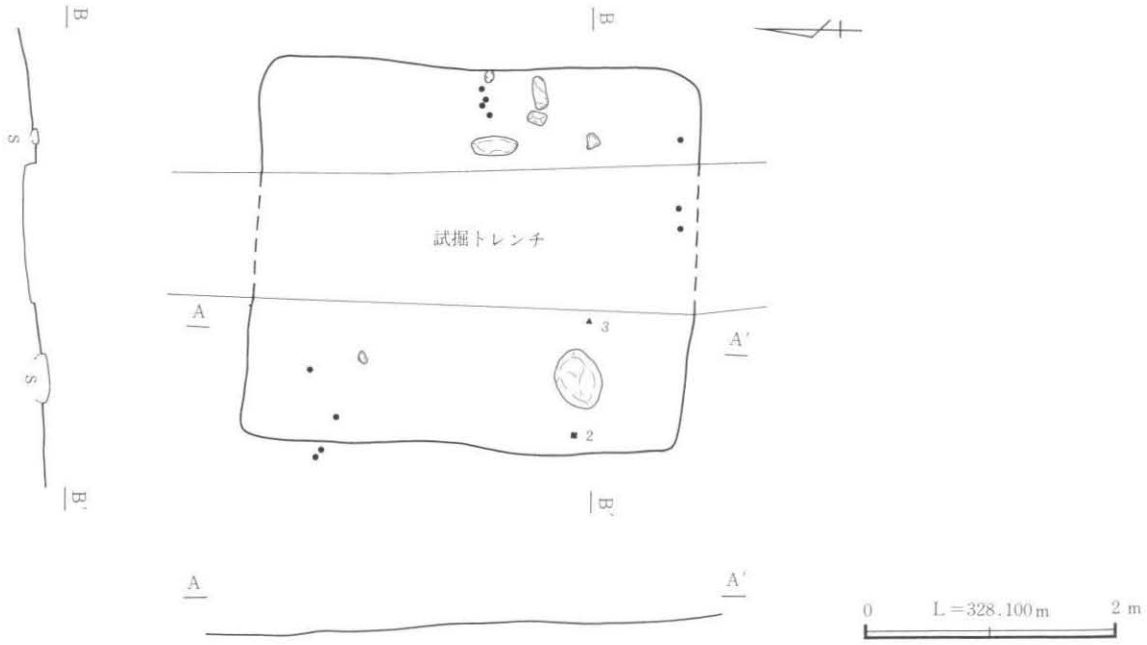
遺構名	位置	形状	規模（cm）			備考
			長辺	短辺	深さ	
１号土坑	２Ｙ21	－	－	－	21	覆土は粕川軽石主体土。

第３節　上原遺跡Ｄ区

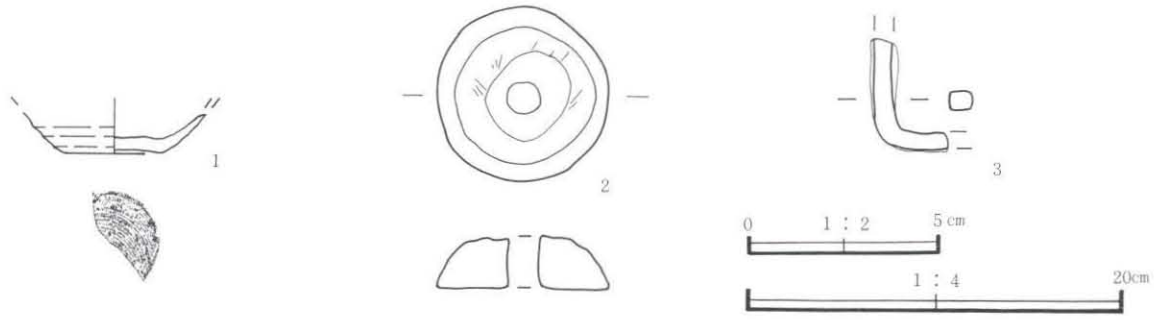
（１）　竪穴式住居跡

Ｄ－１号住居跡

位置　Ｄ－１区の中央、12Ａ－19・20、12Ｂ－19・20グリッドに位置する。　**形状**　やや南北方向に長い長方形。壁は表土除去の際に失われた。　**規模**　長辺3.56ｍ、短辺3.09ｍ。　**主軸方位**　Ｎ－91°－Ｅ。　**床面**　ＦＡ層の上層（暗褐色土）で構築。残存状態は、東側で比較的良好であった。　**竈**　東壁の南寄りに設置されている。壁と同様にほとんどが表土除去の際に失われ、構築材と推定される礫のみ残存していた。　**柱穴**　検出されなかった。　**貯蔵穴**　検出されなかった。　**周溝**　検出されなかった。　**遺物**　量的には少ないが、須恵器の坏、石製紡錘車、鉄釘が出土している。　**時代**　平安時代。



第50図　D－1号住居跡



第51図　D－1号住居跡出土遺物

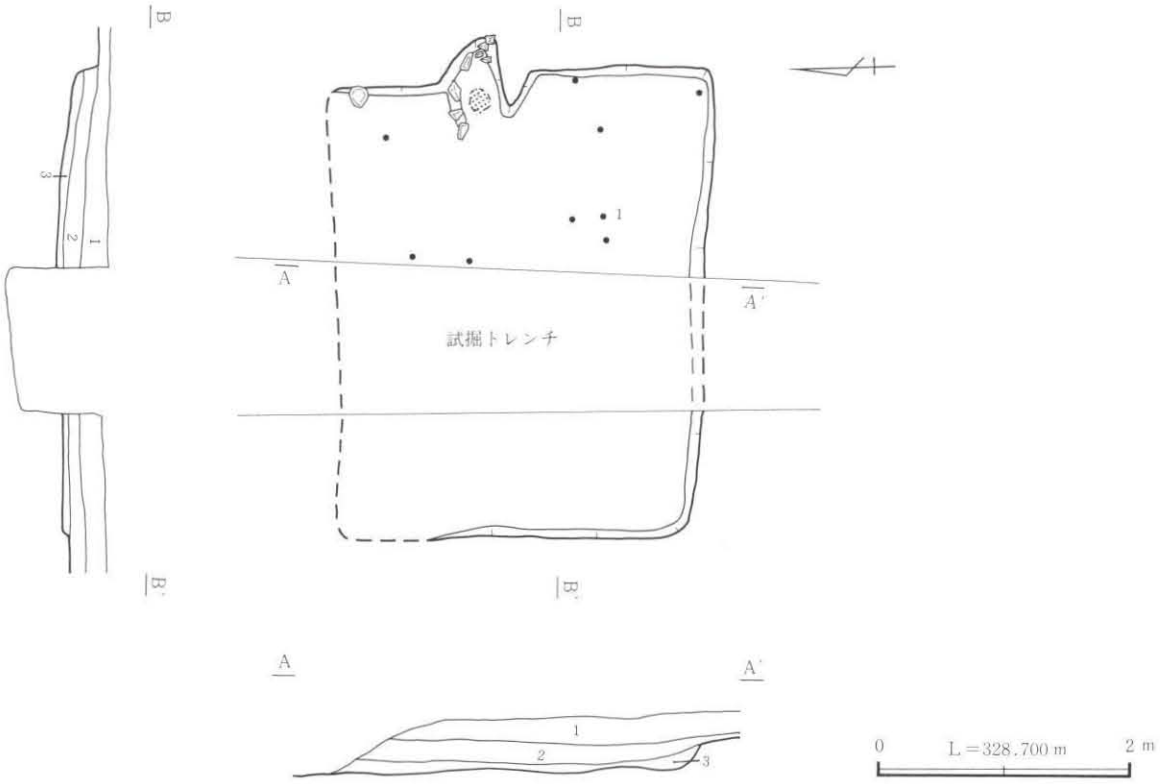
D－1号住居跡出土遺物観察表

遺物番号	種類 器種	出土状況 残存状況	法量(cm)	①胎土 ②色調 ③焼成	成・整形技法の特徴	備考
1	須恵器 坏	覆土 底部1/2	口 底（5.4） 高	①白色鉱物粒を含む ②灰 ③良好	ロクロ整形、底部回転糸切り	
2	石製品 紡錘車	＋2cm	径4.6cm 高さ1.4cm 重量67.1g			
3	鉄製品 釘	－4cm	長さ（4.4）cm 幅0.6cm 厚さ0.4cm 重量6.4g			

D－2号住居跡

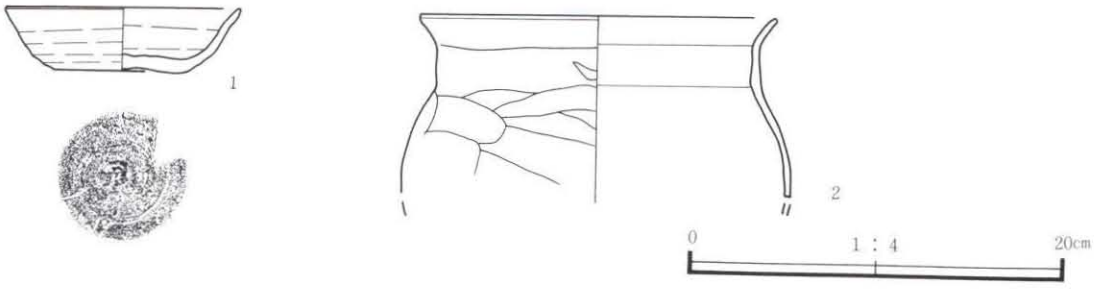
位置　D－1区の南側、12A・12B－20グリッドに位置する。　**形状**　東西方向を長辺とする長方形で、南東隅がやや張り出す。　**規模**　長辺3.74m、短辺3.07m。壁高36cm。　**主軸方位**　N－91°－E。　**床面**

黒色土層で構築。ＦＡブロックを含む暗褐色土で床を貼っている。残存状態は良好であった。 **竈** 東壁のやや北寄りに設置されている。袖は右袖のみ検出され、左袖部及び燃焼部奥壁部で構築材と推定される礫が検出された。 **柱穴** 検出されなかった。 **貯蔵穴** 検出されなかった。 **周溝** 検出されなかった。 **遺物** 須恵器の坏、土師器の甕、砥石が出土している。量的にはやや少ない。 **時代** 平安時代。

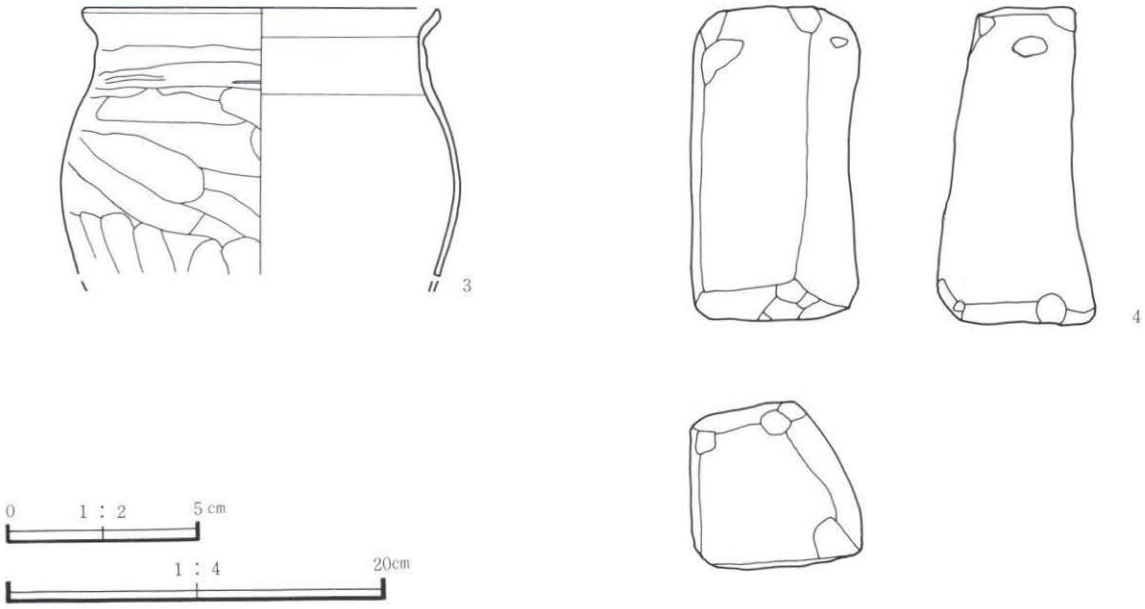


Ｄ－２号住居跡
1．暗褐色土　ＦＡ粒微量。ＦＡブロック（小）少量。カーボンブロック微量。
2．暗褐色土　ＦＡブロック（中）少量。カーボンブロック微量。
3．暗褐色土　ＦＡ粒少量。ＦＡブロック（中）微量

第52図　Ｄ－２号住居跡



第53図　Ｄ－２号住居跡出土遺物①



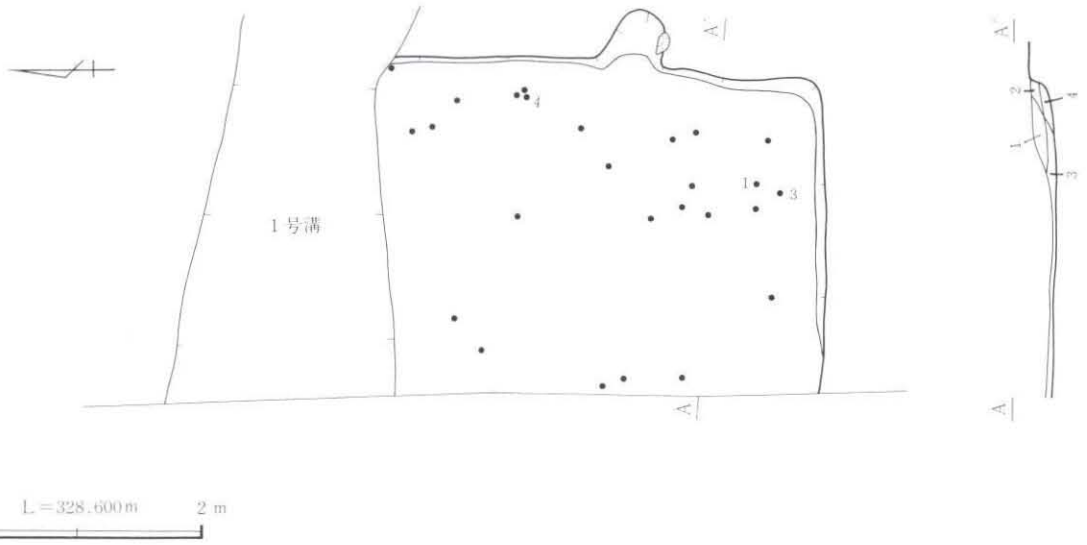
第54図　D－2号住居跡出土遺物②

D－2号住居跡出土遺物観察表

遺物番号	種類 器種	出土状況 残存状況	法量(cm)	①胎土 ②色調 ③焼成	成・整形技法の特徴	備考
1	須恵器 坏	－13cm 3/4	口 12.4 底 7.0 高 3.5	①粗砂粒・小礫を含む ②灰 ③良好	ロクロ整形、底部回転篦切り	
2	土師器 甕	覆土 口～胴上部1/2	口 (18.8) 底 高	①細砂粒を含む ②橙 ③良好	口縁部横撫で、胴部外面篦削り、内面撫で	
3	土師器 甕	覆土 口～胴上部2/3	口 18.6 底 高	①細砂粒を含む ②明赤褐色 ③良好	口縁部横撫で、胴部外面篦削り、内面撫で	
4	石製品 砥石	掘り方	長さ (8.2) cm 幅4.5cm 高さ4.4cm 重量190g			

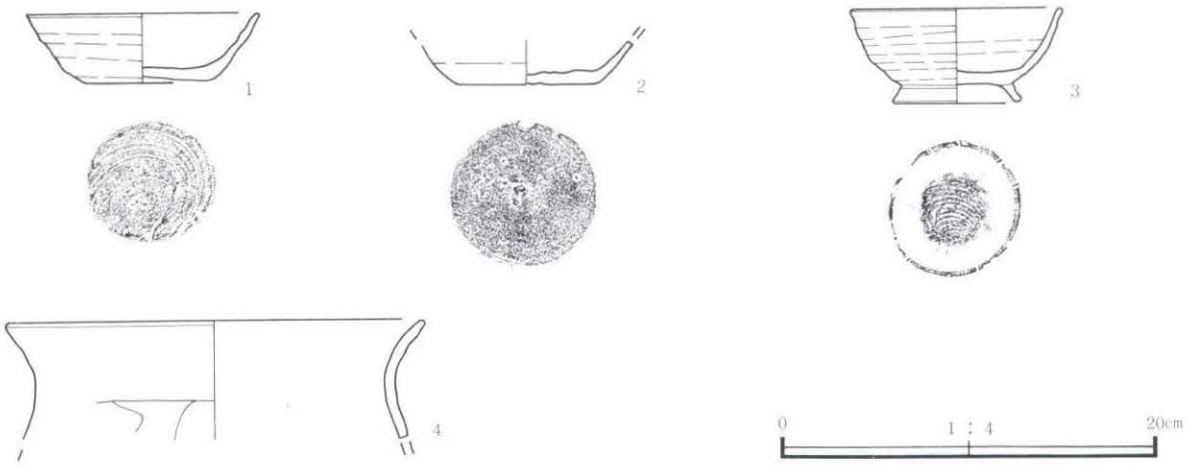
D－3号住居跡

位置　D－1区の南端付近、12A－22グリッドに位置する。　**形状**　北壁が1号溝に切られ、西側が調査区外であるため不明。　**規模**　長辺不明、短辺不明。壁高36cm。　**主軸方位**　N－93°－E。　**床面**　黒褐色土層で構築。残存状態は比較的良好で、全体的に焼土、炭化物が見られた。　**竈**　東壁に設置されている。袖は検出されず、燃焼部奥壁は緩やかに傾斜している。　**柱穴**　検出されなかった。　**貯蔵穴**　検出されなかった。　**周溝**　検出されなかった。　**遺物**　須恵器の坏・埦、土師器の甕が出土している。量的にはやや少ない。　**時代**　平安時代。



D－3号住居跡
1．暗褐色土　FA粒多量。焼土粒含む。
2．暗褐色土　FA粒多量。FAブロック（中）少量。
3．暗褐色土　FAブロック（小）多量、（中）多量。焼土ブロック多量、カーボンブロック多量。
4．黒褐色土　FAブロック（中）少量。カーボンブロック微量。

第55図　D－3号住居跡



第56図　D－3号住居跡出土遺物

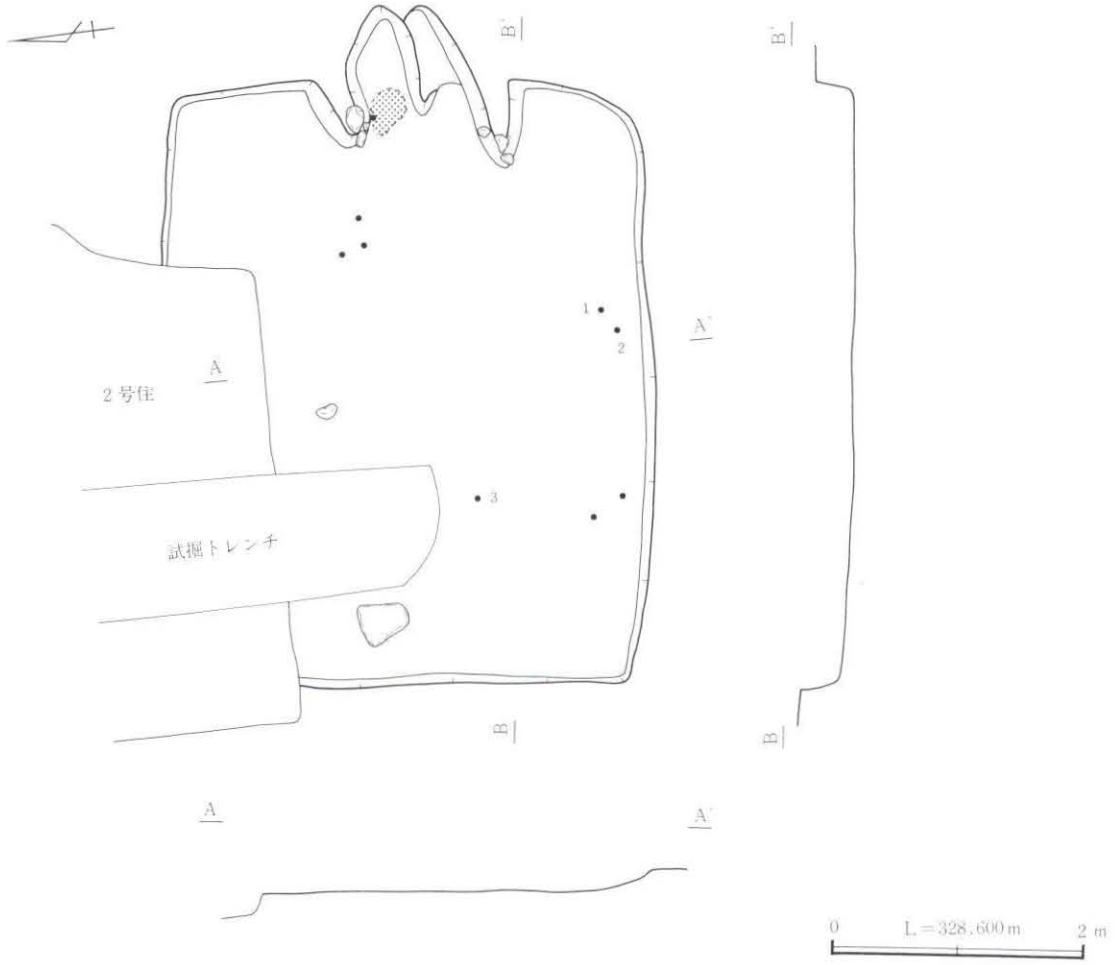
D－3号住居跡出土遺物観察表

遺物番号	種類 器種	出土状況 残存状況	法量(cm)	①胎土 ②色調 ③焼成	成・整形技法の特徴	備考
1	須恵器 坏	＋3cm 4/5	口 12.1 底 6.4 高 3.6	①粗砂粒・白色鉱物粒含む ②淡橙 ③普通	ロクロ整形、底部回転糸切り	
2	須恵器 坏	覆土 底部	口 底（7.4） 高	①白色鉱物粒を微量 ②緑灰 ③良好	ロクロ整形、底部回転篦切り	

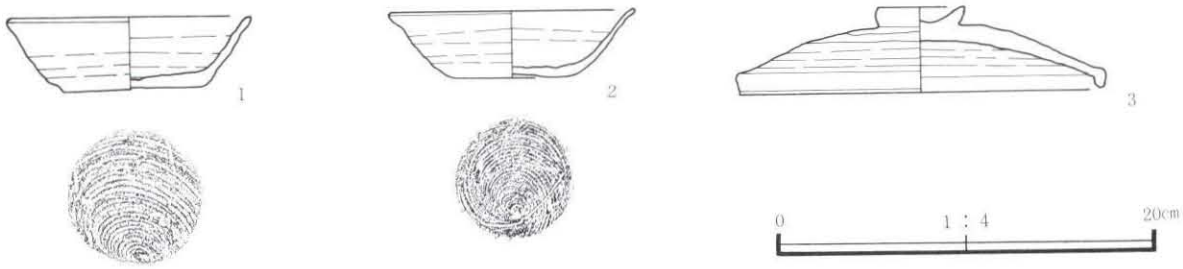
遺物番号	種類 器種	出土状況 残存状況	法量(cm)	①胎土 ②色調 ③焼成	成・整形技法の特徴	備考
3	須恵器 埦	±0cm 4/5	口 11.2 底 6.8 高 5.0	①粗砂粒・白色鉱物粒を多量 ②暗灰 ③良好	ロクロ整形、底部回転糸切り後高台貼付	
4	土師器 甕	＋2cm 口縁部破片	口 (22.0) 底 高	①砂粒・黒色鉱物粒を含む ②橙 ③普通	口縁部横撫で、胴部外面箆削り、内面撫で	

D－4号住居跡

位置 D－1区の南側、12A-20・21、12B－20・21グリッドに位置する。 **形状** 東西方向を長辺とする長方形。北壁の大半を2号住に切られる。 **規模** 長辺4.83m、短辺3.89m。壁高35cm。 **主軸方位** N－97°－E。 **床面** 平坦な床面が検出されたが、残存状態は中央部のみ良好であった。 **竈** 東壁中央に設置されている。検出状況からほぼ同じ箇所での造り替えが行われたと考えられる。新旧関係は北側が新しい。 **柱穴** 検出されなかった。 **貯蔵穴** 検出されなかった。 **周溝** 検出されなかった。 **遺物** 須恵器の坏・蓋が出土している。量的にはやや多い。 **時代** 平安時代。



第57図 D－4号住居跡



第58図　D－4号住居跡出土遺物

D－4号住居跡出土遺物観察表

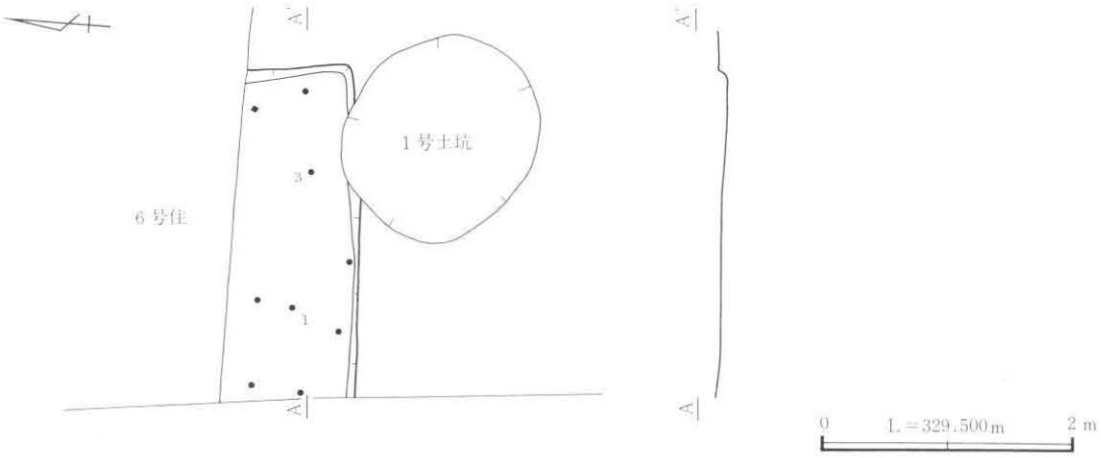
遺物番号	種類 器種	出土状況 残存状況	法量(cm)	①胎土 ②色調 ③焼成	成・整形技法の特徴	備考
1	須恵器 坏	＋10cm ほぼ完形	口 12.8 底 7.2 高 4.1	①粗砂粒・小礫を多量 ②灰白 ③良好	ロクロ整形、底部回転糸切り	口縁部一部欠損
2	須恵器 坏	＋8cm ほぼ完形	口 13.0 底 6.1 高 3.6	①小礫・白色鉱物粒を多量 ②灰白 ③良好	ロクロ整形、底部回転糸切り	口縁部一部欠損
3	須恵器 蓋	＋4cm 完形	摘 4.7 口 18.4 高 4.5	①小礫を微量 ②灰白 ③良好	ロクロ整形後摘み貼付、天井部外面回転篦削り	

D－5号住居跡

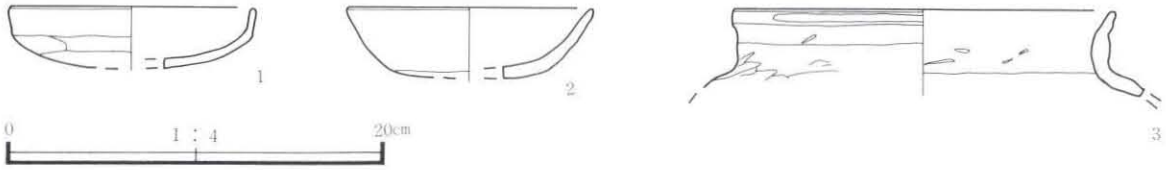
位置　D－2区の中央、11P－28・29グリッドに位置する。　**形状**　北側の大半を6号住に切られ、西側が調査区外であるため不明。　**規模**　長辺不明、短辺不明。壁高8cm。　**主軸方位**　東西軸でN－85°－E。

床面　黒褐色土層で構築。貼り床を持ち、残存状態は良好であった。　**竈**　検出されなかった。6号住居跡を構築する際に破壊されたと推定される。　**柱穴**　検出されなかった。　**貯蔵穴**　検出されなかった。

周溝　検出されなかった。　**遺物**　土師器の坏・甕が出土している。量的には少ない。　**時代**　平安時代。



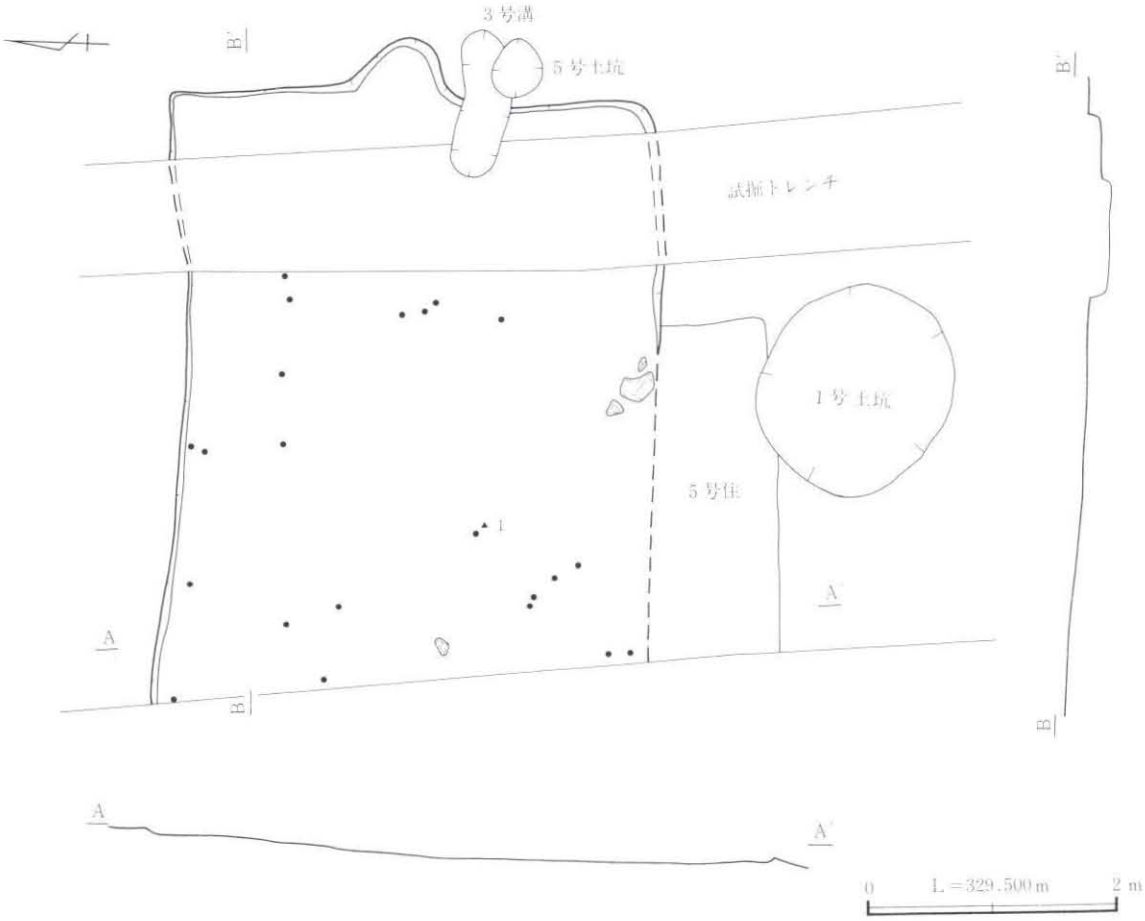
第59図　D－5号住居跡



第60図　D－5号住居跡出土遺物

D－5号住居跡出土遺物観察表

遺物番号	種類 器種	出土状況 残存状況	法量(cm)	①胎土 ②色調 ③焼成	成・整形技法の特徴	備考
1	土師器 坏	＋3cm 1/5	口 (13.0) 底 高	①黒色鉱物粒を多量 ②橙 ③普通	口縁部横撫で、体部外面篦削り、内面撫で	
2	土師器 坏	掘り方 1/4	口 (13.0) 底 (8.2) 高	①砂粒を含む ②橙 ③普通	口縁部横撫で、体・底部外面篦削り、内面撫で	
3	土師器 甕	±0cm 口縁部1/2	口 20.2 底 高	①黒色鉱物粒・白色鉱物粒を含む ②橙 ③普通	口縁部横撫で、胴部外面篦削り	



第61図　D－6号住居跡

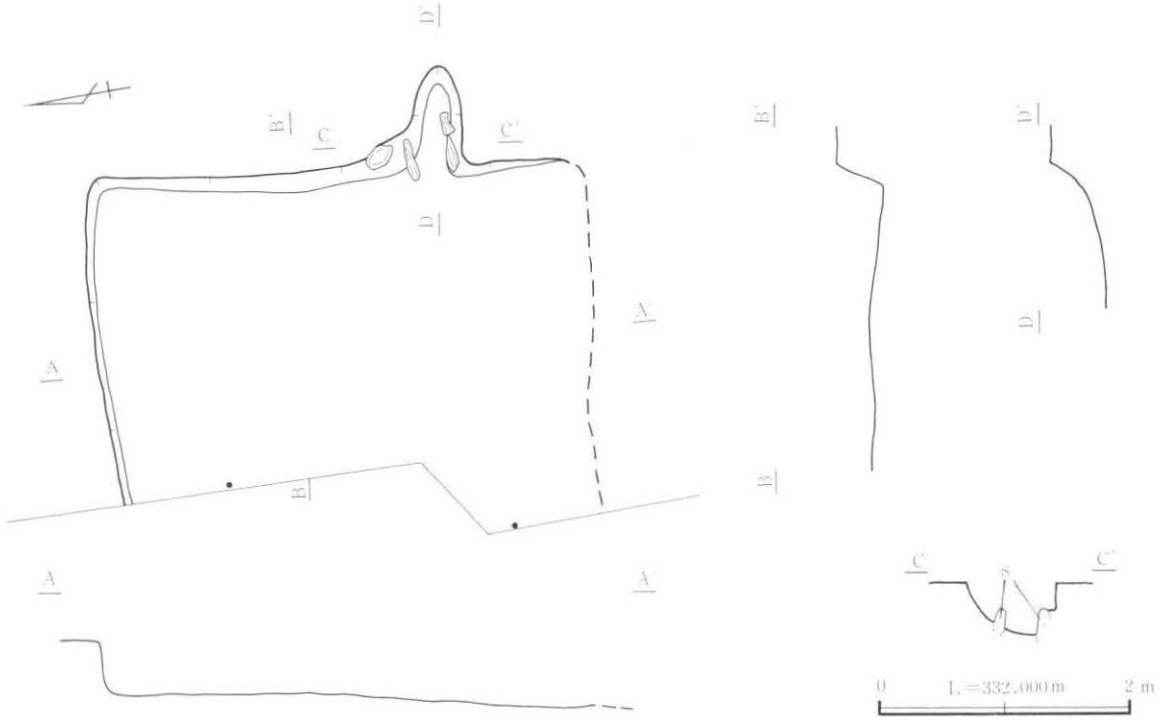
D－6号住居跡

位置　D－2区の中央、11P－28・29、11Q－28・29グリッドに位置する。　**形状**　西側が調査区外であるが、東西方向を長辺とする長方形と推定される。　**規模**　長辺不明、短辺3.96m。壁高11cm。　**主軸方位**　N－90°－E。　**床面**　黒褐色土層で構築。FAブロック、ロームブロックを含む暗褐色土で床を貼っており、特に中央部で堅緻な面が検出された。　**竈**　東壁中央に設置されている。袖は検出されず、燃焼部は壁外に設けられている。　**柱穴**　検出されなかった。　**貯蔵穴**　検出されなかった。　**周溝**　検出されなかった。　**遺物**　鉄製刀子が出土している程度で、土器類の出土は少なく、また破片であった。　**時代**　遺物からは判断できないが、5号住との重複から平安時代としておきたい。

第62図　D－6号住居跡出土遺物

D－6号住居跡出土遺物観察表

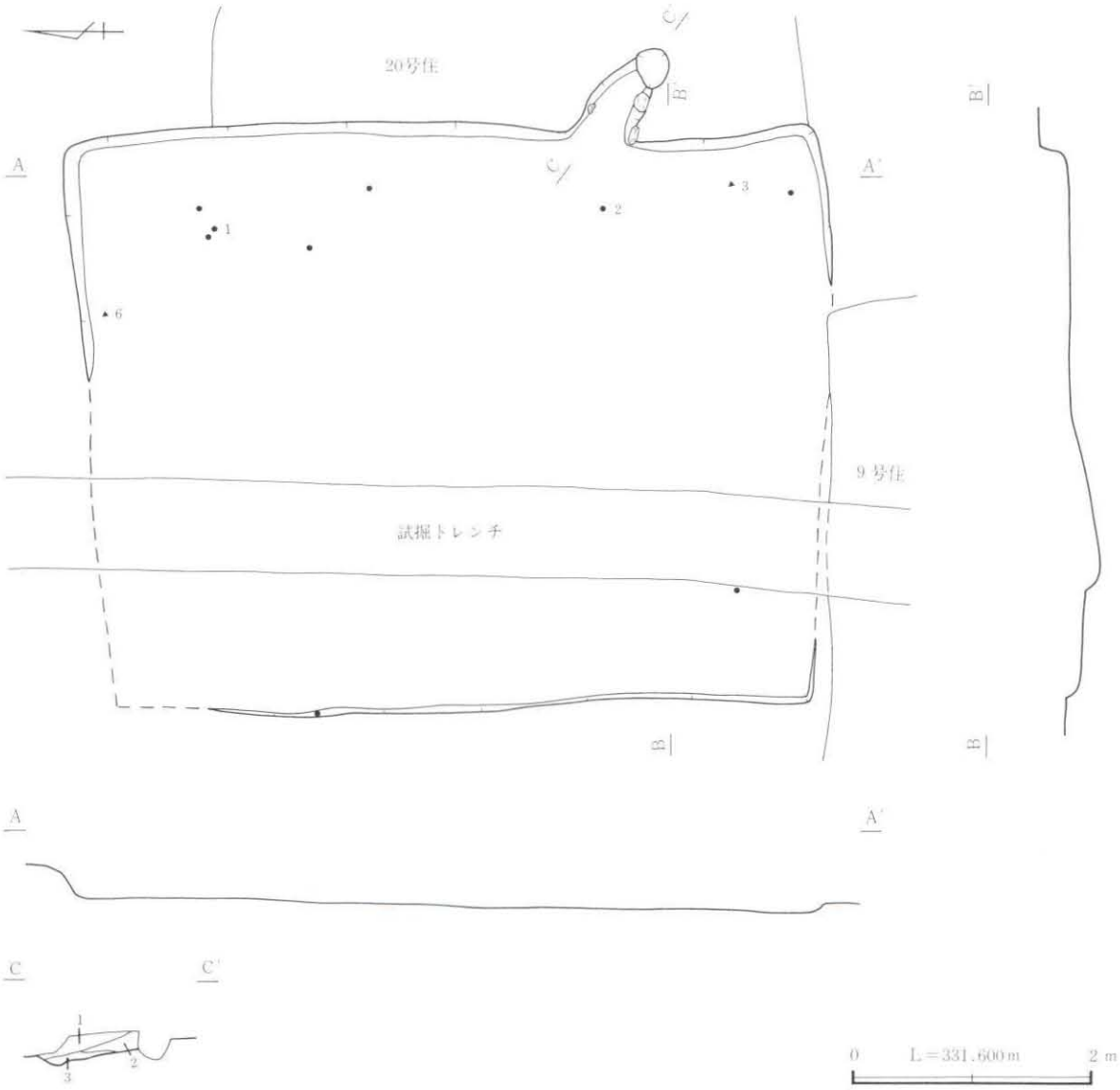
遺物番号	種類 器種	出土状況 残存状況	計測値	備考
1	鉄製品 刀子	覆土	長さ10.8cm　幅1.3cm　厚さ0.2cm　重量14.5g	



第63図　D－7号住居跡

D－7号住居跡

位置　D－3区の北端、11H－14、11I－13・14グリッドに位置する。　**形状**　西側が調査区外であるため不明。　**規模**　南北辺3.99m、壁高40cm。　**主軸方位**　N－98°－E。　**床面**　暗褐色土層で構築。残存状態は悪く、中央部のみ確認できた。　**竈**　東壁の南寄りに設置されている。燃焼部は住居壁外に張り出す。袖石を含め構築材の礫が検出された。　**柱穴**　検出されなかった。　**貯蔵穴**　検出されなかった。　**周溝**　検出されなかった。　**遺物**　きわめて少なく、土師器片・須恵器片が若干出土した程度である。　**時代**　不明。

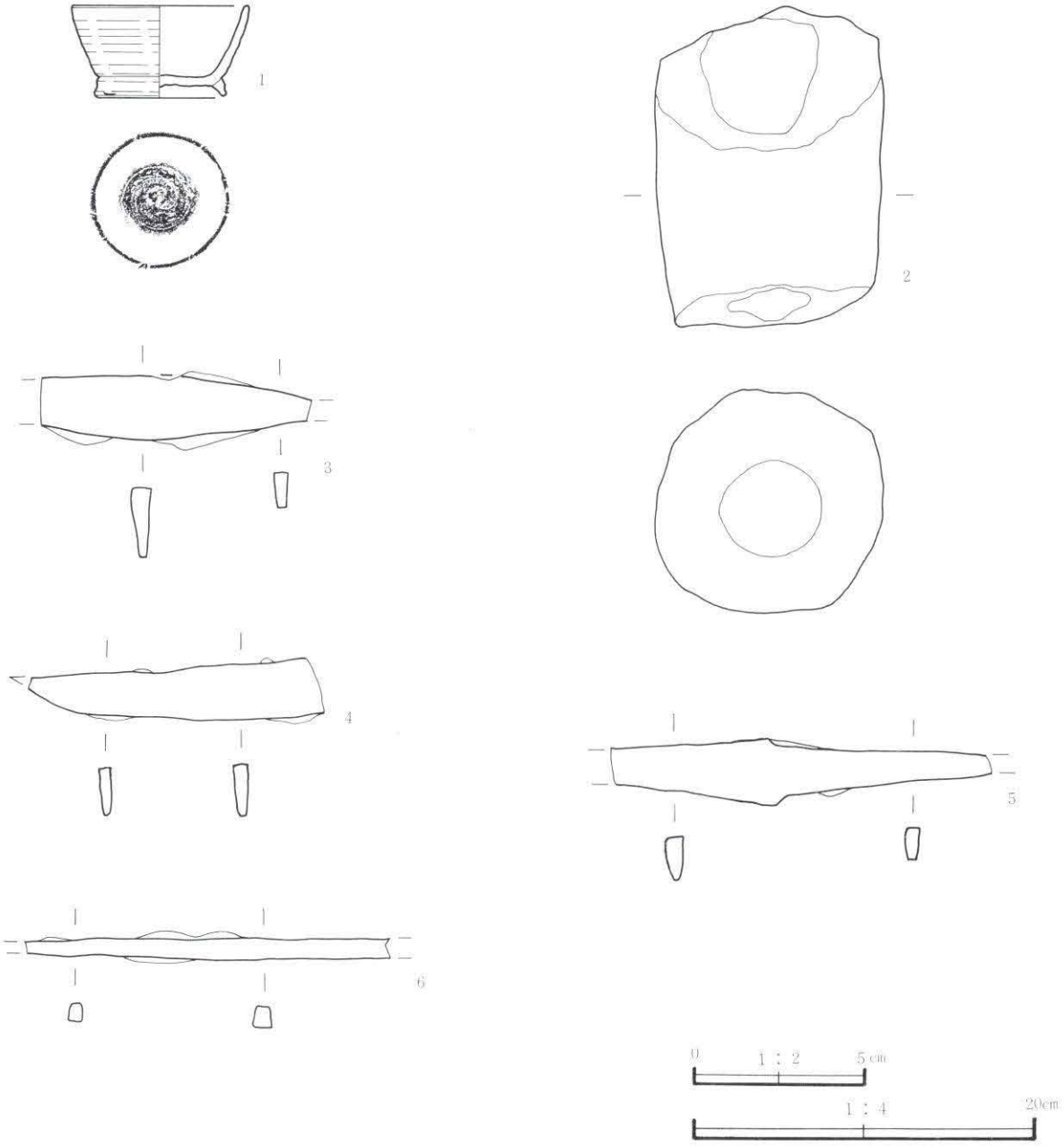


D－8号住居跡竈
1．黒褐色土　FAブロック少量。焼土ブロック少量。カーボンブロック少量。
2．黒褐色土　焼土ブロック微量。カーボンブロック微量。
3．黒褐色土　焼土ブロック多量。カーボンブロック多量。

第64図　D－8号住居跡

D－8号住居跡

位置　D－3区の北側、11H－14・15、11I－14・15グリッドに位置する。　**形状**　南北方向を長辺とする長方形。南壁の一部が9号住と接している。　**規模**　長辺6.40m、短辺4.98m。壁高23cm。　**主軸方位**　N－88°－E。　**床面**　暗褐色土層で構築。残存状態は良好で、全体的に堅緻な床面が検出された。　**竈**　東壁の南寄りに設置されている。袖は検出されず、燃焼部は住居壁外に張り出す。　**柱穴**　検出されなかった。　**貯蔵穴**　検出されなかった。　**周溝**　検出されなかった。　**遺物**　須恵器の埦のほか、羽口、鉄製刀子・釘が出土している。　**時代**　平安時代。



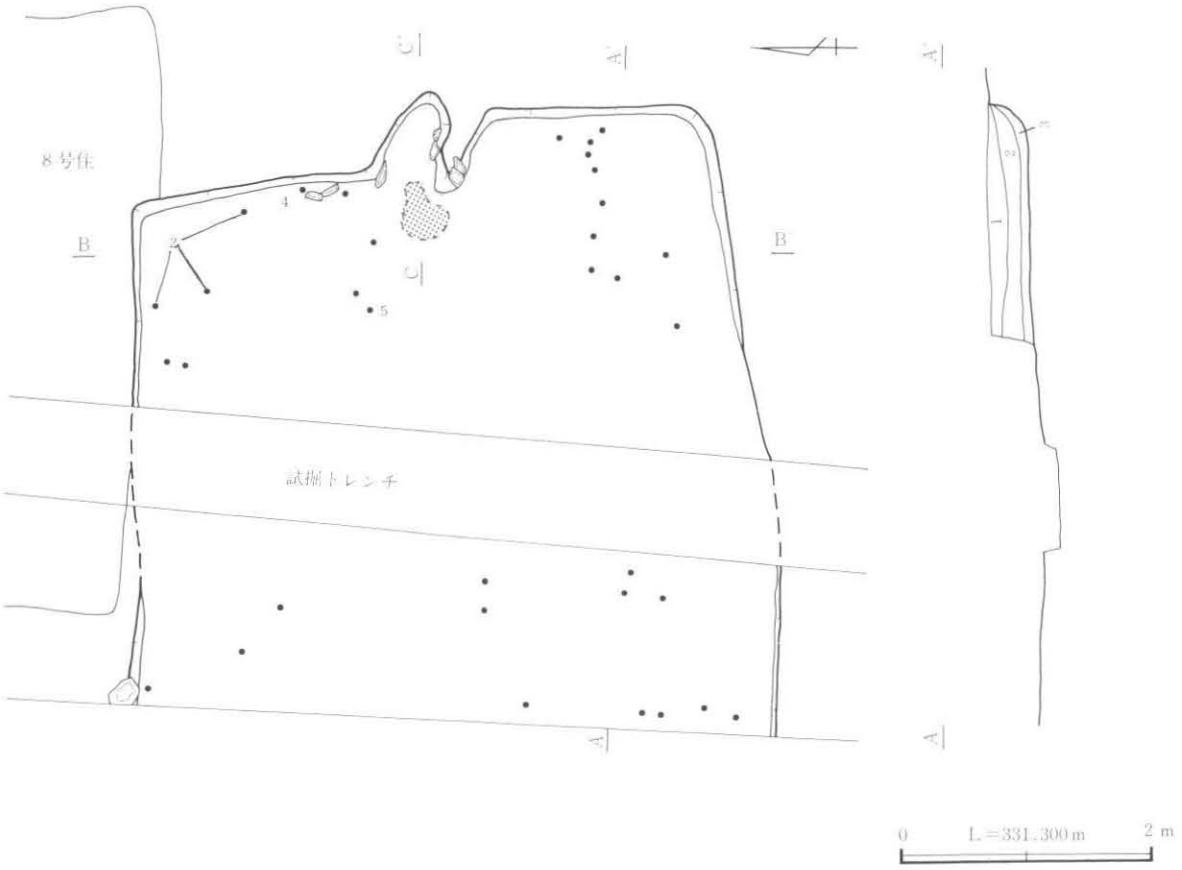
第65図　D－8号住居跡出土遺物

D－8号住居跡出土遺物観察表

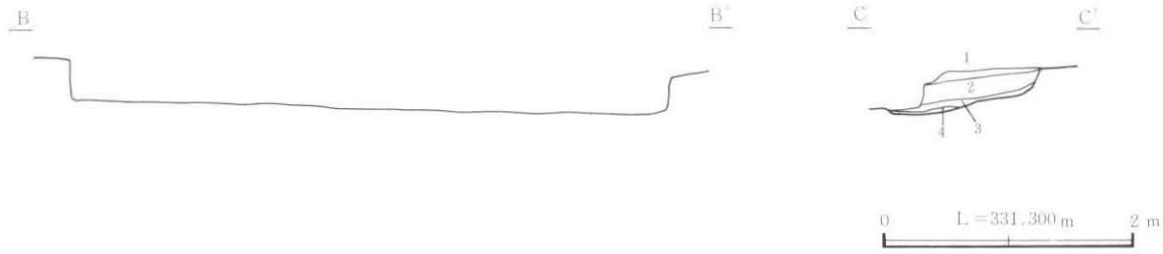
遺物番号	種類 器種	出土状況 残存状況	法量(cm)	①胎土 ②色調 ③焼成	成・整形技法の特徴	備考
1	須恵器 埦	＋1cm 1/4	口（10.4） 底 7.7 高 5.5	①砂粒を微量 ②灰 ③良好	ロクロ整形、底部回転篦切り後高台貼付	
2	土製品 羽口	±1cm	長さ（9.4）cm 径7.2cm 重量272g			両端部欠損
3	鉄製品 刀子	＋11cm	長さ（7.9）cm 幅2.0cm 厚さ0.6cm 重量27.6g			
4	鉄製品 刀子	覆土	長さ（8.7）cm 幅1.9cm 厚さ0.5cm 重量13.9g			
5	鉄製品 刀子	覆土	長さ（11.2）cm 幅2.0cm 厚さ0.5cm 重量22.5g			
6	鉄製品 釘	±0cm	長さ（10.7）cm 幅0.7cm 厚さ0.6cm 重量13.4g			

D－9号住居跡

位置 D－3区の北側、11H－15・16、11I－15・16グリッドに位置する。 **形状** 西側が調査区外であるが東西方向を長辺とする長方形と推定される。南壁はやや張り出している。 **規模** 南北辺5.15m、壁高29cm。 **主軸方位** N－89°－E。 床面 暗褐色土層で構築。FAブロックを含む黒褐色土で床を貼ってい



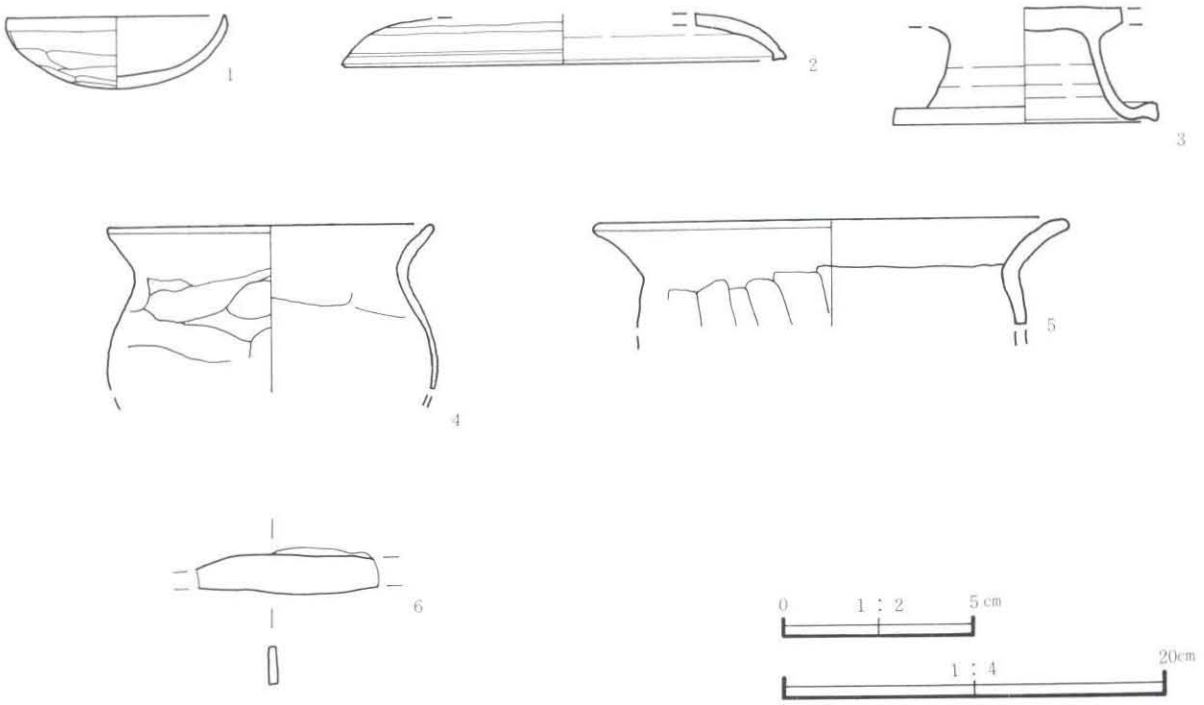
第66図 D－9号住居跡①



D－9号住居跡
1．暗褐色土　FA粒含む。FAブロック（中）少量。
2．暗褐色土　FA粒含む。FAブロック（小）多量。焼土ブロック少量。カーボンブロック少量。
3．暗褐色土　FA粒少量。焼土粒少量。カーボンブロック少量。
4．黒褐色土　FA粒多量。FAブロック（小）多量。
D－9号住居跡竈
1．暗褐色土　FA粒少量。FAブロック（小）少量。焼土ブロック少量。
2．暗褐色土　FA粒少量。FAブロック（中）少量。焼土ブロック含む。粘土ブロック含む。
3．暗褐色土　焼土粒少量。
4．焼土

第67図　D－9号住居跡②

る。残存状態は良好で、全体的に堅緻な床面が検出された。　**竈**　東壁中央に設置されている。袖は右袖のみ検出された。　**柱穴**　検出されなかった。　**貯蔵穴**　検出されなかった。　**周溝**　検出されなかった。　**遺物**　土師器の坏・甕、須恵器の蓋・高盤が出土している。量的には多い。　**時代**　奈良時代。

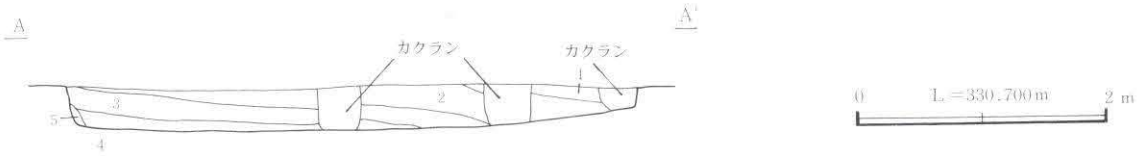


第68図　D－9号住居跡出土遺物

D－9号住居跡出土遺物観察表

遺物番号	種類 器種	出土状況 残存状況	法量(cm)	①胎土 ②色調 ③焼成	成・整形技法の特徴	備考
1	土師器 坏	掘り方 1/2	口 (11.4) 底 高 3.8	①粗砂粒・小礫を含む ②橙 ③普通	口縁部横撫で、体部外面篦削り、内面撫で	
2	須恵器 蓋	＋1cm 口縁部1/2	口 (23.2) 底 高	①砂粒を微量 ②灰白 ③良好	ロクロ整形、天井部外面回転篦削り	
3	須恵器 高盤	覆土 脚部	口 底 (13.8) 高	①細砂粒を含む ②灰白 ③良好	ロクロ整形	
4	土師器 甕	＋6cm 口～胴上部1/5	口 (17.0) 底 高	①砂粒・黒色鉱物粒を含む ②橙 ③良好	口縁部横撫で、胴部外面篦削り、内面撫で	
5	土師器 甕	±0cm 口～胴上部	口 24.8 底 高	①砂粒・粗砂粒を含む ②にぶい黄橙 ③普通	口縁部横撫で、胴部外面篦削り、内面撫で	
6	鉄製品	覆土	長さ (4.8) cm 幅1.2cm 厚さ0.3cm 重量6.6g			刀子か？

第69図 D－10号住居跡①



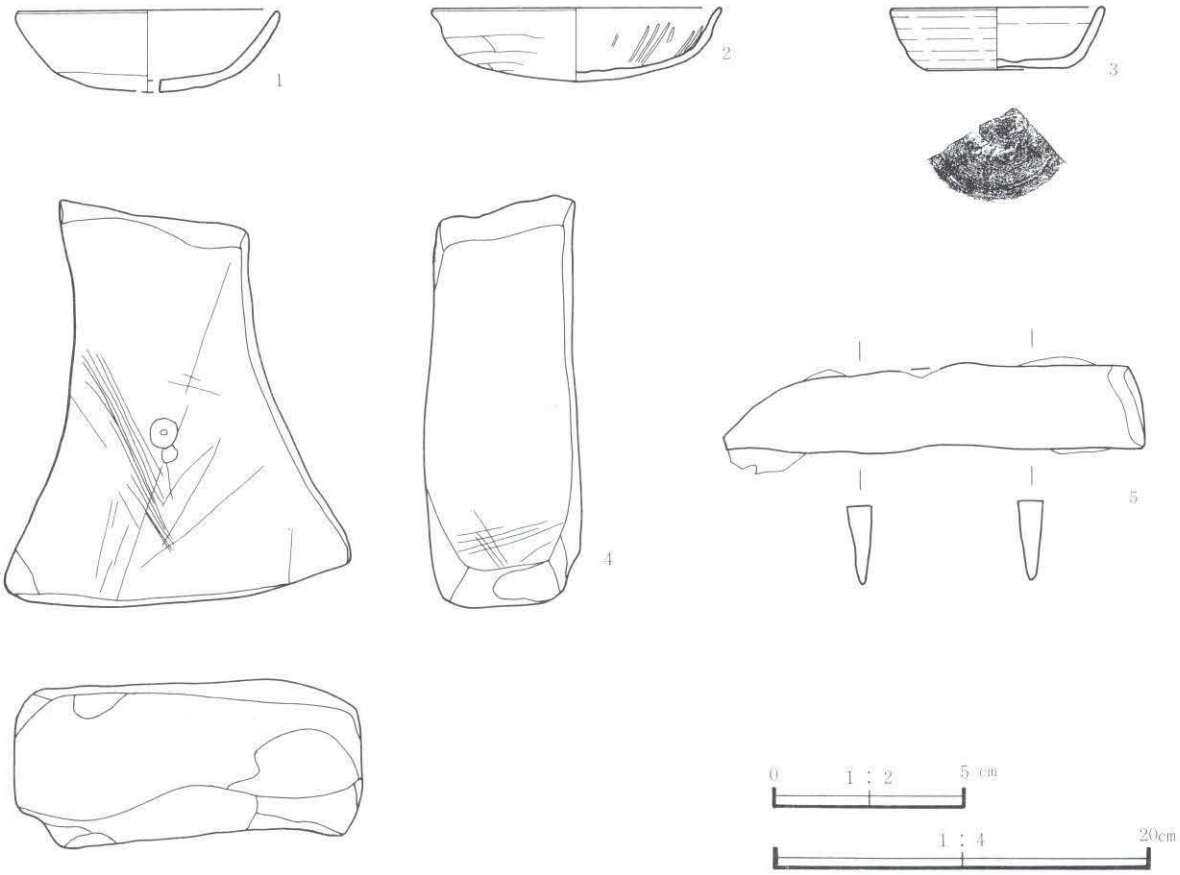
D－10号住居跡
1．暗褐色土　ＦＡ粒少量。ＦＡブロック（小）微量。
2．暗褐色土　ＦＡ粒含む。ＦＡブロック（小）含む、（大）含む。カーボンブロック微量。
3．黒褐色土　ＦＡ粒少量。ＦＡブロック（小）少量、（中）含む。
4．黒褐色土　ＦＡ粒微量。ＦＡブロック（小）微量。
5．黒色土

第70図　Ｄ－10号住居跡②

Ｄ－10号住居跡

位置　Ｄ－３区の南側、11Ｈ－20、11Ｉ－20・21グリッドに位置する。　**形状**　東西方向を長辺とする長方形。南東隅を14号住に切られる。　**規模**　長辺6.36ｍ、短辺4.54ｍ。壁高48㎝。　**主軸方位**　Ｎ－97°－Ｅ。

床面　黒褐色土層で構築。残存状態は良好で堅緻な床面が検出された。　**竈**　14号住に切られた東壁南寄りに設置されていたと推定される。　**柱穴**　検出されなかった。　**貯蔵穴**　検出されなかった。　**周溝**　北壁の東側で検出された。深さは５㎝前後である。　**遺物**　土師器の坏、須恵器の坏、砥石、鉄製鎌が出土している。量的には多い。　**時代**　奈良時代。



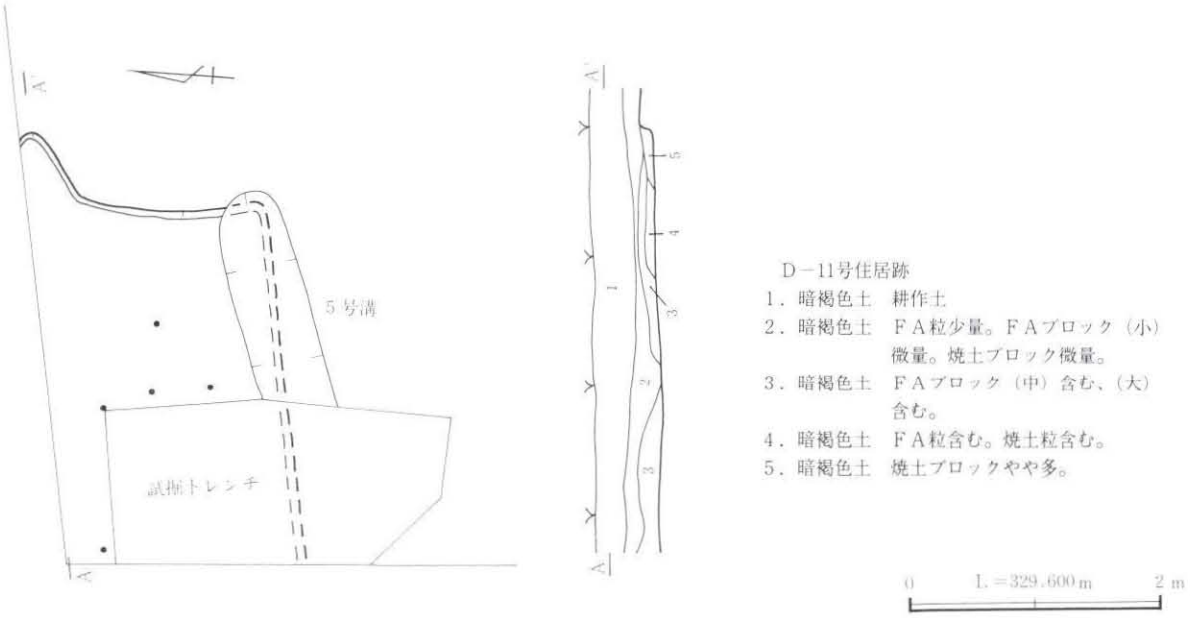
第71図　Ｄ－10号住居跡出土遺物

D－10号住居跡出土遺物観察表

遺物番号	種類 器種	出土状況 残存状況	法量(cm)	①胎土 ②色調 ③焼成	成・整形技法の特徴	備考
1	土師器 坏	－2cm 2/5	口（13.6） 底 高	①砂粒・黒色鉱物粒を含む ②橙 ③普通	口縁部横撫で、体部外面篦削り、内面撫で	
2	土師器 坏	覆土 1/4	口（15.2） 底 高 3.9	①砂粒・黒色鉱物粒を含む ②橙 ③普通	口縁部横撫で、体部外面篦削り、内面撫で	体部内面に放射状篦磨き
3	須恵器 坏	覆土 1/4	口（11.2） 底（7.8） 高 3.3	①白色鉱物粒を含む ②灰白 ③良好	ロクロ整形、底部回転篦切り後回転篦削り	
4	石製品 砥石	覆土	長さ（10.9）cm 幅9.2cm 高さ4.3cm 重量474g			
5	鉄製品 鎌	－1cm	長さ（11.2）cm 幅2.4cm 厚さ0.7cm 35.8g			

D－11号住居跡

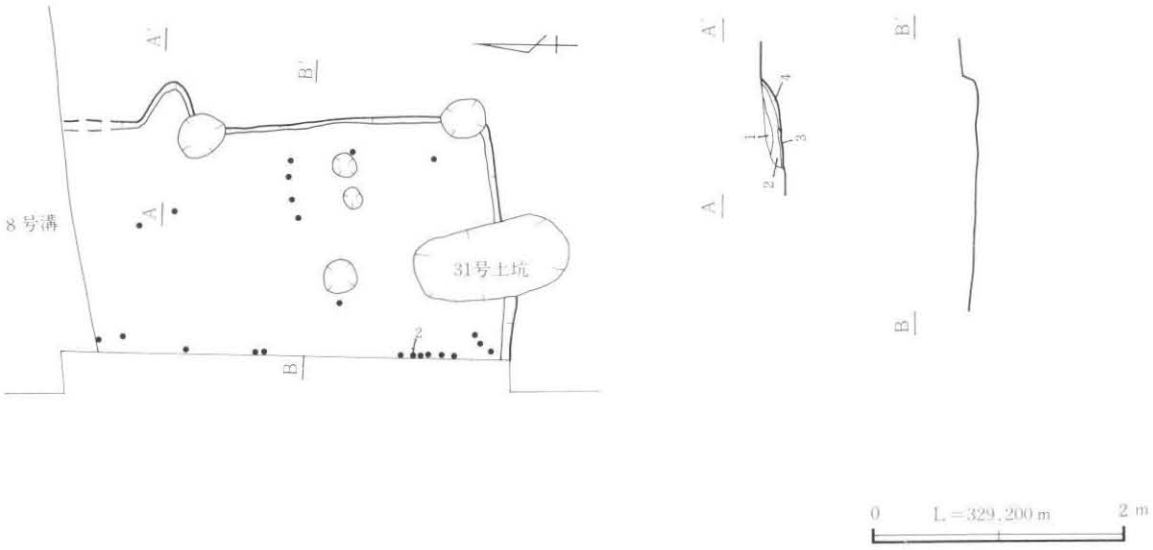
位置 D－4区の北端、12F－34・35グリッドに位置する。 **形状** 北及び西側が調査区外であるため不明。南壁を5号溝に切られる。 **規模** 長辺不明、短辺不明。壁高10cm。 **主軸方位** N－79°－E。 **床面** 黒褐色土層で構築。残存状態は悪かった。 **竈** 東壁に設置されている。調査し得たのは南半部のみで袖も検出されなかった。 **柱穴** 検出されなかった。 **貯蔵穴** 検出されなかった。 **周溝** 検出されなかった。 **遺物** 少量の土器片が出土しているものの、埋没過程で混入した遺物が多く、住居に伴う遺物と峻別することができなかった。 **時代** 不明。



第72図 D－11号住居跡

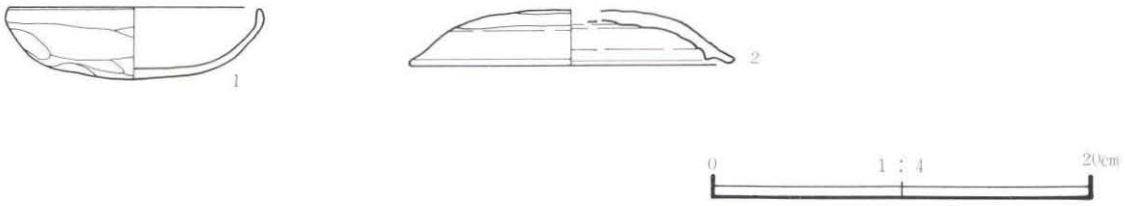
D－12号住居跡

位置　D－5区の北端、11Q－33・34グリッドに位置する。　**形状**　北側を8号溝に切られ、西側が調査区外となるため不明。　**規模**　長辺不明、短辺不明。壁高23cm。　**主軸方位**　N－89°－E。　**床面**　ローム層で構築。暗褐色土で床を貼っている。残存状態は良好であった。　**竈**　東壁に設置されている。袖は検出されず、燃焼部は住居壁外に張り出す。　**柱穴**　検出されなかった。　**貯蔵穴**　検出されなかった。　**周溝**　検出されなかった。　**遺物**　土師器の坏、須恵器の蓋が出土している。量的にはやや少ない。　**時代**　奈良時代。



D－12号住居跡竈
1．暗褐色土　焼土ブロック少量。カーボンブロック少量。
2．暗褐色土　ロームブロック少量。焼土ブロック含む。カーボンブロック少量。
3．赤色土　焼土。
4．明褐色土　ロームブロック多量。焼土ブロック少量。

第73図　D－12号住居跡

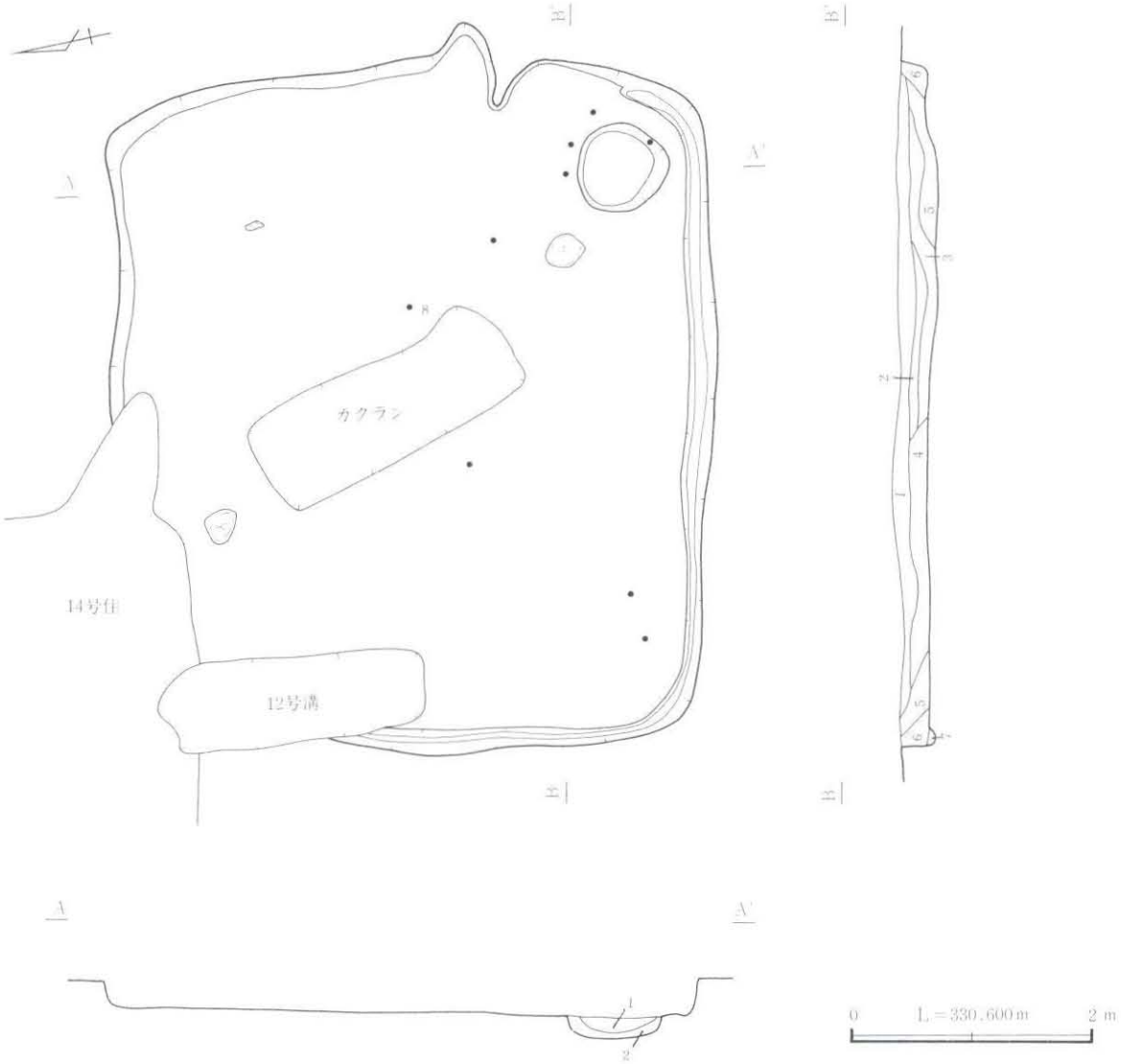


第74図　D－12号住居跡出土遺物

D－12号住居跡出土遺物観察表

遺物番号	種類 器種	出土状況 残存状況	法量(cm)	①胎土 ②色調 ③焼成	成・整形技法の特徴	備考
1	土師器 坏	堀り方 2/3	口 13.2 底 高 3.9	①小礫・黒色鉱物粒を含む ②橙 ③良好	口縁部横撫で、体部外面篦削り、内面撫で	

遺物番号	種類 器種	出土状況 残存状況	法量(cm)	①胎土 ②色調 ③焼成	成・整形技法の特徴	備考
2	須恵器 蓋	＋8cm 2/5	口 (17.2) 摘 高	①粗砂粒を含む ②灰白 ③良好	ロクロ整形、天井部外面回転篦削り	



D－13号住居跡

1．暗褐色土　FA粒含む。FAブロック（小）含む。焼土ブロック少量。カーボンブロック少量。
2．暗褐色土　FA粒多量。FAブロック（小）多量、（中）多量。焼土ブロック少量。カーボンブロック少量。
3．黒褐色土　FAブロック（小）少量。カーボンブロック多量。
4．黒褐色土　FAブロック（小）少量。焼土ブロック少量。カーボンブロック多量。
5．暗褐色土　FA粒少量。FAブロック（小）少量。焼土ブロック少量。
6．黒褐色土　ロームブロック（小）含む
7．黒褐色土　ロームブロック（小）少量。

D－13号住居跡貯蔵穴

1．黒褐色土　FA粒含む。FAブロック（小）含む。焼土ブロック少量。カーボンブロック少量。
2．暗褐色土　FA粒含む。FAブロック（小）少量。ローム粒含む。カーボンブロック少量。

第75図　D－13号住居跡

D－13号住居跡

位置　D－3区の南側、11Ｉ－21・22、11Ｊ－21・22グリッドに位置する。　**形状**　東西方向を長辺とする長方形。14号住、12号溝に北西隅を切られる。　**規模**　長辺5.77m、短辺5.09m。壁高30cm。　**主軸方位**　N－113°－E。　**床面**　ローム層で構築。貼り床が検出され、残存状態は良好であった。　**竈**　東壁のやや南寄りに設置されている。袖は右袖のみ検出された。　**柱穴**　検出されなかった。　**貯蔵穴**　南東隅で検出された。規模は径79×70cm、深さ20cmである。　**周溝**　南壁及び西壁で検出された。深さは3～7cmである。　**遺物**　土師器の坏・甕、須恵器の坏・埦・蓋、鉄製品が出土している。　**時代**　奈良時代。

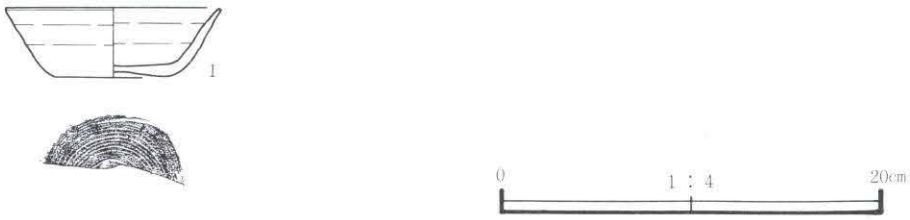
第76図　D－13号住居跡出土遺物

D－13号住居跡出土遺物観察表

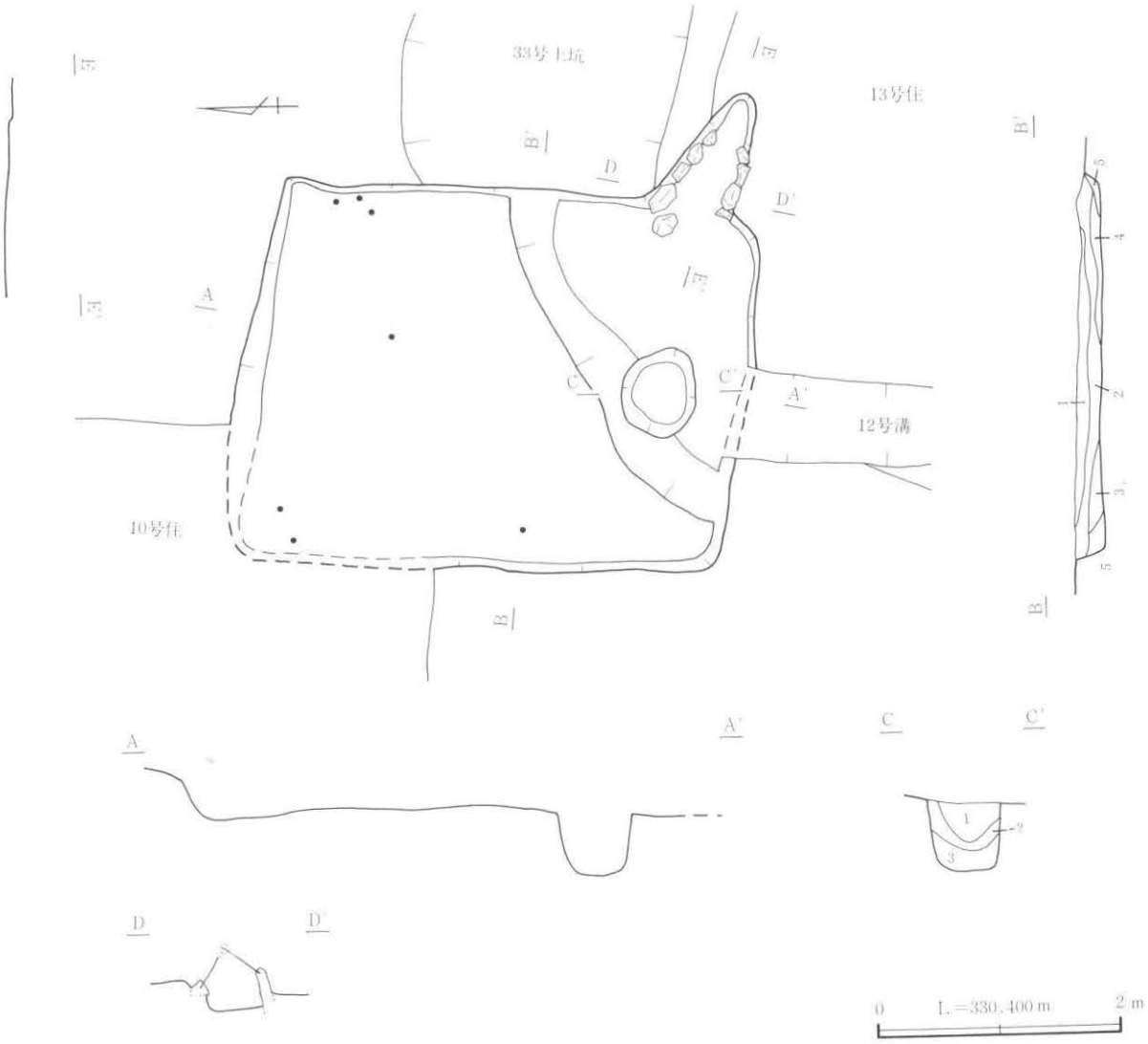
遺物番号	種類 器種	出土状況 残存状況	法量(cm)	①胎土 ②色調 ③焼成	成・整形技法の特徴	備考
1	土師器 坏	覆土 2/5	口 (17.2) 底 高 5.6	①砂粒を含む ②橙 ③良好	口縁部横撫で、体部外面篦削り、内面撫で	
2	土師器 坏	貯蔵穴 4/5	口 15.1 底 高 4.7	①細砂粒・白色鉱物粒を含む ②にぶい橙 ③普通	口縁部横撫で、体部外面篦削り、内面撫で後放射状篦磨き	
3	須恵器 坏	貯蔵穴 1/2	口 (13.2) 底 (9.6) 高 3.7	①細砂粒を微量 ②灰白 ③良好	ロクロ整形、底部回転篦切り後撫で調整	
4	須恵器 埦	覆土 2/5	口 (17.0) 底 (10.4) 高 3.9	①粗砂粒を含む ②灰白 ③良好	ロクロ整形、底部回転篦切り後回転篦削り	
5	須恵器 椀	覆土 1/3	口 (14.2) 底 9.8 高 3.9	①粗砂粒・白色鉱物粒を含む ②明オリーブ灰 ③良好	ロクロ整形、底部回転篦切り後回転篦削り	
6	須恵器 蓋	貯蔵穴 1/3	口 (11.4) 摘 4.2 高 2.7	①白色鉱物粒を微量 ②灰 ③良好	ロクロ整形、摘み貼付	
7	土師器 甕	覆土 口～胴上部1/4	口 (25.2) 底 高	①細砂粒・黒色鉱物粒を含む ②浅黄橙 ③普通	口縁部横撫で、胴部外面篦削り内面撫で	
8	土師器 甕	＋4cm 口～胴上部1/4	口 (19.2) 底 高	①砂粒・黒色鉱物粒を含む ②橙 ③普通	口縁部横撫で、胴部外面篦削り内面撫で	
9	鉄製品	覆土	長さ6.3cm 幅3.3cm 厚さ1.0cm 重量90.9g			

D－14号住居跡

位置 D－3区の南側、11I－20・21、11J－20・21グリッドに位置する。 **形状** 南北方向を長辺とする長方形で南東隅は若干落ち込んでいる。南壁の中央を12号溝に切られる。 **規模** 長辺4.27m、短辺3.22m。壁高40cm。 **主軸方位** N－97°－E。 **床面** 南東隅付近が若干落ち込んでいる。残存状態は良好で、堅緻な床面が検出された。 **竈** 南東隅付近に設置されている。袖は検出されなかったが、住居壁外に張り出す燃焼部の側壁に礫が据えられていた。 **柱穴** 検出されなかった。 **貯蔵穴** 住居の南寄りで検出された。規模は径76×62cm、深さ53cmである。 **周溝** 検出されなかった。 **遺物** 須恵器の坏が出土している。量的にはやや少ない。 **時代** 平安時代。



第77図 D－14号住居跡出土遺物



D－14号住居跡

1．暗褐色土　ＦＡ粒少量。ＦＡブロック（小）少量。焼土ブロック（小）微量。
2．暗褐色土　ＦＡ粒少量。ＦＡブロック（小）少量。ロームブロック（中）含む。焼土ブロック（小）微量。カーボンブロック（小）少量。
3．暗褐色土　ロームブロック（中）含む。焼土ブロック（小）微量。粘土ブロック含む。
4．暗褐色土　ロームブロック（中）含む。焼土ブロック（小）少量。カーボンブロック（小）少量。
5．黒褐色土　ＦＡブロック（小）少量。焼土ブロック（小）少量。

D－14号住居跡貯蔵穴

1．黒褐色土　ＦＡ粒少量。ＦＡブロック（小）少量。焼土ブロック（小）少量。カーボンブロック（小）少量。
2．黒褐色土　ＦＡブロック（小）含む。ロームブロック（中）含む。カーボンブロック（小）含む。粘土ブロック含む。
3．黒褐色土　ＦＡブロック（小）少量。ロームブロック（中）少量。カーボンブロック（小）少量。

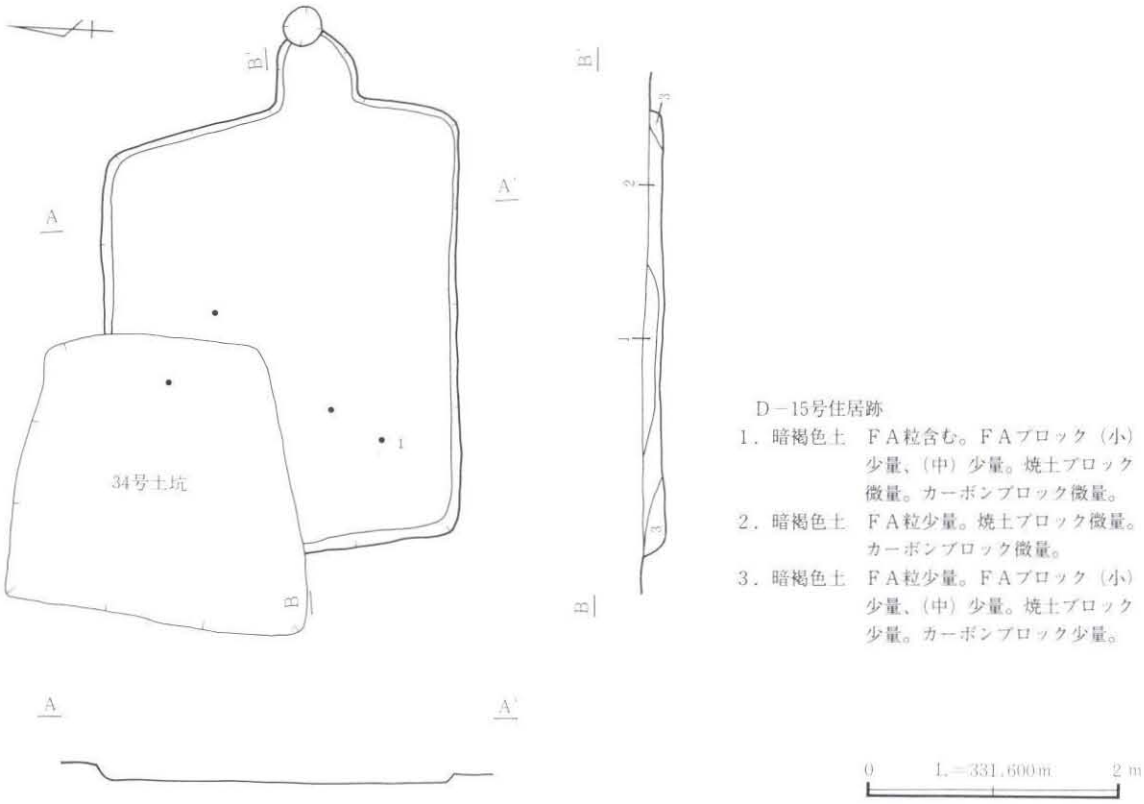
第78図　Ｄ－14号住居跡

Ｄ－14号住居跡出土遺物観察表

遺物番号	種類 器種	出土状況 残存状況	法量(cm)	①胎土 ②色調 ③焼成	成・整形技法の特徴	備考
1	須恵器 坏	覆土 2/5	口（11.4） 底（6.0） 高 3.7	①細砂粒を微量 ②灰 ③良好	ロクロ整形、底部回転糸切り	

D－15号住居跡

位置　D－3区北側、11J－14・15、11K－14・15グリッドに位置する。　**形状**　東西方向を長辺とする長方形。北西隅を3号土坑に切られる。　**規模**　長辺3.63m、短辺2.82m。壁高17cm。　**主軸方位**　N－86°－E。　**床面**　16号住居跡の覆土中に構築。平坦だが残存状態はやや悪い。　**竈**　東壁やや南寄りに設置されている。袖は検出されず、燃焼部は住居壁外に張り出す。　**柱穴**　検出されなかった。　**貯蔵穴**　検出されなかった。　**周溝**　検出されなかった。　**遺物**　量的には少ないが、須恵器の蓋が出土している。　**時代**　平安時代。



第79図　D－15号住居跡

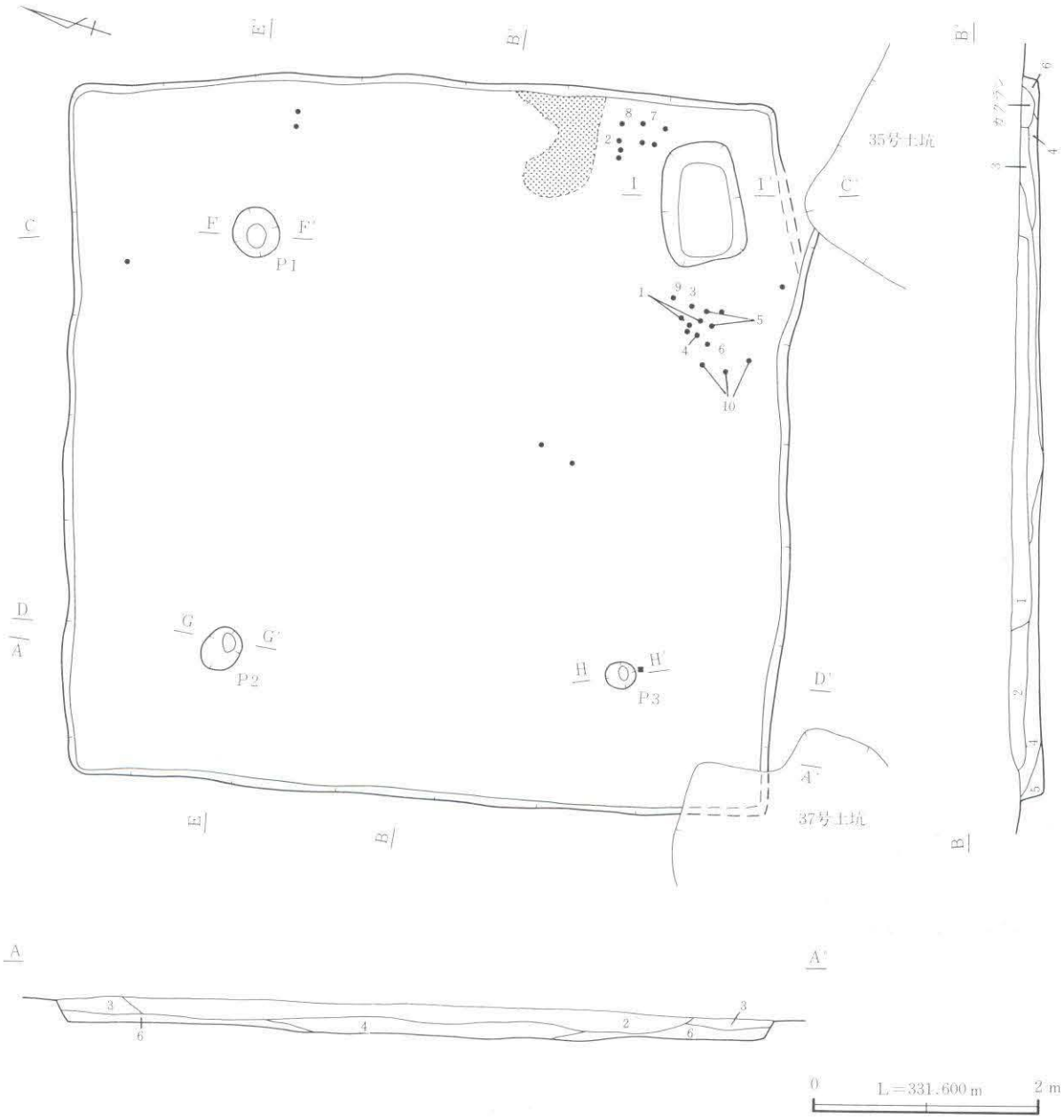
第80図　D－15号住居跡出土遺物

D－15号住居跡出土遺物観察表

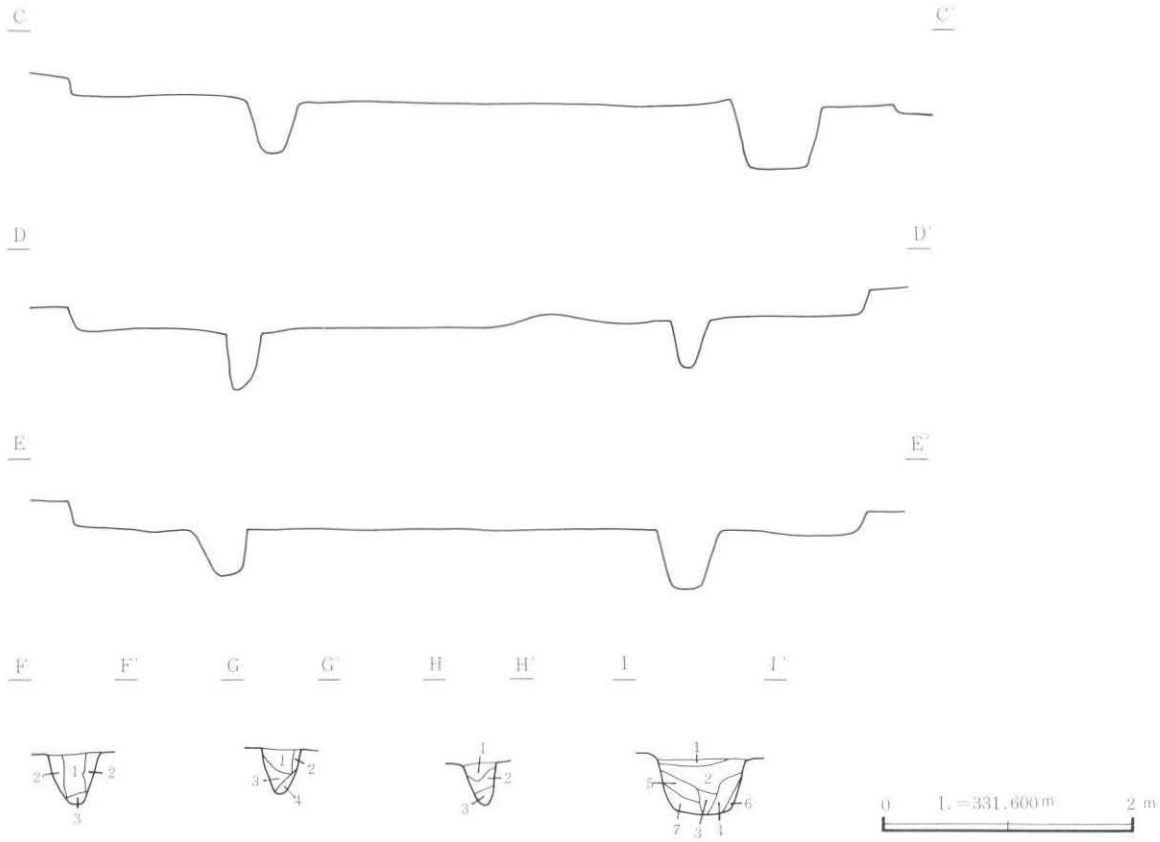
遺物番号	種類 器種	出土状況 残存状況	法量(cm)	①胎土 ②色調 ③焼成	成・整形技法の特徴	備考
1	須恵器 蓋	＋4cm 1/2	口 (16.6) 摘 3.4 高 3.6	①粗砂粒・小礫を含む ②灰白 ③良好	ロクロ整形後摘み貼付、天井部外面回転篦削り	

D－16号住居跡

位置 D－3区の北側、11J－14・15、11K－14・15 グリッドに位置する。 **形状** 正方形。南西隅を34号土坑に、覆土の一部を15号住に切られる。 **規模** 長辺（東西）6.61m、短辺（南北）6.49m。壁高23



第81図 D－16号住居跡①



D－16号住居跡

1．暗褐色土　15号住居跡覆土。
2．黄色土　　ＦＡ。
3．暗褐色土　ＦＡ粒少量。ＦＡブロック（小）少量。
4．黒褐色土　ＦＡ粒少量。ＦＡブロック（小）少量、（中）少量。焼土ブロック少量。カーボンブロック少量。
5．黒色土　　ロームブロック（小）少量。
6．暗褐色土　ロームブロック（小）含む。カーボンブロック少量。

D－16号住居跡柱穴

P_1

1．ＦＡ　　白黄緑色
2．暗褐色土　ローム粒少量。ロームブロック（中）少量。
3．黒褐色土　ローム粒少量。

P_2

1．ＦＡ　　白黄緑色
2．黒褐色土　ＦＡ粒少量。
3．暗褐色土　ローム粒含む。ＦＡブロック（小）含む。
4．黒褐色土　ロームブロック（小）少量。

P_3

1．暗褐色土　ＦＡブロック（小）少量。ローム粒含む。ロームブロック（小）少量。
2．黒褐色土　ＦＡブロック（小）含む。ローム粒少量。カーボンブロック微量。
3．黒褐色土　ローム粒微量。ロームブロック（小）微量。

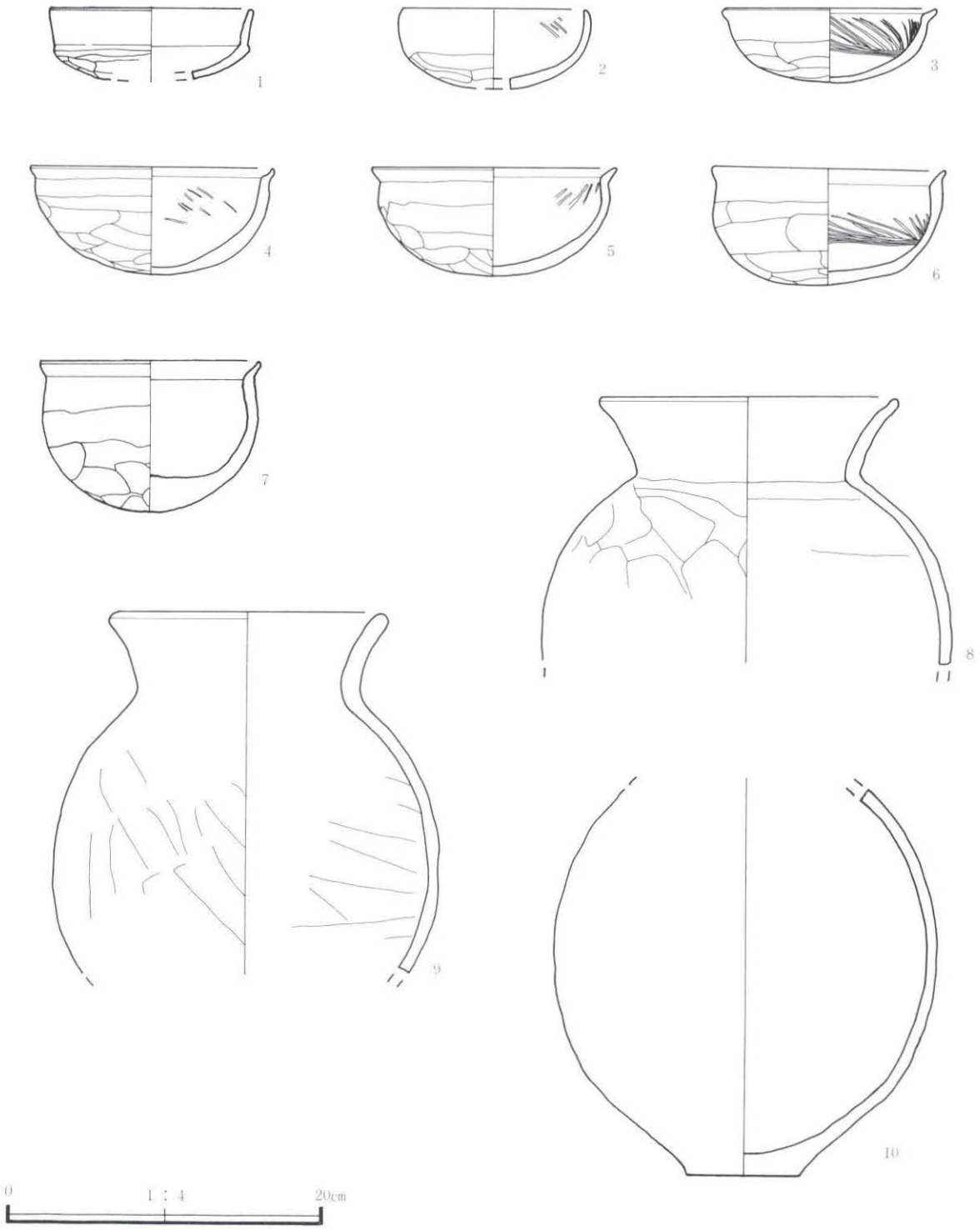
D－16号住居跡貯蔵穴

1．暗褐色土　ＦＡ粒少量。カーボンブロック少量。
2．黒褐色土　ＦＡ粒少量。ＦＡブロック（小）少量。焼土ブロック少量。
3．黒褐色土　ＦＡ粒少量。焼土ブロック少量。
4．黒色土　　ＦＡ粒含む。ＦＡブロック（大）含む。ローム粒少量。ロームブロック（小）少量。
5．暗褐色土　ＦＡ粒少量。ローム粒少量。焼土ブロック少量。
6．黒褐色土　ＦＡブロック（小）少量、（中）少量。ロームブロック（小）少量。
7．暗褐色土　ＦＡブロック（小）少量、（中）少量。ローム粒少量。焼土ブロック少量。カーボンブロック少量。

第82図　Ｄ－16号住居跡②

cm。　**主軸方位**　N－73°－E。　**床面**　ローム層で構築されている。　**竈**　検出されなかったが、東壁の南寄りに焼土の分布が見られた。　**柱穴**　３基が検出された。規模はP_1が径46×43cm、深さ47cm、P_2が径

40×38cm、深さ40cm、P_3が径26×24cm、深さ57cmである。　**貯蔵穴**　南東隅で検出された。規模は径108×75cm、深さ54cmである。　**周溝**　検出されなかった。　**遺物**　土師器の坏・甕が出土している。貯蔵穴付近での出土が多かった。　**時代**　古墳時代。



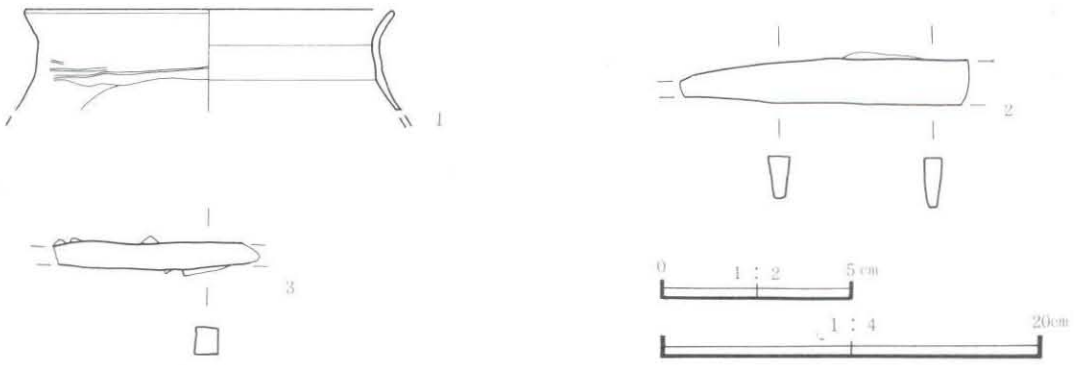
第83図　D－16号住居跡出土遺物

D－16号住居跡出土遺物観察表

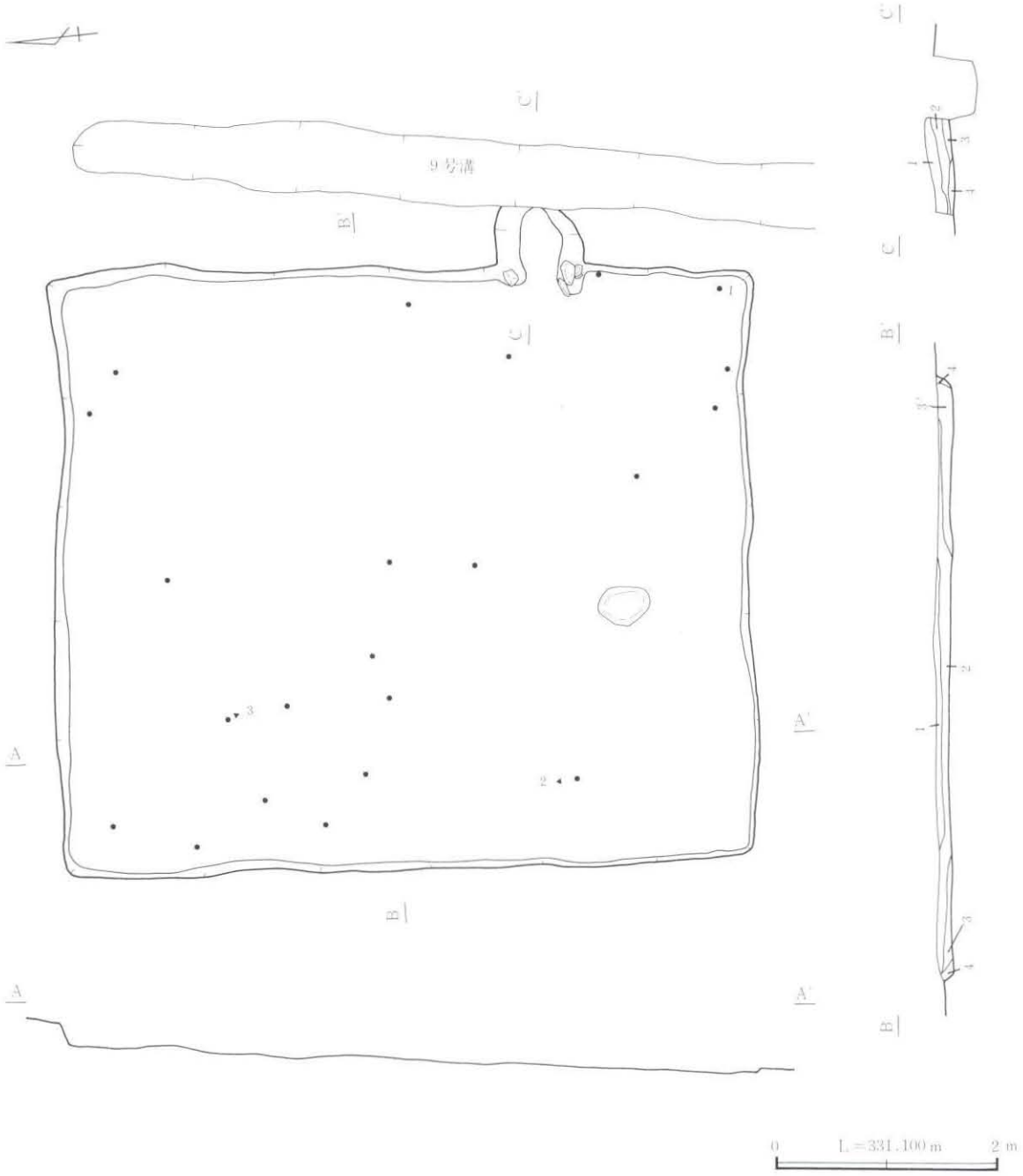
遺物番号	種類 器種	出土状況 残存状況	法量(cm)	①胎土 ②色調 ③焼成	成・整形技法の特徴	備考
1	土師器 坏	＋7cm 1/3	口 (12.6) 底 高	①砂粒を微量 ②明赤褐 ③普通	口縁部横撫で、体部外面篦削り、内面撫で	
2	土師器 坏	＋4cm 3/4	口 11.4 底 高	①砂粒・粗砂粒を含む ②橙 ③良好	口縁部横撫で、体部外面篦削り、内面撫で後放射状篦磨き	
3	土師器 坏	＋5cm ほぼ完形	口 13.6 底 高 4.7	①粗砂粒・小礫を含む ②明赤褐 ③良好	口縁部横撫で、体部外面篦削り、内面撫で後放射状篦磨き	口縁部・底部一部欠損
4	土師器 坏	＋5cm 3/4	口 15.3 底 高 6.8	①砂粒を含む ②赤橙 ③良好	口縁部横撫で、体部外面篦削り、内面撫で後放射状篦磨き	
5	土師器 坏	＋7cm 1/2	口 15.4 底 高 6.9	①黒色鉱物粒を含む ②赤橙 ③良好	口縁部横撫で、体部外面篦削り、内面撫で後放射状篦磨き	
6	土師器 坏	＋7cm ほぼ完形	口 14.6 底 高 7.6	①粗砂粒・小礫を含む ②橙 ③良好	口縁部横撫で、体部外面篦削り、内面撫で後放射状篦磨き	口縁部一部欠損
7	土師器 坏	＋1cm 2/5	口 (13.8) 底 高 9.5	①黒色鉱物粒を含む ②橙 ③良好	口縁部横撫で、体部外面篦削り、内面撫で	
8	土師器 甕	±0cm 口～胴上部2/3	口 18.8 底 高	①細砂粒・黒色鉱物粒を含む ②橙 ③良好	口縁部横撫で、胴部外面篦削り、内面撫で	
9	土師器 甕	＋5cm 口～胴上部3/4	口 17.6 底 高	①細砂粒を含む ②淡黄 ③良好	口縁部横撫で、胴部外面篦削り、内面撫で	
10	土師器 甕	＋4cm 胴～底部2/3	口 底 7.2 高	①黒色鉱物粒を含む ②にぶい橙 ③良好	胴部外面篦削り、内面撫で	

D－17号住居跡

位置 D－3区の中央、11J－16～18、11K－16～18グリッドに位置する。 **形状** 南北方向を長辺とする長方形。竈の一部を9号溝に切られる。 **規模** 長辺6.35m、短辺5.53m。壁高34cm。 **主軸方位** N－95



第84図 D－17号住居跡出土遺物



D－17号住居跡

1．黒褐色土　ローム粒少量。ロームブロック（小）少量。カーボンブロック少量。

2．黒褐色土　ローム粒少量。ロームブロック（小）少量、ロームブロック（中）含む。カーボンブロック少量。

3．暗褐色土　ローム粒含む。ロームブロック（小）含む。焼土ブロック少量。カーボンブロック少量。

4．黒褐色土　ロームブロック（小）少量。

D－17号住居跡竈

1．暗褐色土　FAブロック（小）少量。焼土粒含む。焼土ブロック（小）少量

2．暗褐色土　FAブロック（小）少量。焼土粒多量。焼土ブロック（小）含む。カーボンブロック（小）少量。

3．黒褐色土　FAブロック（小）少量。カーボンブロック（小）少量。

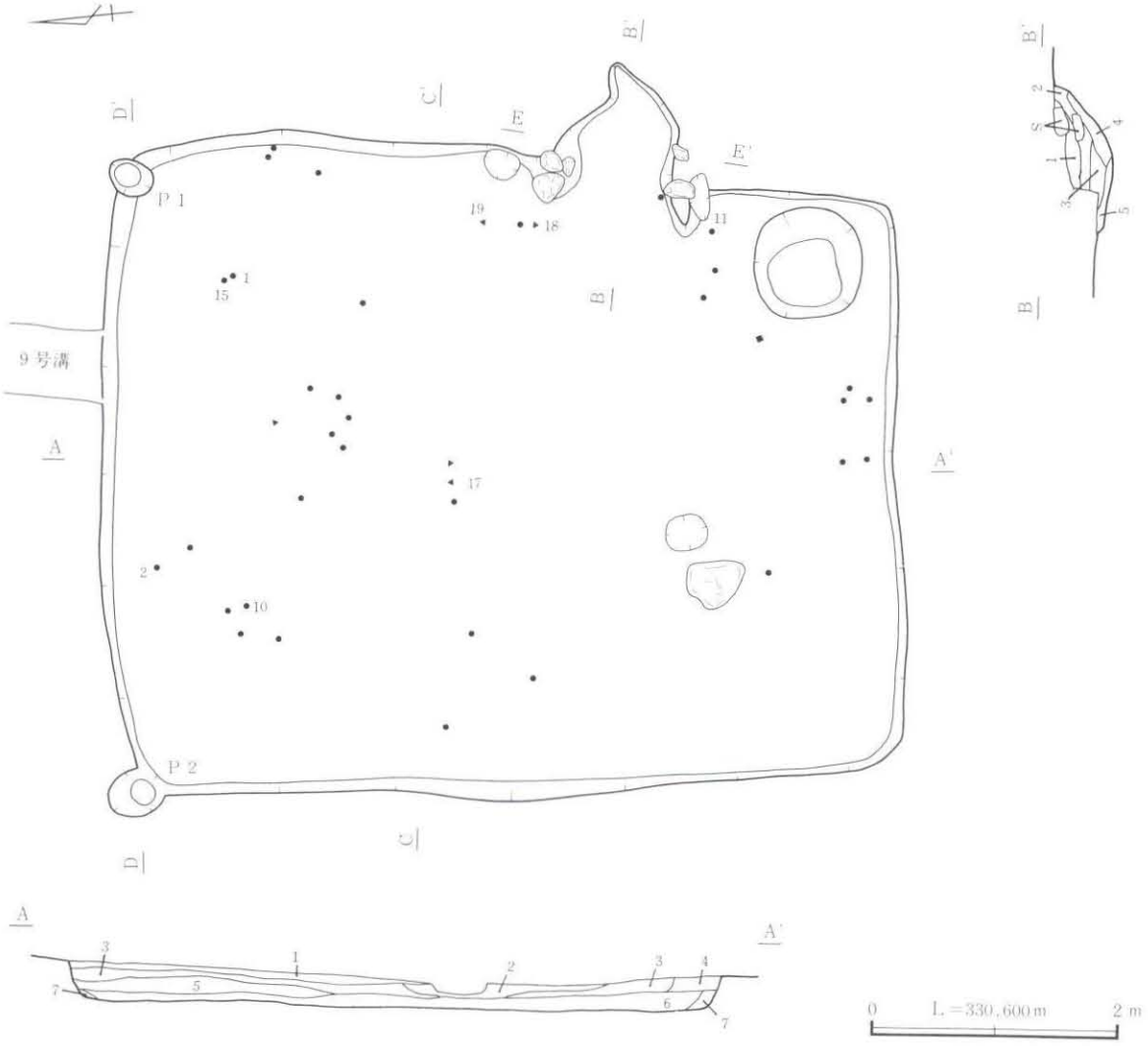
4．暗褐色土　焼土粒多量。焼土ブロック（小）含む。

第85図　D－17号住居跡

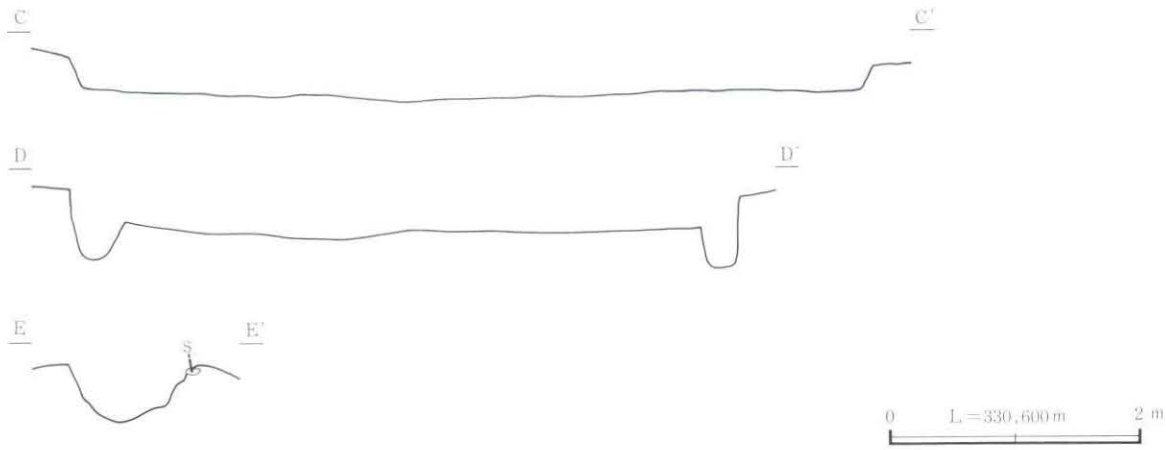
°－E。 **床面** ほぼ平坦であるが、残存状態は悪かった。 **竈** 東壁の南寄りに設置されている。両袖ともわずかに住居壁内に張り出す程度で、燃焼部は壁外に設けられている。 **柱穴** 検出されなかった。 **貯蔵穴** 検出されなかった。 **周溝** 検出されなかった。 **遺物** 土師器の甕、鉄製刀子・釘が出土している。量的にはやや多い。 **時代** 平安時代。

D－17号住居跡出土遺物観察表

遺物番号	種類 器種	出土状況 残存状況	法量(cm)	①胎土 ②色調 ③焼成	成・整形技法の特徴	備考
1	土師器 甕	－1cm 口縁部破片	口 (19.4) 底 高	①細砂粒・黒色鉱物粒を含む ②黄橙 ③普通	口縁部横撫で、体部外面箆削り、内面撫で	
2	鉄製品 刀子	＋2cm	長さ (7.6) cm 幅1.3cm 厚さ0.6cm 重量12.4g			
3	鉄製品 釘	－1cm	長さ (5.4) cm 幅0.8cm 高さ0.6cm 重量6.4g			



第86図 D－18号住居跡①



D－18号住居跡

1．暗褐色土　ＦＡ粒少量。カーボンブロック少量。
2．明褐色土　ＦＡ粒多量。ＦＡブロック（小）多量。カーボンブロック少量。
3．暗褐色土　ＦＡ粒少量。カーボンブロック含む。
4．黒褐色土　ＦＡブロック（小）少量。
5．黒褐色土　ＦＡブロック（小）少量。焼土粒多量。カーボンブロック多量。
6．黒褐色土　ロームブロック含む。焼土ブロック多量。カーボンブロック多量。
7．黒褐色土　ロームブロック多量。

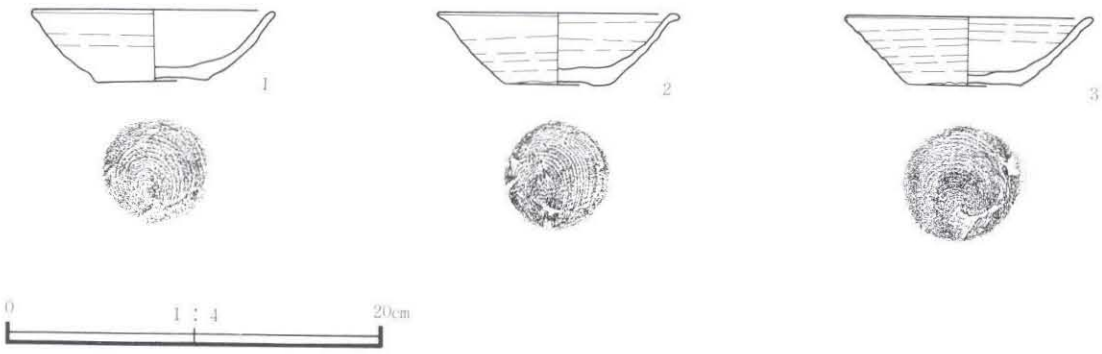
D－18号住居跡竈

1．黒褐色土　ＦＡブロック（小）少量。焼土粒含む。焼土ブロック（大）多量。
2．黒褐色土　ＦＡブロック（小）微量。焼土粒少量。焼土ブロック（小）少量、（中）少量。カーボンブロック（小）少量。
3．黒褐色土　焼土粒含む。焼土ブロック（小）含む。カーボンブロック（小）含む。
4．焼土
5．焼土

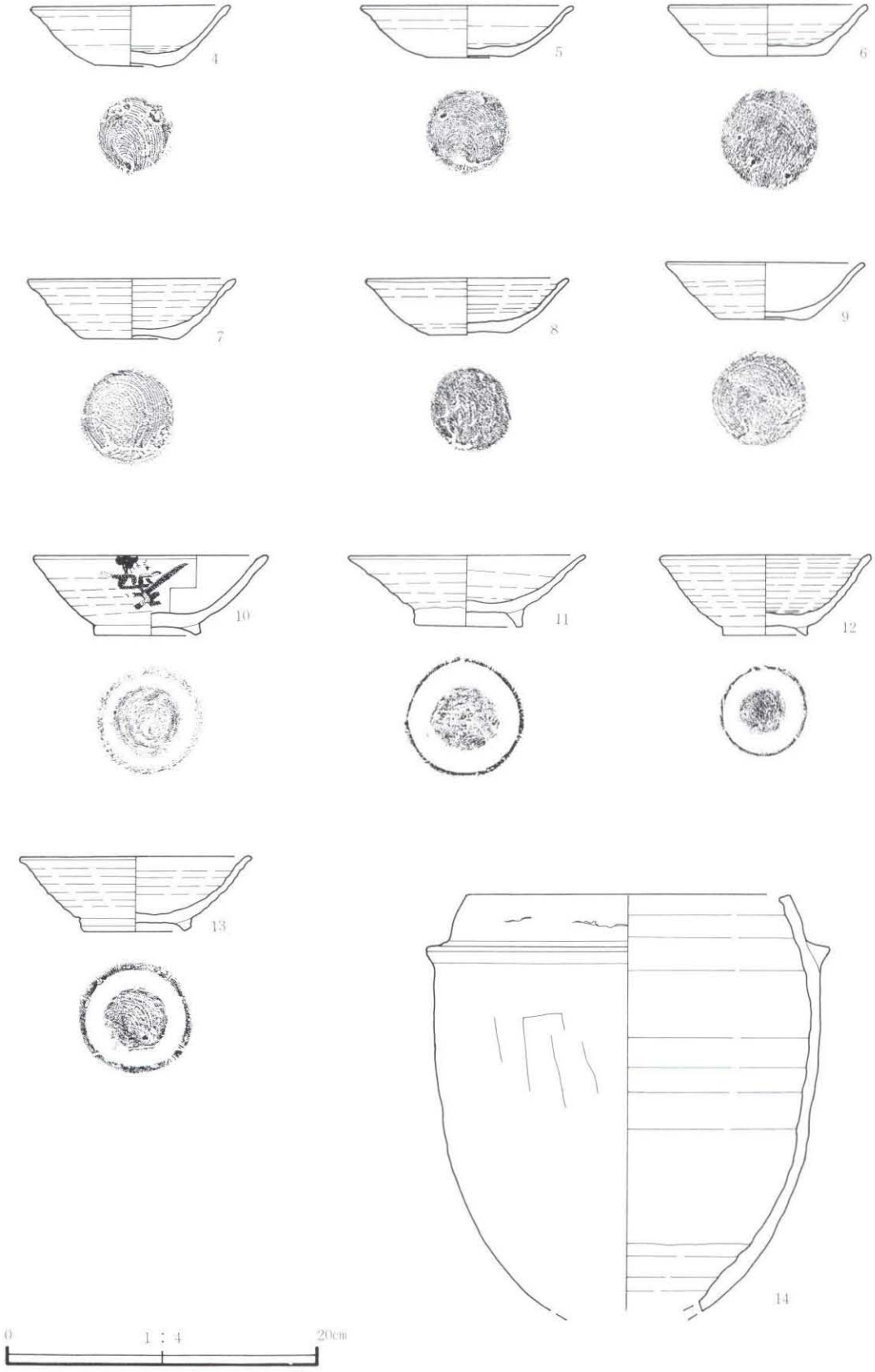
第87図　Ｄ－18号住居跡②

Ｄ－18号住居跡

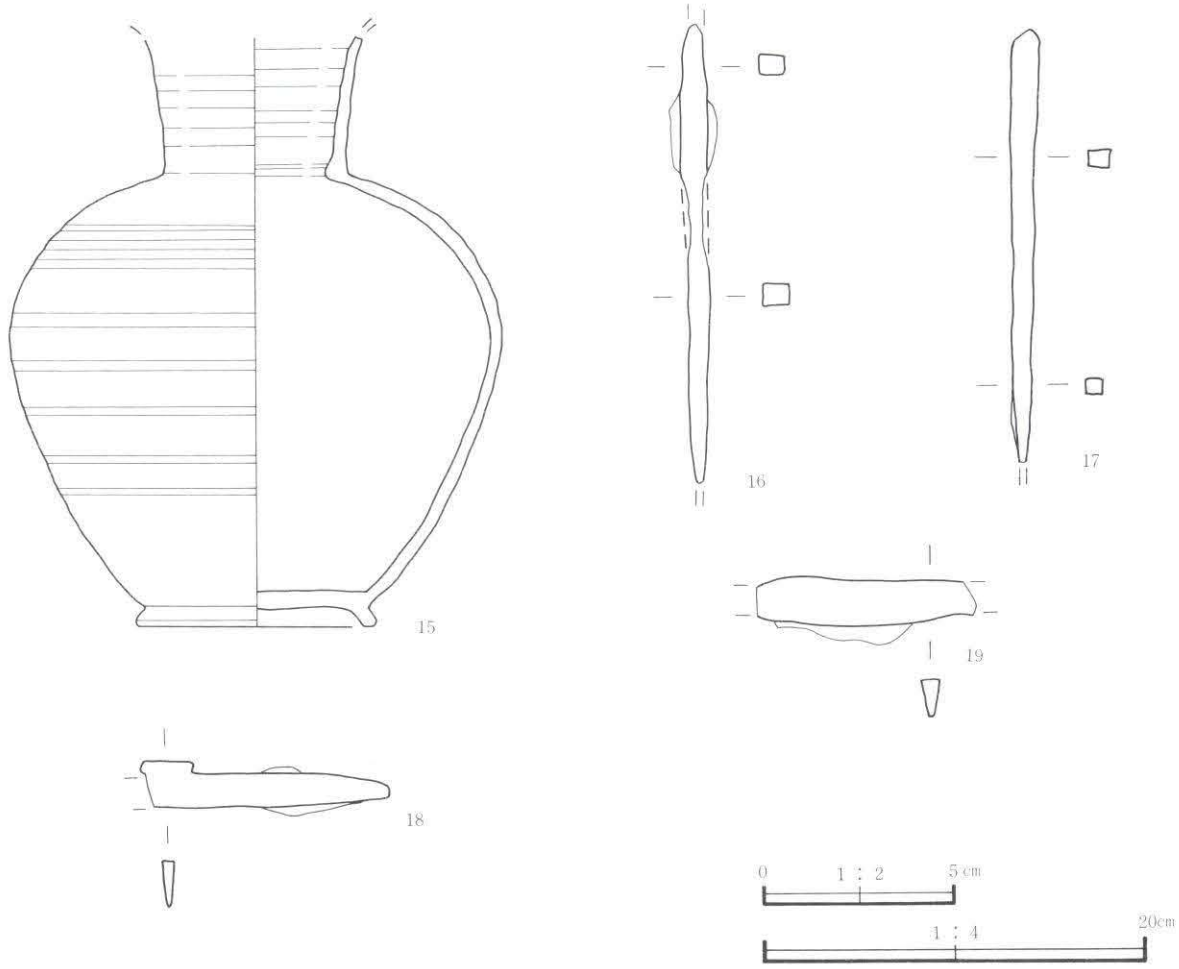
位置　Ｄ－３区の中央、11Ｊ－18・19、11Ｋ－18・19グリッドに位置する。　**形状**　南北方向を長辺とする長方形。北壁の一部を９号溝に切られる。　**規模**　長辺6.46m、短辺5.48m。壁高43cm。　**主軸方位**　Ｎ－95°－Ｅ。　**床面**　ほぼ平坦であるが、残存状態はやや悪かった。また、床面上に炭が散在していた。　**竈**　東壁の南寄りに設置されている。両袖とも検出されたが、左袖の残存状態は悪い。構築材の礫が検出された。　**柱穴**　北東及び北西隅で検出された。規模はP_1が径37×28cm、深さ82cm、P_2が径42cm、深さ59cmである。　**貯蔵穴**　南東隅で検出された。規模は径89cm、深さ70cmである。　**周溝**　検出されなかった。　**遺物**　須恵器の坏・埦・羽釜・長頸壺、鉄製釘・刀子が出土している。　**時代**　平安時代。



第88図　Ｄ－18号住居跡出土遺物①



第89図　D－18号住居跡出土遺物②



第90図　D－18号住居跡出土遺物③

D－18号住居跡出土遺物観察表

遺物番号	種類 器種	出土状況 残存状況	法量(cm)	①胎土 ②色調 ③焼成	成・整形技法の特徴	備考
1	須恵器 坏	－2cm ほぼ完形	口 12.9 底 5.9 高 4.0	①粗砂粒を微量 ②灰白 ③普通	ロクロ整形、底部回転糸切り	口縁部一部欠損
2	須恵器 坏	＋6cm 3/4	口 12.8 底 5.6 高 3.8	①小礫を微量 ②灰白 ③良好	ロクロ整形、底部回転糸切り	
3	須恵器 坏	貯蔵穴 4/5	口 13.2 底 6.0 高 3.6	①細砂粒を微量 ②灰白 ③普通	ロクロ整形、底部回転糸切り	
4	須恵器 坏	貯蔵穴 4/5	口 12.9 底 5.0 高 4.1	①細砂粒を微量 ②灰白 ③良好	ロクロ整形、底部回転糸切り	
5	須恵器 坏	覆土 1/3	口 (13.8) 底 5.4 高 3.4	①細砂粒を微量 ②灰黄 ③普通	ロクロ整形、底部回転糸切り	
6	須恵器 坏	竈覆土 3/5	口 (13.0) 底 6.8 高 3.4	①粗砂粒を微量 ②にぶい橙 ③普通	ロクロ整形、底部回転糸切り	

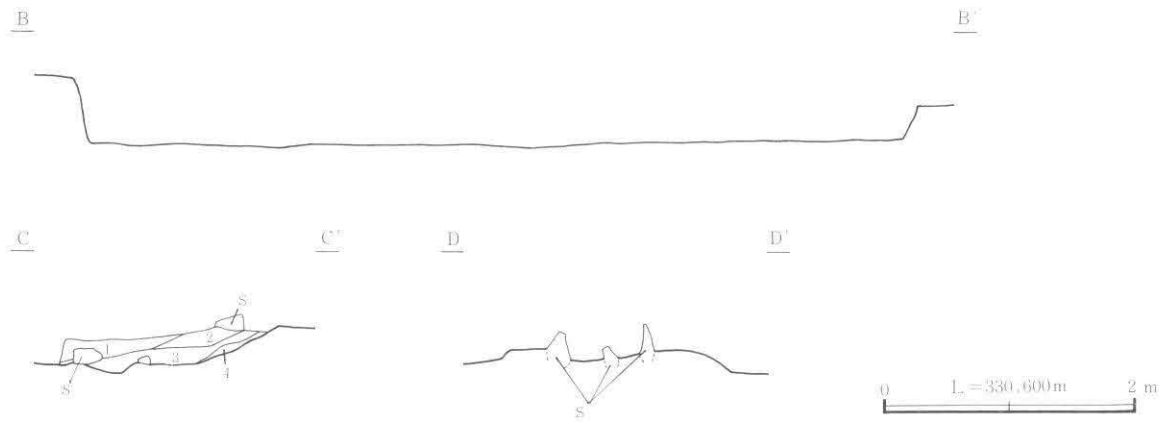
遺物番号	種類 器種	出土状況 残存状況	法量(cm)	①胎土 ②色調 ③焼成	成・整形技法の特徴	備考
7	須恵器 坏	覆土 3/4	口 13.6 底 6.0 高 3.9	①粗砂粒・小礫を微量 ②黄橙 ③良好	ロクロ整形、底部回転糸切り	
8	須恵器 坏	覆土 2/3	口 (13.2) 底 5.4 高 3.6	①砂粒・粗砂粒を含む ②浅黄橙 ③普通	ロクロ整形、底部回転糸切り	
9	須恵器 坏	覆土 2/3	口 13.0 底 5.6 高 3.7	①粗砂粒を微量 ②灰白 ③普通	ロクロ整形、底部回転糸切り	
10	須恵器 埦	±0cm ほぼ完形	口 15.0 底 6.8 高 5.2	①粗砂粒を含む ②浅黄橙 ③やや軟質	ロクロ整形後、高台貼付	内面黒色処理 体部外面に墨書、口縁部外面にタール？付着
11	須恵器 埦	+5cm 完形	口 15.4 底 6.8 高 4.8	①砂粒・粗砂粒を含む ②灰白 ③普通	ロクロ整形、底部回転糸切り後、高台貼付	内・外面2/3暗灰色に変色
12	須恵器 埦	覆土 3/5	口 (13.8) 底 5.6 高 5.2	①細砂粒を微量 ②灰白色 ③良好	ロクロ整形後、高台貼付	
13	須恵器 埦	覆土 1/2	口 (15.0) 底 7.2 高 4.9	①粗砂粒を微量 ②灰白 ③良好	ロクロ整形、底部回転糸切り後、高台貼付	
14	須恵器 羽釜	竈	口 (20.8) 底 高	①砂粒・黒色鉱物粒を含む ②灰白 ③良好	ロクロ整形後鍔貼付、胴部外面篦削り	
15	須恵器 長頸壺	−2cm 3/5	口 底 12.6 高	①粗砂粒・小礫を含む ②緑灰 ③良好	ロクロ整形	
16	鉄製品 釘	貯蔵穴	長さ (12.1) cm 幅0.8cm 厚さ0.6cm 重量17.2g			
17	鉄製品 釘	+7cm	長さ (11.4) cm 幅0.8cm 厚さ0.5cm 重量8.2g			
18	鉄製品 刀子	+5cm	長さ (6.5) cm 幅1.0cm 厚さ0.5cm 重量9.0g			
19	鉄製品 刀子	−3cm	長さ (5.9) cm 幅1.2cm 厚さ0.8cm 重量12.1g			

D−19号住居跡

位置 D−3区の南側、11J−19・20、11K−19〜21グリッドに位置する。 **形状** 正方形。43〜53・58号土坑に切られる。 **規模** 長辺（南北）7.17m、短辺（東西）6.87m。壁高60cm。 **主軸方位** N−109°−E。 **床面** ローム層で構築。粘土ブロックを含む黒褐色土で床を貼っている。残存状態は良好で、平坦かつ堅緻な床面が検出された。 **竈** 東壁の南寄りに設置されている。両袖とも住居壁内に張り出している。燃焼部側壁から煙道部にかけて礫が検出されたほか、前面には崩落したと推定される天井石が検出された。 **柱穴** 堀りかたで1基検出された。規模は径30×28cm、深さ29cmである。 **貯蔵穴** 検出されなかった。 **周溝** 検出されなかった。 **遺物** 土師器の坏・甕のほか、勾玉、臼玉が出土している。量的にはきわめて多い。 **時代** 古墳時代。

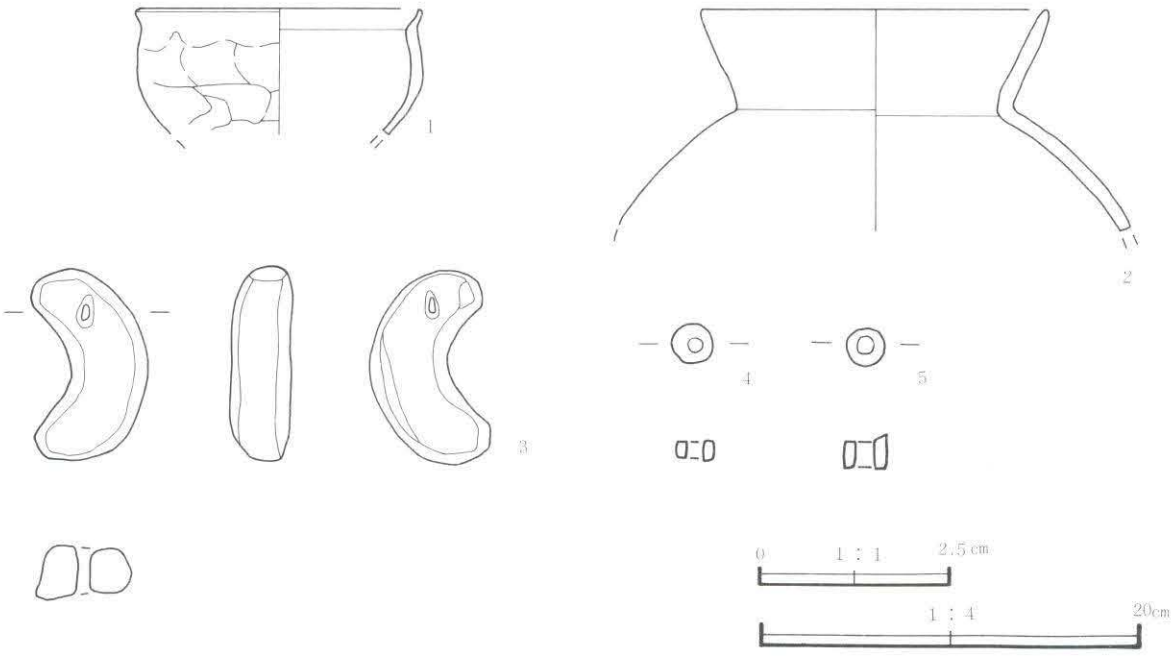
D－19号住居跡
1．暗褐色土　ＦＡ粒多量。ＦＡブロック多量。
2．ＦＡ
3．黒褐色土　カクランによるＦＡブロック少量。焼土ブロック少量。カーボンブロック少量。
4．暗褐色土　ローム粒少量。ロームブロック（小）少量。焼土ブロック微量。カーボンブロック微量。
5．黒色土　ロームブロック（小）少量。
6．黒褐色土　粘土ブロック含む。

第91図　Ｄ－19号住居跡①



D－19号住居跡竈
1．暗褐色土　焼土粒少量。
2．暗褐色土　焼土粒少量。焼土ブロック少量。
3．焼土
4．黒褐色土　焼土粒少量。焼土ブロック少量。

第92図　D－19号住居跡②



第93図　D－19号住居跡出土遺物

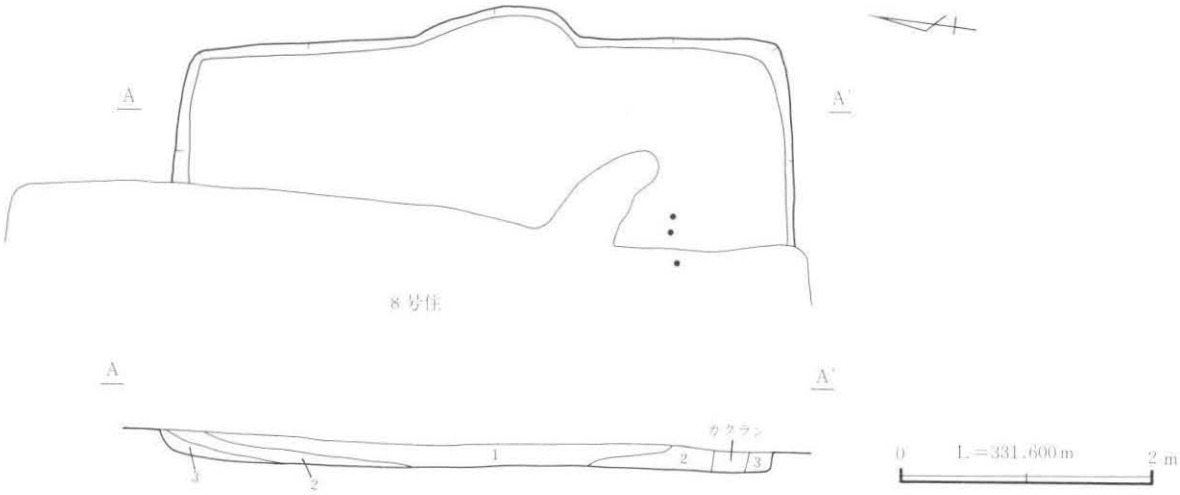
D－19号住居跡出土遺物観察表

遺物番号	種類 器種	出土状況 残存状況	法量(cm)	①胎土 ②色調 ③焼成	成・整形技法の特徴	備考
1	土師器 坏	－6cm 1/4	口 (15.0) 底 高	①砂粒・黒色鉱物粒を含む ②橙 ③普通	口縁部横撫で、体部外面箆削り、内面撫で	
2	土師器 甕	－13cm 口～胴上部	口 18.4 底 高	①白色鉱物粒・粗砂粒を多量 ②浅黄橙 ③やや軟質	口縁部横撫で、胴部外面箆削り、内面撫で	

遺物番号	種類 器種	出土状況 残存状況	計測値	備考
3	石製品 勾玉	覆土	長さ2.6cm　幅1.5cm　厚さ1.3cm　重量4.8g	
4	石製品 臼玉	覆土	径0.6cm　厚さ0.2cm　重量0.1g	
5	石製品 臼玉	覆土	径0.5cm　厚さ（0.5）cm　重量0.1g	一部欠損

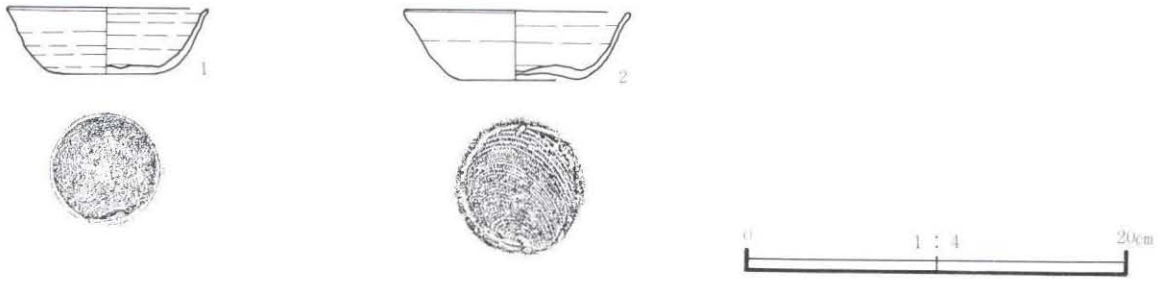
D－20号住居跡

位置　D－3区の北側、11I－14・15、11J－14・15グリッドに位置する。　**形状**　西側を8号住に切られ不明。　**規模**　南北辺4.91m、東西辺不明。壁高22cm。　**主軸方位**　南北軸でN－7°－W。　**床面**　暗褐色土層で構築。　**竈**　検出されなかった。東壁の中央が若干張り出しているが、焼土も見られず竈とは断定できない。　**柱穴**　検出されなかった。　**貯蔵穴**　検出されなかった。　**周溝**　検出されなかった。　**遺物**　須恵器の坏が出土している。量的には少ない。　**時代**　平安時代。



D－20号住居跡
1．暗褐色土　FA粒含む。焼土ブロック含む。
2．暗褐色土　FA粒少量。焼土ブロック少量。
3．黒褐色土　FAブロック（小）少量。

第94図　D－20号住居跡



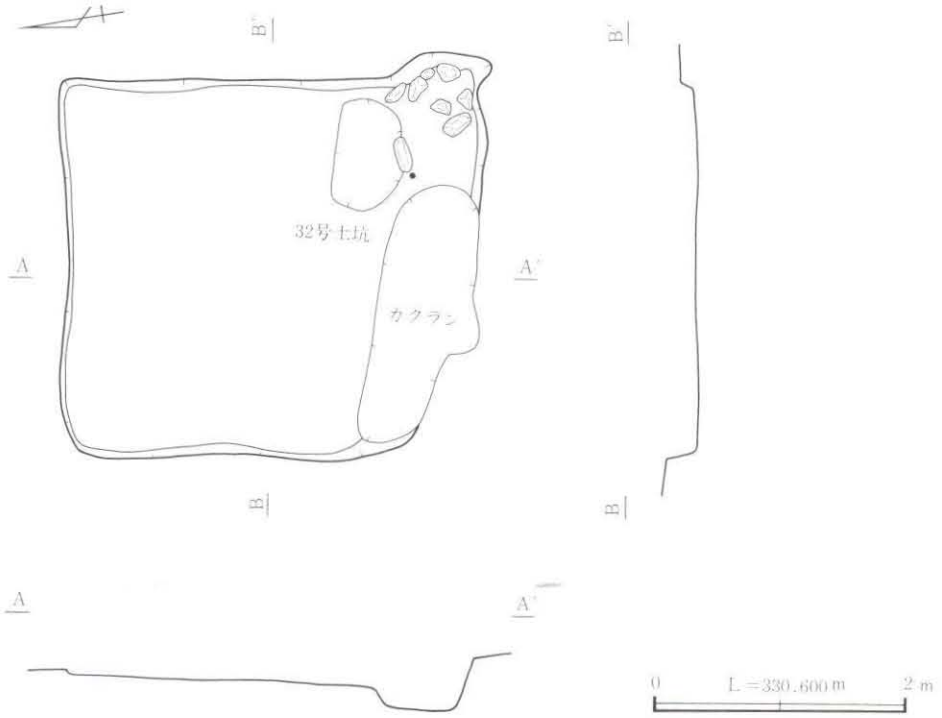
第95図　D－20号住居跡出土遺物

D－20号住居跡出土遺物観察表

遺物番号	種類 器種	出土状況 残存状況	法量(cm)	①胎土 ②色調 ③焼成	成・整形技法の特徴	備考
1	須恵器 坏	覆土 完形	口 10.6 底 6.2 高 3.5	①粗砂粒・小礫を含む ②オリーブ灰 ③良好	ロクロ整形、底部回転篦切り後撫で調整	
2	須恵器 坏	覆土 4/5	口 11.9 底 6.8 高 3.8	①粗砂粒・小礫を含む ②暗青灰 ③良好	ロクロ整形、底部回転糸切り	

D－21号住居跡

位置 D－3区の中央、11I・11J－19グリッドに位置する。 **形状** 正方形。南壁は後世のカクランを受けている。 **規模** 長辺（南北）3.39m、短辺（東西）3.04m。壁高30cm。 **主軸方位** N－100°－E。 **床面** 残存状態は悪かった。 **竈** 南東隅に設置されている。両袖とも検出されなかったが、構築材の礫が残存していた。 **柱穴** 検出されなかった。 **貯蔵穴** 検出されなかった。 **周溝** 検出されなかった。 **遺物** 量的に少なく、土師器片・須恵器片が若干出土した程度である。 **時代** 不明。

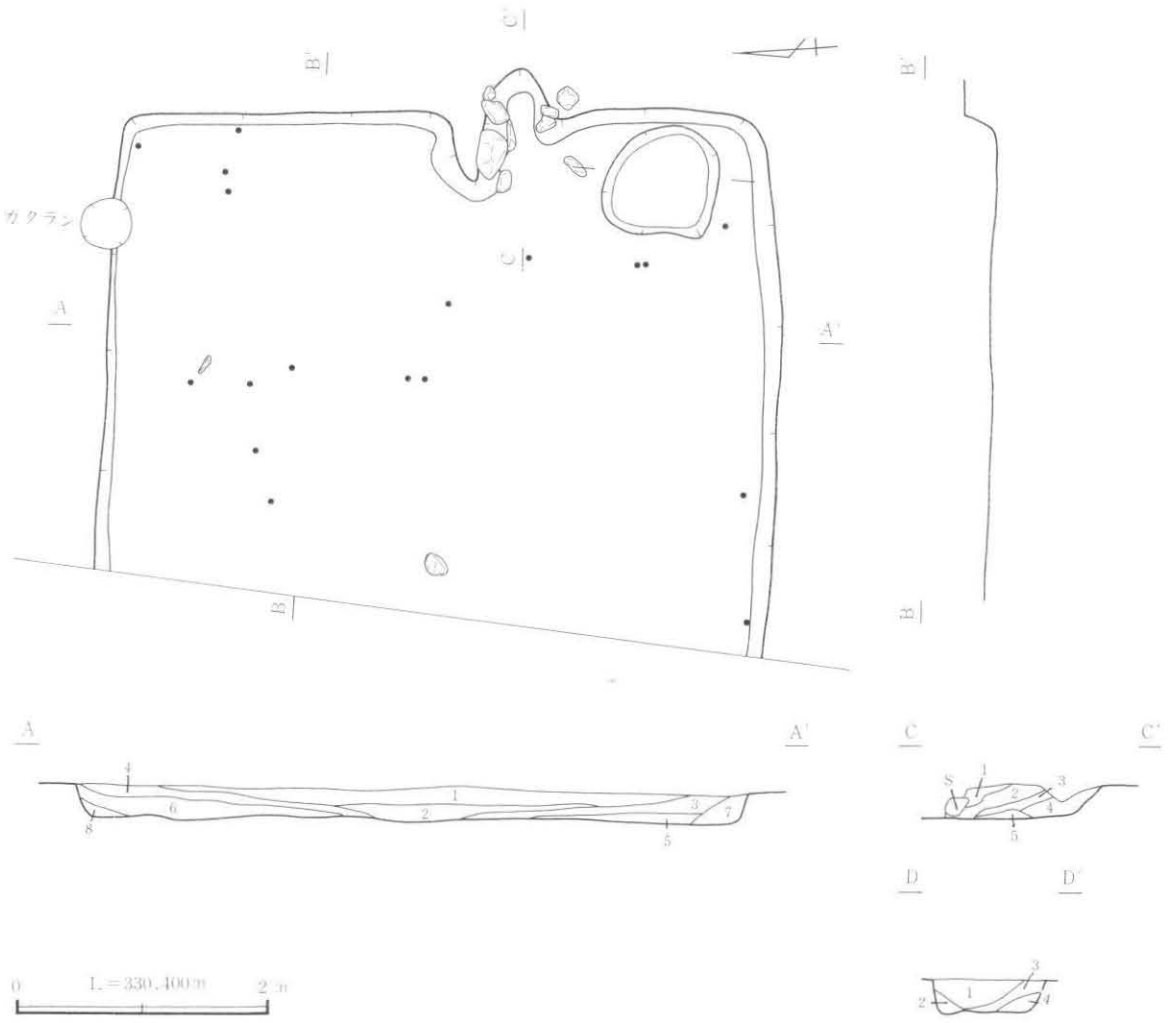


第96図 D－21号住居跡

D－22号住居跡

位置 D－3区の南側、11H－21・22、・11I－21・22グリッドに位置する。 **形状** 西側が調査区外であるため不明。 **規模** 南北辺5.49m、東西辺不明。壁高32cm。 **主軸方位** N－93°－E。 **床面** ローム層で構築。残存状態は良好で、堅緻な貼り床が検出された。 **竈** 東壁のやや南寄りに設置されている。袖は左袖のみ検出された。構築材の礫が残存していた。 **柱穴** 検出されなかった。 **貯蔵穴** 南東隅で検出

された。規模は径90×88cm、深さ27cmである。　**周溝**　検出されなかった。　**遺物**　土師器の坏・皿・甕、須恵器の埦・蓋が出土している。　**時代**　奈良時代。



D－22号住居跡

1．黒褐色土　ＦＡ粒含む。ＦＡブロック（小）含む。焼土ブロック少量。カーボンブロック少量。
2．暗褐色土　ＦＡ粒含む。ＦＡブロック（小）含み、（中）含む。カーボンブロック少量。
3．黒褐色土　ＦＡ粒少量。ＦＡブロック（中）含む。ロームブロック（小）含み、（中）含む。焼土ブロック少量。カーボンブロック少量。
4．黒褐色土　ＦＡ粒少量。ＦＡブロック（大）含む。焼土ブロック少量。
5．明褐色土　ローム粒多量。ロームブロック（小）多量。ＦＡブロック（小）少量。
6．黒褐色土　ＦＡ粒少量。焼土ブロック微量。カーボンブロック少量。
7．黒褐色土　ＦＡブロック（大）含む。
8．暗褐色土　ＦＡブロック（小）少量、（中）少量。ローム粒含む。

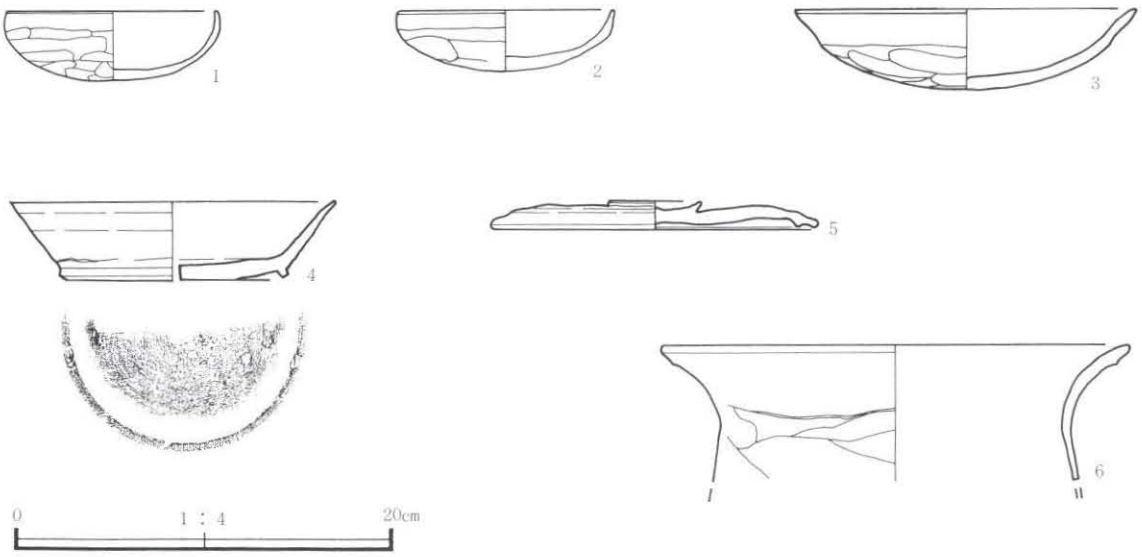
D－22号住居跡竈

1．暗褐色土　粕川軽石少量。ＦＡ粒少量。
2．暗褐色土　焼土ブロック少量。
3．暗褐色土　焼土ブロック含む。
4．黒褐色土　焼土粒含む。
5．暗褐色土　焼土粒含む。

D－22号住居跡貯蔵穴

1．暗褐色土　ＦＡ粒含む。ＦＡブロック（小）含む。カーボンブロック含む。
2．暗褐色土　ＦＡブロック（小）含む。焼土ブロック含む。カーボンブロック含む。
3．暗褐色土　ＦＡブロック（小）少量。カーボンブロック少量。
4．暗褐色土　ＦＡブロック（小）微量。カーボンブロック微量。

第97図　Ｄ－22号住居跡



第98図　D－22号住居跡出土遺物

D－22号住居跡出土遺物観察表

遺物番号	種類 器種	出土状況 残存状況	法量(cm)	①胎土 ②色調 ③焼成	成・整形技法の特徴	備考
1	土師器 坏	覆土 2/3	口（10.8） 底 高 3.8	①砂粒やや多 ②橙 ③良好	口縁部横撫で、体部外面篦削り、内面撫で	
2	土師器 坏	覆土 2/3	口 11.4 底 高 3.4	①砂粒・黒色鉱物粒含む ②橙 ③普通	口縁部横撫で、体部外面篦削り、内面撫で	
3	土師器 皿	－1cm 1/2	口（18.0） 底 高 4.3	①砂粒・黒色鉱物粒を含む ②橙 ③普通	口縁部横撫で、体部外面篦削り、内面撫で	
4	須恵器 埦	覆土 2/5	口（17.2） 底（12.1） 高 4.1	①小礫を微量 ②明緑灰（内面はにぶい橙） ③良好	ロクロ整形、底部切り離し後高台貼付、回転篦削り	
5	須恵器 蓋	－2cm 2/5	口（17.2） 摘（4.9） 高 1.4	①粗砂粒を含む ②灰 ③良好	ロクロ整形、摘み貼付	
6	土師器 甕	＋3cm 口縁部	口 24.6 底 高	①細砂粒・黒色鉱物粒を含む ②橙 ③良好	口縁部横撫で、体部外面篦削り、内面撫で	

（2） 溝

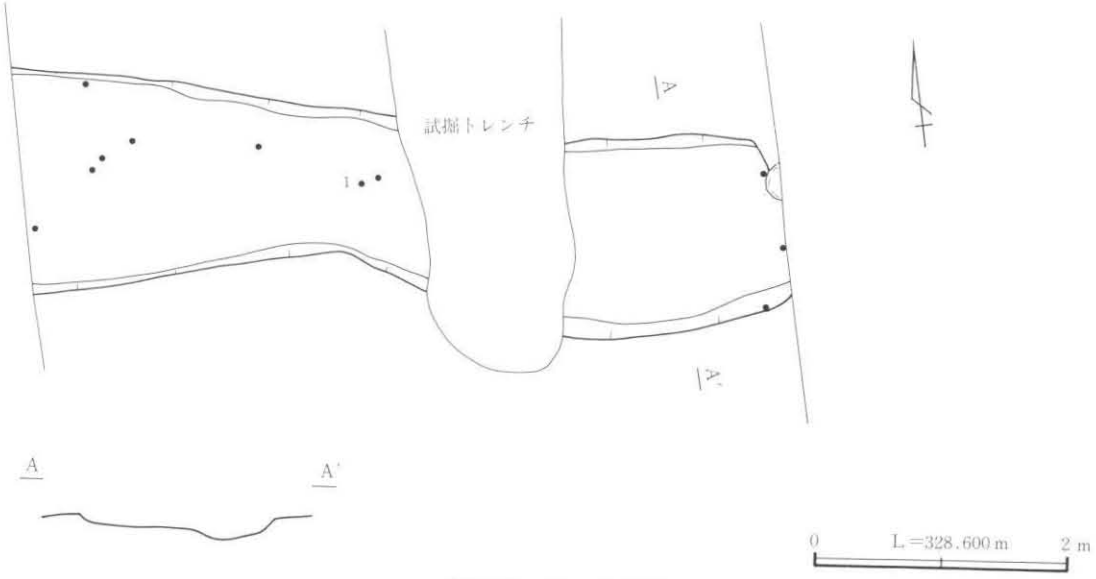
溝は11条検出されている。年代は中世以前が2条、中世が6条、現代及び判断できなかったものが3条である。

溝の概要については以下の通りである。実測図は1号溝のみ掲載する。その他の溝の位置、形状等については、第5～10図を参照されたい。

なお、8号溝については遺構確認のみで調査はしていない。また、2号溝と7号溝については、それぞれ1号堀、2号堀として（4）において報告する。

第５表　Ｄ区溝計測表

遺構名	位置	規模（m）			主軸方位	備考
		長辺	短辺	深さ		
１号溝	12Ａ・12Ｂ－22	(6.28)	1.79	0.20	Ｎ－103°－Ｅ	覆土はＦＡブロックを含む暗褐色土。
３号溝	11Ｑ－28	1.12	0.38	0.42	Ｎ－105°－Ｅ	覆土はＦＡブロックを含む暗褐色土。
４号溝	11Ｉ－19	4.39	0.73	0.34	Ｎ－22°－Ｅ	覆土は粕川軽石主体土。
５号溝	12Ｆ－35	1.84	0.58	0.42	Ｎ－69°－Ｅ	現代。
６号溝	12Ｇ－37	2.13	0.43	0.40	Ｎ－67°－Ｅ	覆土は粕川軽石主体土。
８号溝	11Ｑ・11Ｒ－33	－	－	－	Ｎ－84°－Ｅ	未調査。
９号溝	11Ｋ－17～19	11.95	0.70	0.44	Ｎ－13°－Ｅ	覆土は粕川軽石主体土。
10号溝	11Ｊ－19	2.35	0.67	0.24	Ｎ－20°－Ｅ	覆土は粕川軽石主体土。
11号溝	11Ｉ－19	2.61	0.64	0.20	Ｎ－20°－Ｅ	覆土は粕川軽石主体土。
12号溝	11Ｉ－21	2.22	0.76	0.32	Ｎ－7°－Ｅ	覆土は粕川軽石主体土。
13号溝	11Ｏ－42	(1.88)	0.65	0.11	Ｎ－144°－Ｅ	Ｄ－５区１号溝



第99図　Ｄ－１号溝

第100図　Ｄ－１号溝出土遺物

Ｄ－１号溝出土遺物観察表

遺物番号	種類 器種	出土状況 残存状況	法量(cm)	①胎土 ②色調 ③焼成	成・整形技法の特徴	備考
1	須恵器 椀	＋10cm 完形	口 11.0 底 5.6 高 5.4	①粗砂粒・小礫を含む ②暗青灰 ③良好	ロクロ整形、底部回転糸切り後高台貼付	

（3） 土坑

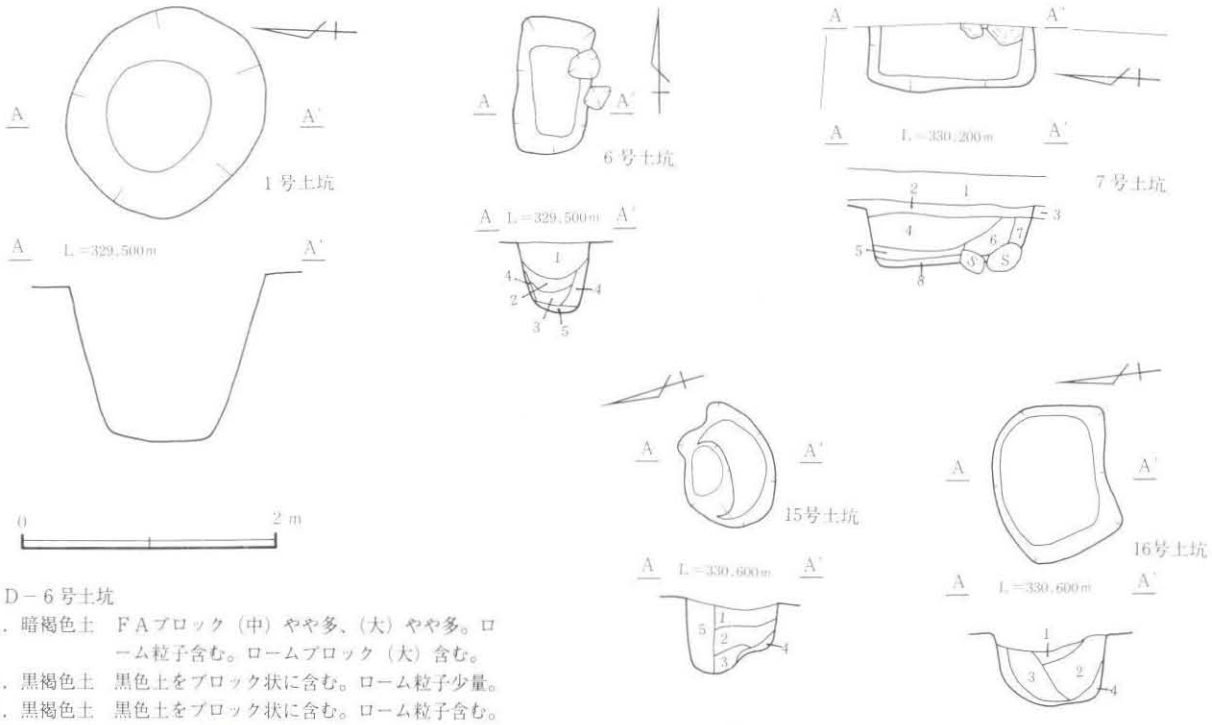
土坑は57基検出されている。年代は中世以前が36基、中世以降が13基、現代及び判断できなかったものが8基である。10～14号土坑については、いずれも5・6号住居跡の堀りかた調査で検出されていることから、住居跡の床下土坑に該当する可能性が高い。29号土坑からは人骨が出土している。また、39・40号土坑からも微量ではあるが骨片が出土している。

土坑の概要については以下の通りである。溝と同様、実測図は主なものについて掲載しておく。その他の土坑の位置・形状については、第5～10図を参照されたい。

第6表　D区土坑計測表

遺構名	位置	形状	規模（cm）			備考
			長辺	短辺	深さ	
1号土坑	11P－29	円形	179	166	129	覆土はFAブロックを含む暗褐色土。井戸跡か。
2号土坑	11Q－29	円形	60	57	35	覆土はFAブロックを含む暗褐色土。
3号土坑	11Q－28	円形	66	64	27	覆土はFAブロックを含む暗褐色土。
4号土坑	11Q－28	不整形	(36)	(30)	29	覆土はFAブロックを含む暗褐色土。
5号土坑	11Q－28	円形	43	40	72	覆土はFAブロックを含む暗褐色土。
6号土坑	11P－29・30	長方形	120	62	53	覆土はFAブロックを含む暗褐色土。
7号土坑	11P－28	－	134	(57)	48	覆土はFAブロックを含む暗褐色土。
8号土坑	11P－28	円形	76	68	13	覆土はFAブロックを含む暗褐色土。
9号土坑	11P－28	楕円形	78	47	9	覆土は粕川軽石主体土。
10号土坑	11P－29	－	(70)	(37)	20	覆土はFAブロックを含む暗褐色土。5号住居跡内。
11号土坑	11P－29	楕円形	72	45	64	覆土はFAブロックを含む暗褐色土。5号住居跡内。
12号土坑	11P－28	楕円形	48	35	41	覆土はFAブロックを含む暗褐色土。5号住居跡内。
13号土坑	11P－28	円形	36	35	33	覆土はFAブロックを含む暗褐色土。6号住居跡内。
14号土坑	11P－28	不整形	(145)	(103)	34	覆土はFAブロックを含む暗褐色土。6号住居跡内。
15号土坑	11I－18・19	不整形	102	74	64	覆土はFAブロックを含む暗褐色土。
16号土坑	11H－19	長方形	123	99	60	覆土はFAブロックを含む暗褐色土。
17号土坑	11H－19	不整形	46	44	46	覆土はFAブロックを含む暗褐色土。
18号土坑	11H－19	長方形	48	41	38	覆土はFAブロックを含む暗褐色土。
19号土坑	12G－34・35	－	(219)	(47)	23	覆土は粕川軽石主体土。
20号土坑	12G－36	長方形	174	73	49	現代
21号土坑	12G－36	－	(120)	(64)	23	
22号土坑	12G－36	長方形	102	86	46	
23号土坑	12G－37	正方形	88	87	60	
24号土坑	12G－37・38	不整形	193	107	－	
25号土坑	12G－37	正方形	54	49	34	覆土は粕川軽石主体土。
26号土坑	12F－38	不整形	128	124	29	覆土は粕川軽石主体土。
27号土坑	12F－38・39	長方形	88	67	29	
28号土坑	12G－39	長方形	145	64	17	覆土は粕川軽石主体土。
29号土坑	12F－40	楕円形	112	63	22	覆土は粕川軽石を含む暗褐色土。人骨出土。
30号土坑	12G－38	不整形	225	217	38	覆土は粕川軽石主体土。
31号土坑	11Q－34	楕円形	122	63	37	現代。
32号土坑	11I・11J－19	円形	97	96	14	覆土は粕川軽石主体土。
33号土坑	11J－21	不整形	273	232	20	覆土は粕川軽石主体土。
34号土坑	11J－14・15	不整形	238	217	22	覆土は粕川軽石主体土。
35号土坑	11K－15	正方形	215	202	50	覆土は粕川軽石主体土。
36号土坑	11J－14	楕円形	183	121	36	覆土は粕川軽石主体土。
37号土坑	11J－15	不整形	199	183	31	覆土は粕川軽石主体土。
38号土坑	11K－20	不整形	112	62	58	覆土はFAブロックを含む暗褐色土。
39号土坑	11K－20	長方形	110	83	76	覆土はFAブロックを含む暗褐色土。骨片出土。
40号土坑	11K－20	楕円形	106	72	54	覆土はFAブロックを含む暗褐色土。
41号土坑	11K－20	楕円形	112	94	76	覆土はFAブロックを含む暗褐色土。骨片出土。
42号土坑	11K－20	不整形	63	58	49	覆土はFAブロックを含む暗褐色土。全体図なし。
43号土坑	11H・11I－17	長方形	78	50	27	覆土はFAブロックを含む暗褐色土。

遺構名	位置	形状	規模（cm）			備考
			長辺	短辺	深さ	
44号土坑	11K－21	長方形	102	(42)	47	覆土はＦＡブロックを含む暗褐色土。
45号土坑	11J－20	不整形	81	77	19	覆土はＦＡブロックを含む暗褐色土。
46号土坑	11J－20	不整形	88	83	9	覆土はＦＡブロックを含む暗褐色土。
47号土坑	11J－20	楕円形	59	46	8	覆土はＦＡブロックを含む暗褐色土。
48号土坑	11K－21	長方形	121	118	102	覆土はＦＡブロックを含む暗褐色土。
49号土坑	11K－21	楕円形	54	36	10	覆土はＦＡブロックを含む暗褐色土。
50号土坑	11K－20	楕円形	62	40	10	覆土はＦＡブロックを含む暗褐色土。
51号土坑	11K－20	正方形	47	46	10	覆土はＦＡブロックを含む暗褐色土。
52号土坑	11K－20	円形	86	80	12	覆土はＦＡブロックを含む暗褐色土。
53号土坑	11K－20	楕円形	48	38	17	覆土はＦＡブロックを含む暗褐色土。
54号土坑	11K－20	楕円形	39	27	14	覆土はＦＡブロックを含む暗褐色土。全体図なし。
55号土坑	11O－42	楕円形	190	171	35	Ｄ－５区（第２次）１号土坑
56号土坑	11P－40	－	186	(82)	65	Ｄ－５区（第２次）２号土坑。
57号土坑	11P－45	－	－	－	－	Ｄ－５区（第２次）埋甕。



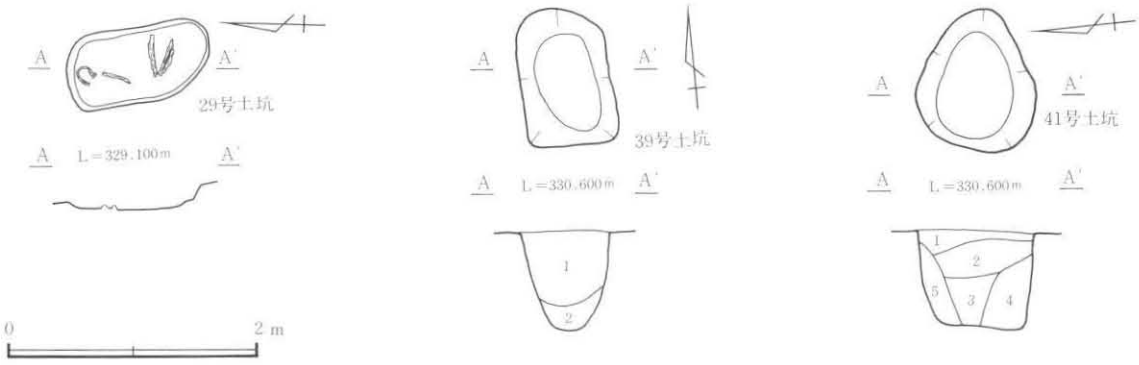
Ｄ－６号土坑
1．暗褐色土　ＦＡブロック（中）やや多、（大）やや多。ローム粒子含む。ロームブロック（大）含む。
2．黒褐色土　黒色土をブロック状に含む。ローム粒子少量。
3．黒褐色土　黒色土をブロック状に含む。ローム粒子含む。
4．暗褐色土　ローム粒子少量、ロームブロック少量。
5．明褐色土　ローム土をブロック状に含む。

Ｄ－７号土坑
1．耕作土
2．暗褐色土　ＦＡブロック（小）少量。
3．ＦＡ層
4．暗褐色土　ＦＡブロック（小）含む。ＦＡブロック（中）少量。ロームブロック含む。
5．暗褐色土　ＦＡブロック（小）少量。ローム粒子含む。ロームブロック含む。
6．暗褐色土　ＦＡブロック（小）微量。ローム粒子微量。
7．暗褐色土　ＦＡブロック（小）含む。ローム粒子少量。
8．暗褐色土　ＦＡブロック（小）微量。ローム粒子少量。カーボンブロック多量。

Ｄ－15号土坑
1．暗褐色土　ＦＡ粒子含む。ＦＡブロック（小）少量、（中）少量。
2．暗褐色土　ＦＡ粒子多量、ＦＡブロック（小）含む、（中）含む。
3．暗褐色土　ＦＡ粒子少量、ＦＡブロック（小）少量。ロームブロック少量。
4．暗褐色土　ＦＡブロック（小）少量。ロームブロック含む。
5．黒褐色土　ＦＡ粒子含む。ＦＡブロック（中）含む、（大）含む。

Ｄ－16号土坑
1．暗褐色土　ＦＡ粒子含む。ＦＡブロック（小）含む。
2．暗褐色土　ＦＡブロック（中）やや多、（大）やや多。
3．黒褐色土　ＦＡ粒子含む。ＦＡブロック（大）少量。
4．黒褐色土　ＦＡ粒子少量。

第101図　Ｄ－１・６・７・15・16号土坑



D－39号土坑
1．暗褐色土　FA粒子含む。FAブロック（小）含む、（中）含む。焦土ブロック少量、カーボンブロック少量。
2．黒褐色土　FAブロック（小）少量、（中）少量。

D－41号土坑
1．黒褐色土　FA粒子少量。FAブロック（小）少量。焦土ブロック微量。
2．暗褐色土　FA粒子少量、FAブロック（小）含む、（中）少量。
3．暗褐色土　FA粒子含む。FAブロック（小）含む、（大）少量。
4．黒褐色土　FAブロック（小）少量。（中）少量、（大）少量。
5．暗褐色土　FA粒子多量。FAブロック（小）多量、（大）含む。カーボンブロック少量

第102図　D－29・39・41号土坑

第103図　D区土坑出土遺物

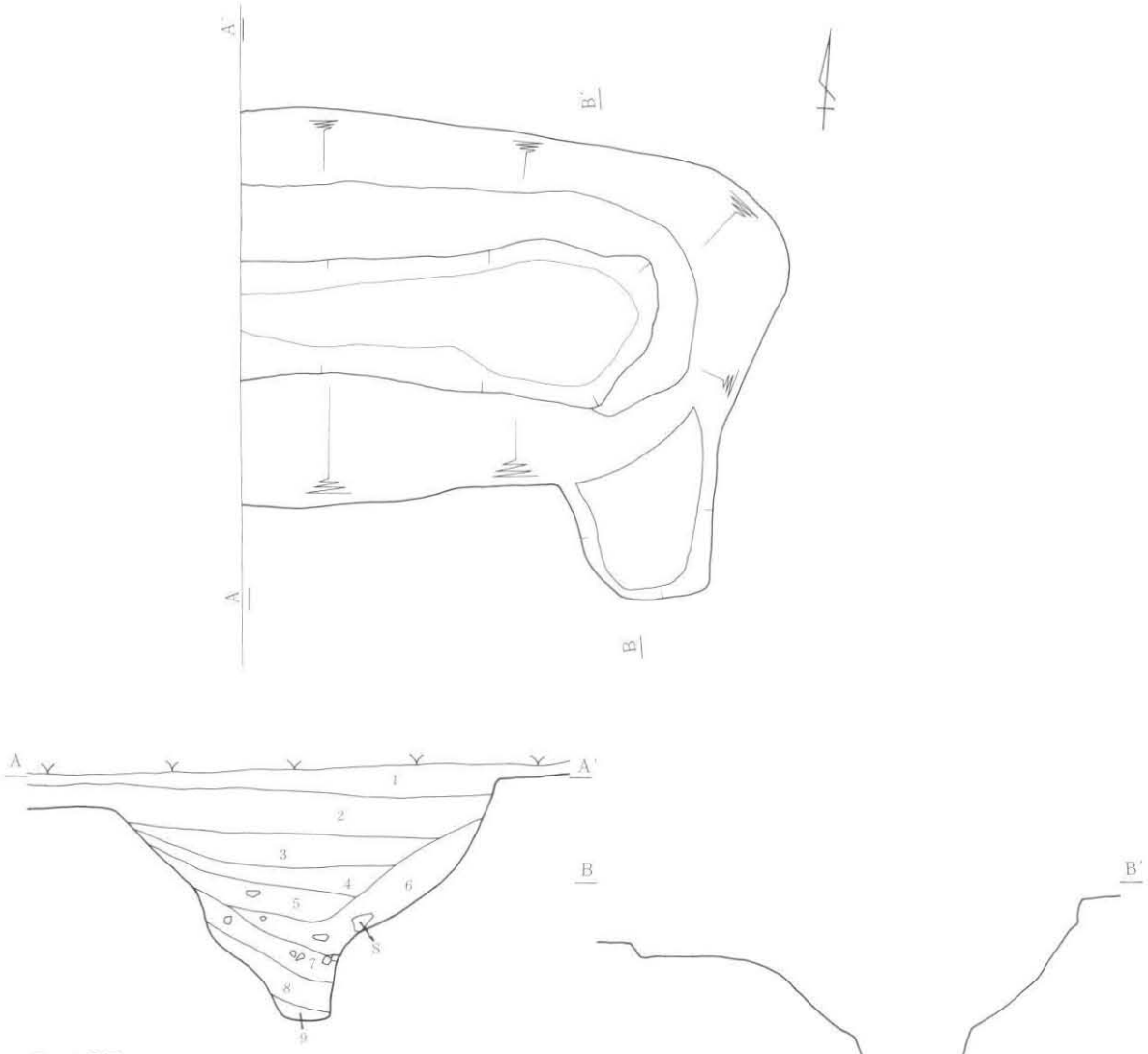
D区土坑出土遺物観察表

遺物番号	種類 器種	出土状況 残存状況	法量(cm)	①胎土 ②色調 ③焼成	成・整形技法の特徴	備考
41土	須恵器 坏	覆土 2/5	口（11.4） 底（6.2） 高 3.7	①砂粒・粗砂粒を微量 ②灰白 ③良好	ロクロ整形、底部回転糸切り	

（4）　堀

D－1号堀（D－2号溝）

位置　D－2区の南側、11P－30・31、11Q－30・31グリッドに位置する。　**形状**　西側は調査区外に伸びるが、東西方向に走る。南東隅に長方形状の張り出しを持つ。断面は薬研堀状を呈す。　**規模**　調査し得た長さは4.45m、幅3.27m。深さ1.96m。張り出し部は、長さ1.52m、幅1.35m、深さ28cm。　**遺物**　土師器・須恵器片、陶磁器片が出土している。

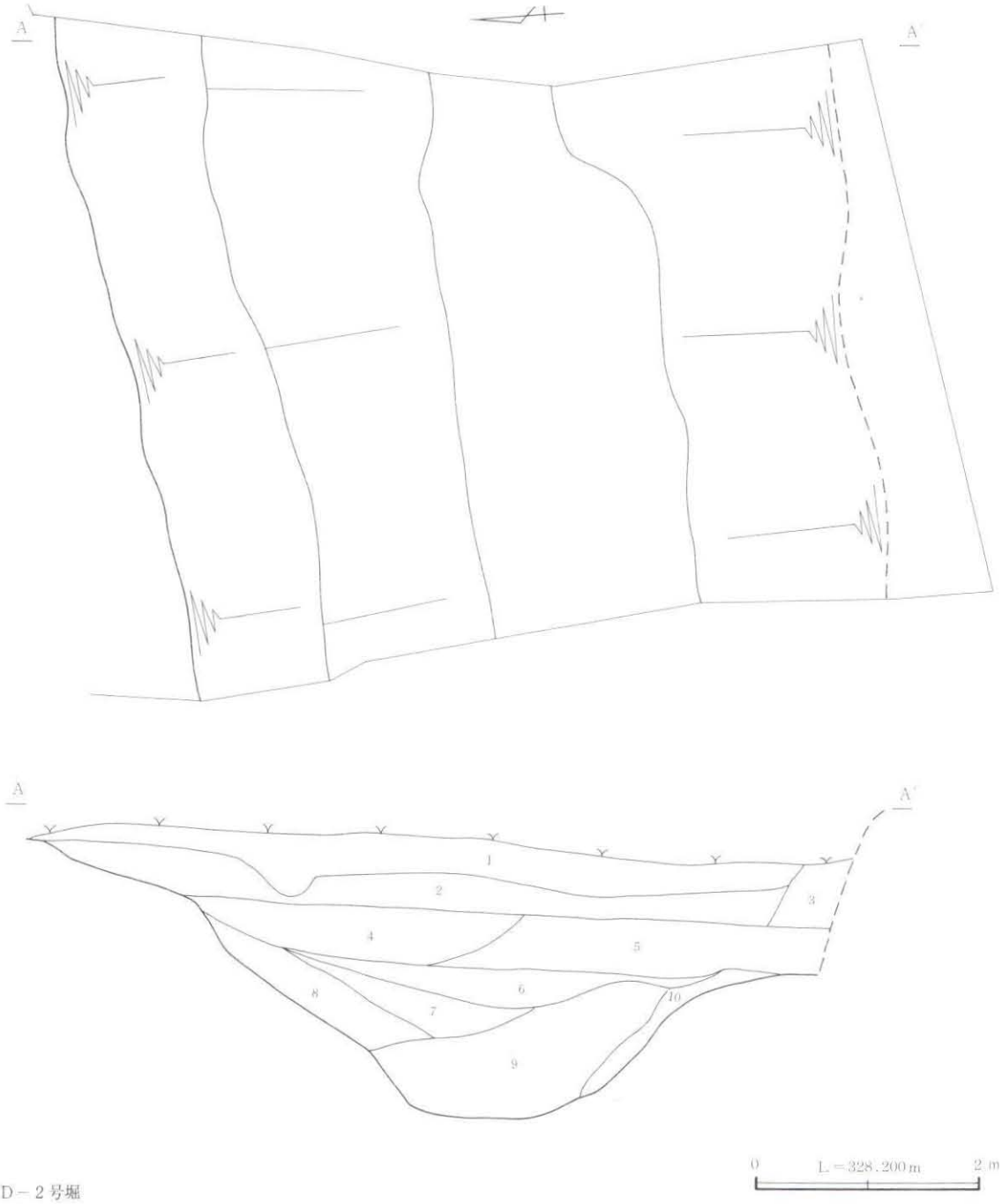


D－1号堀
1．耕作土
2．暗褐色土　粕川軽石含む。ＦＡブロック（小）含む。小礫少量。
3．黒褐色土　粕川軽石少量。ＦＡ粒子含む。ＦＡブロック（小）を少量。ロームブロックやや多。小礫少量。
4．暗褐色土　粕川軽石含む。ＦＡ粒子少量。ＦＡブロック（小）少量。ローム粒子多量。ロームブロック多量。小礫少量。
5．暗褐色土　粕川軽石少量。ＦＡブロック（小）少量。ローム粒子含む。ロームブロック少量。小礫微量。
6．黒褐色土　粕川軽石多量。ローム粒子含む。
7．暗褐色土　粕川軽石微量。ＦＡ粒子微量。ロームブロック含む。
8．暗褐色土　粕川軽石少量。ロームブロックやや多。
9．砂質ロームの崩落土

第104図　Ｄ－１号堀

Ｄ－２号堀（Ｄ－７号溝）

位置　Ｄ－５区の南側、11Ｐ－37・38、11Ｑ－37・38グリッドに位置する。　**形状**　両側とも調査区外に伸びるが、東西方向に走る。南側は若干調査区外となるが、断面は薬研堀状を呈す。　**規模**　調査し得た長さは6.26m、幅6.50m。深さ2.48m。　**遺物**　土師器・須恵器片、陶磁器片が出土している。



D－2号堀

1．耕作土
2．暗褐色土　粕川軽石やや多。小礫少量。
3．黒褐色土　粕川軽石多量。
4．暗褐色土　粕川軽石やや多。ロームブロック少量。小礫少量。
5．黒褐色土　粕川軽石少量。中礫多量。
6．暗褐色土　粕川軽石少量。ロームブロック微量。中礫少量。
7．暗褐色土　粕川軽石少量。ロームブロック微量。小礫少量。
8．黒褐色土　ロームブロック微量。小礫少量。中礫少量。
9．黒褐色土　小礫・中礫・大礫含む。
10．暗褐色土　粕川軽石少量。ロームブロック微量。小礫少量。

第105図　D－2号堀

第106図　小城現況図

第５章　まとめにかえて

第１節　調査の成果

上原遺跡では竪穴式住居跡37軒、掘立柱建物跡３棟、溝30条、土坑68基、堀２条、ピット293基が調査された。住居跡の年代は、古墳時代２軒、奈良時代６軒、平安時代25軒、時期不明４軒であった。注目すべき遺物としては、墨書土器が７点出土している。また、鉄製品の出土も多く、奈良・平安時代の住居跡31軒のうち、半数を超える16軒の住居跡から出土している。

上原遺跡で調査された遺構の量は、伊勢町地区遺跡群の発掘調査で調査された遺構の総数からみるとごく少ないが、それは調査範囲の制約によるものであり、遺構の分布が希薄であったとは言えない。特にＤ区では狭く限られた範囲の調査であったにもかかわらず、多くの遺構が検出されている。住居跡の年代が示すとおり、この区域における集落形成の開始は少なくとも古墳時代まで遡ることができ、これ以降は長期間にわたり、継続的に集落が営まれていたことがわかる。

第２節　伊参城と小城

上原遺跡は、伊参城、小城という２つの城館跡の推定地となっており（『吾妻郡城塁史』参照）、伊参城は中世の館跡、小城は戦国時代の城跡とされている。伊参城の推定地であるＢ区では、館の存在を裏付けるような遺構は検出されなかったが、Ｄ－２区の２号溝、Ｄ－４区の７号溝はいずれも粕川軽石を覆土に含んでいることから年代は中世以降と考えられ、遺構の形状・位置から考えて小城の堀跡として報告した。参考までに発掘調査時に作成したＤ区の現況図を掲載しておく。『吾妻郡城塁史』の記述及び略測図と比較すると、Ｄ－１号堀は二の丸の、Ｄ－２号堀は本丸の堀に該当すると考えられる。

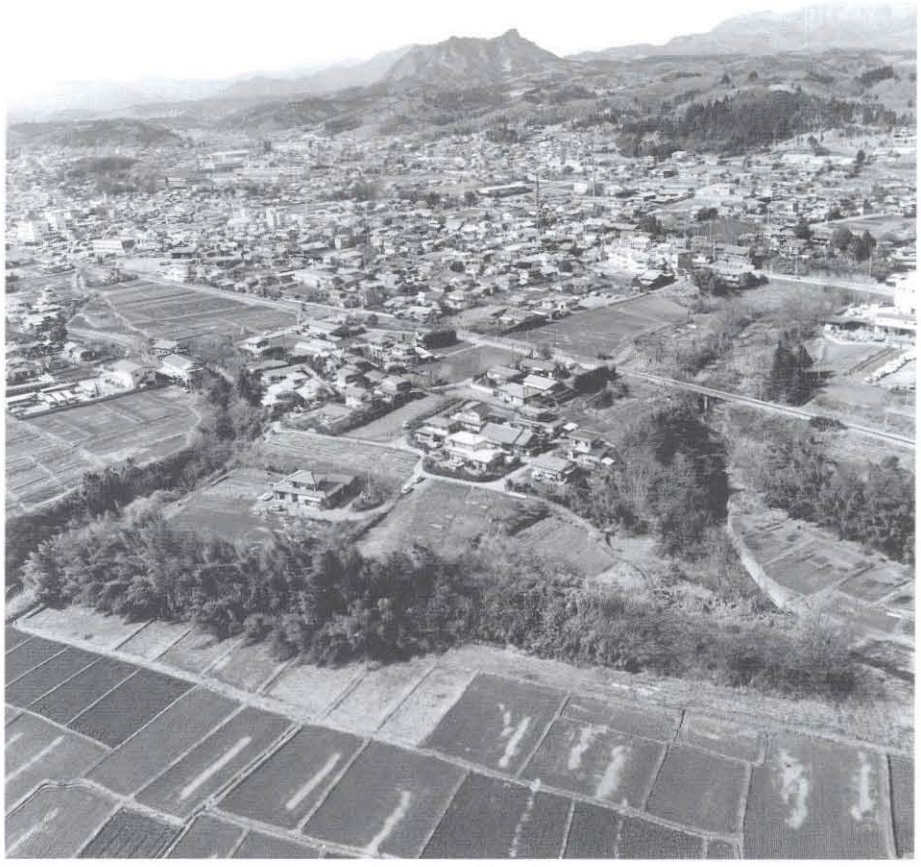
さて、この小城はどのような付属施設を有していたのだろうか。Ｄ区では数多くの柱穴が検出され、特にＤ－４区では柱穴が多く調査された。このなかには掘立柱建物跡や柵列と考えられるような柱穴の配列も認められたが、調査範囲が部分的であったこともあり、これらの遺構としては断定し難かった。したがって、城の付属施設については残念ながら不明である。

報告書抄録

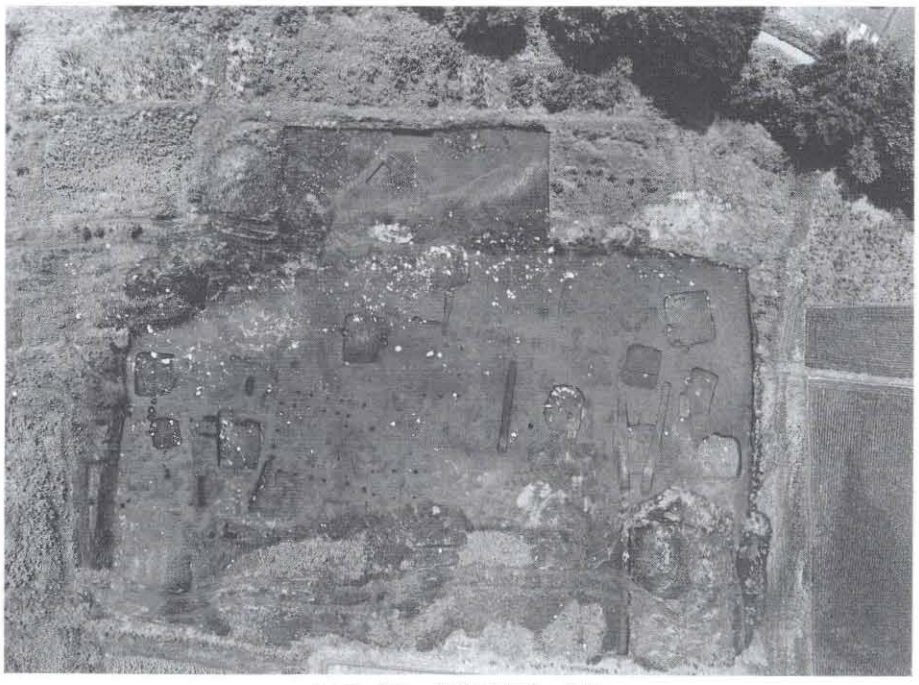
ふりがな	いせまちちくいせきぐんうえはらいせき
書名	伊勢町地区遺跡群上原遺跡
副書名	中之条町駅南土地区画整理事業に伴う埋蔵文化財発掘調査報告書
巻次	第1集
シリーズ名	中之条町埋蔵文化財発掘調査報告書
シリーズ番号	第19集
編著者名	須崎幸夫
編集機関	群馬県中之条町教育委員会
所在地	〒377-0494　群馬県吾妻郡中之条町大字中之条町1091　TEL 0279-75-2111
発行年月日	西暦　1999年3月31日

ふりがな 所収遺跡名	ふりがな 所在地	コード 市町村	コード 遺跡番号	北緯 °′″	東経 °′″	調査期間	調査面積 ㎡	調査原因
上原遺跡（うえはらいせき）	群馬県吾妻郡（ぐんまけんあがつまぐん） 中之条町大字（なかのじょうまちおおあざ） 伊勢町字上原（いせまちあざうえはら）	10421		36° 34′ 55″	138° 51′ 41″	19880511 19900731	5,840	土地区画整理

所収遺跡名	種別	主な時代	主な遺構	主な遺物	特記事項
上原遺跡	集落跡	古墳時代 〃 中世	竪穴式住居跡　37軒 堀立柱建物跡　3棟 溝　30条 土坑　68基 堀　2条 ピット　293基	土師器　坏・甕 須恵器　坏・埦・羽釜・甑・高盤・長頸壺 鉄製品　紡錘車・刀子・鎌・釘・鏃 石製品　紡錘車・砥石・勾玉・臼玉 土製品　羽口	住居跡の年代 古墳時代　2軒 奈良時代　6軒 平安時代　25軒 不明　4軒



遺 跡 遠 景



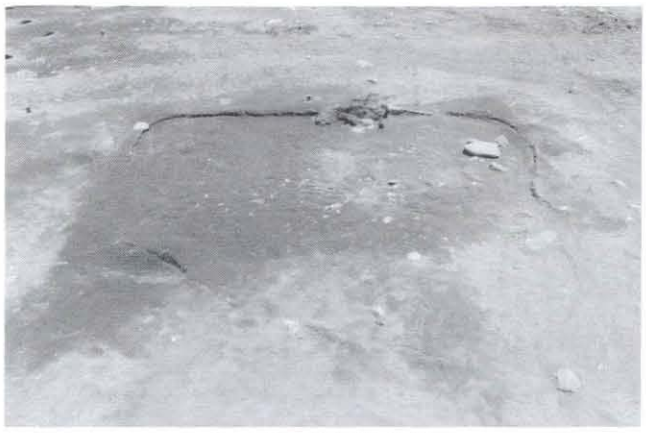
A区（第一次調査区）全景

A－1号住居跡全景

A－2号住居跡全景

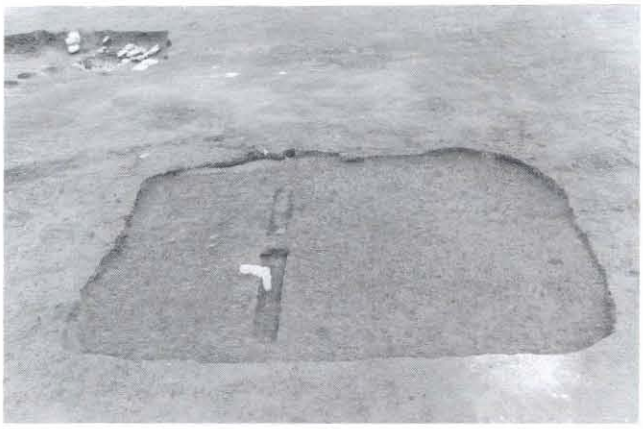
A－3号住居跡全景

A－4号住居跡全景

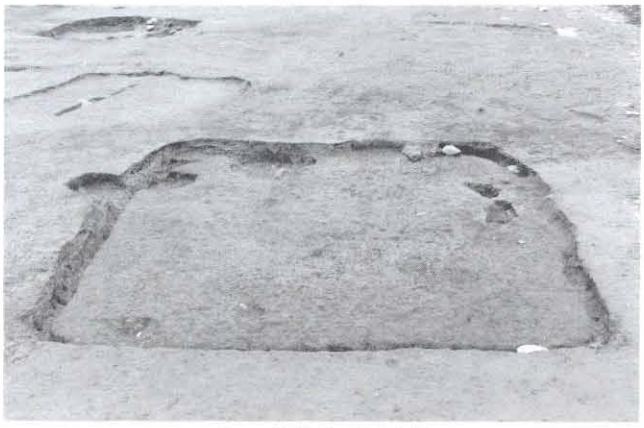


A－5号住居跡全景

A－6・12号住居跡全景



A－7号住居跡全景



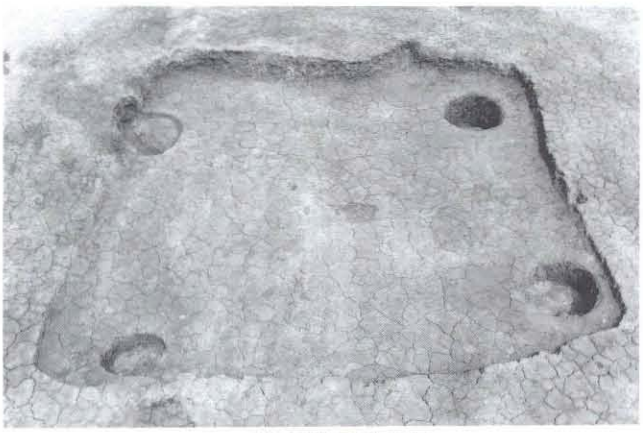
A－8号住居跡全景

A－9号住居跡全景

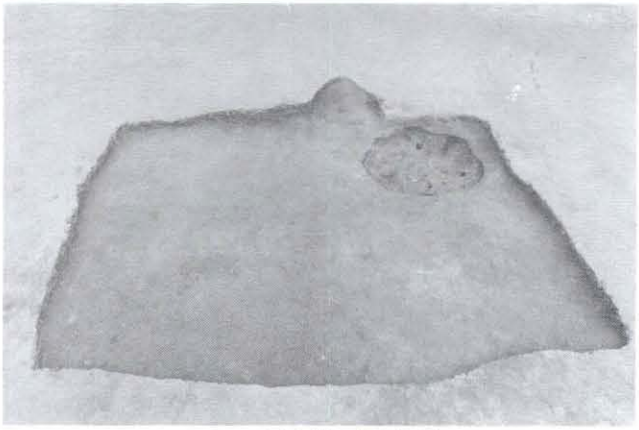
A－10号住居跡遺物出土状況

A－10号住居跡竈全景

A－11号住居跡全景



A－13号住居跡全景



A－14号住居跡全景

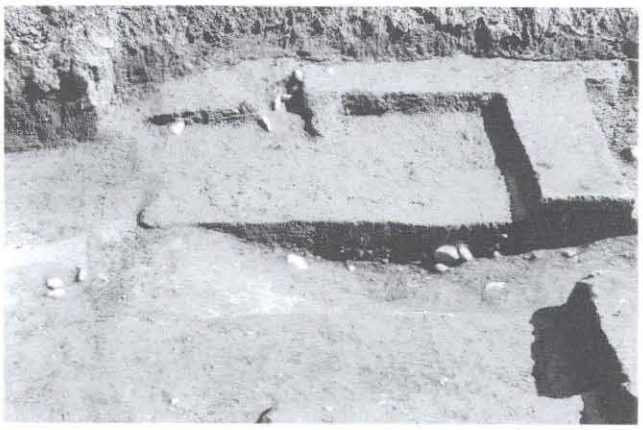
A－15号住居跡全景

A－1号掘立柱建物跡全景

A－2号掘立柱建物跡全景

A－3号掘立柱建物跡全景

D－1号住居跡全景

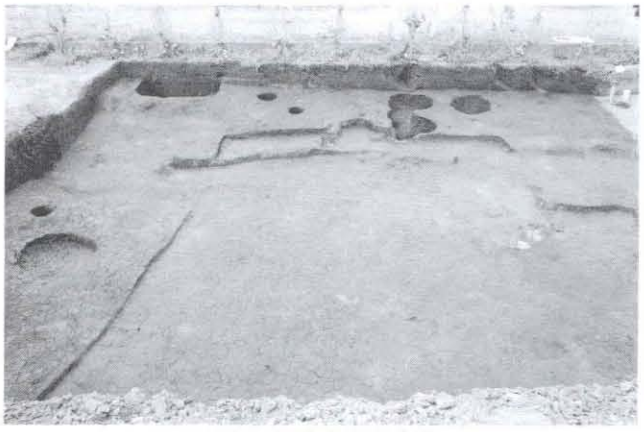


D－2号住居跡全景

D－3号住居跡全景

D－4号住居跡全景

D－5号住居跡全景

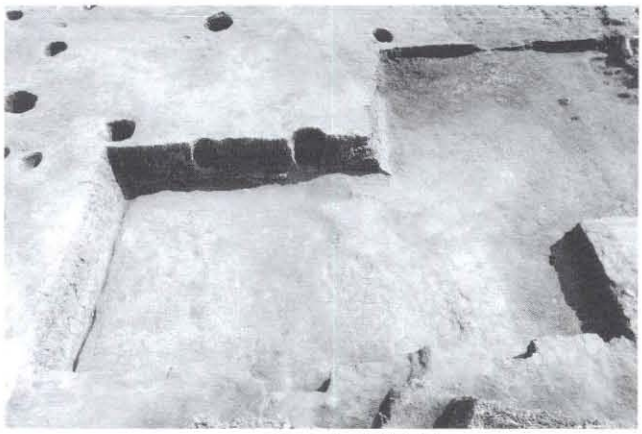


D－6号住居跡全景

D－7号住居跡全景

D－8号住居跡全景

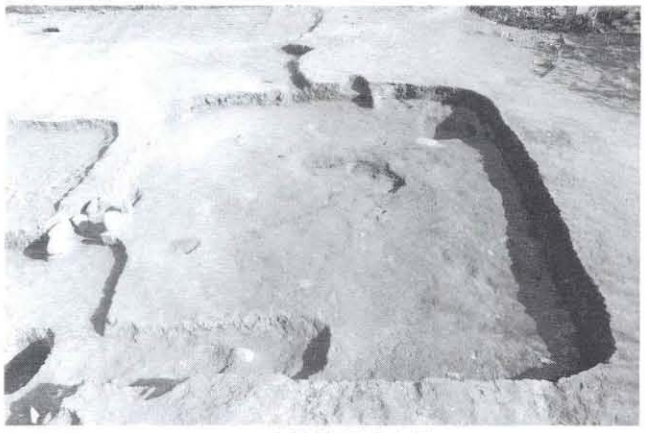
D－9号住居跡全景



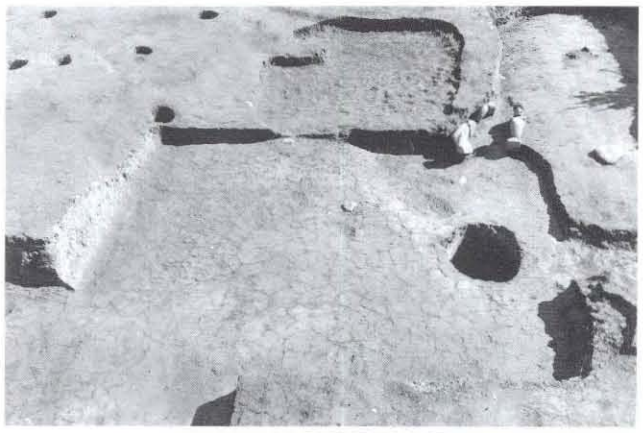
D－10号住居跡全景

D－11号住居跡全景

D－12号住居跡遺物出土状況



D－13号住居跡全景



D－14号住居跡全景

D－15 号住居跡遺物出土状況

D－16 号住居跡全景

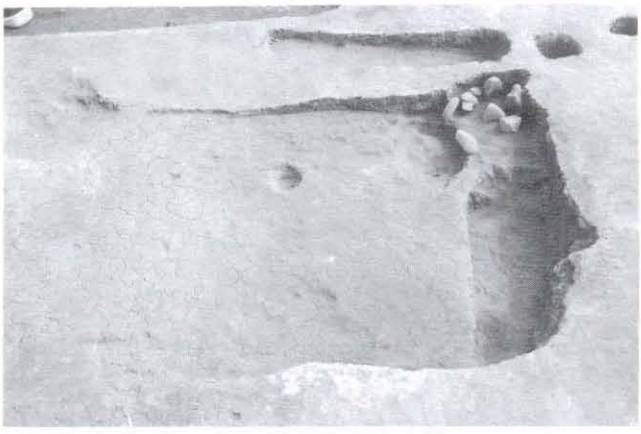
D－17 号住居跡全景

D－18 号住居跡全景

D－19 号住居跡全景

D－19 号住居跡竈全景

D－20 号住居跡遺物出土状況



D－21 号住居跡全景

D－22号住居跡遺物出土状況

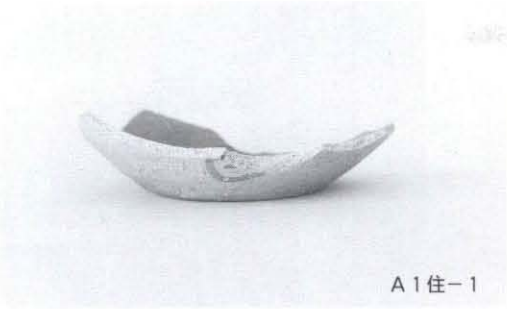
D－1号土坑全景

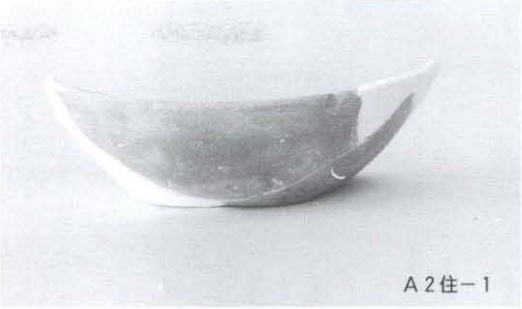
D－1号掘全景

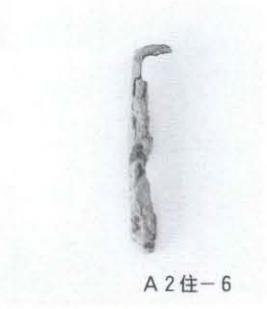
D－2号掘全景

D－1号溝全景

D－29号土坑全景

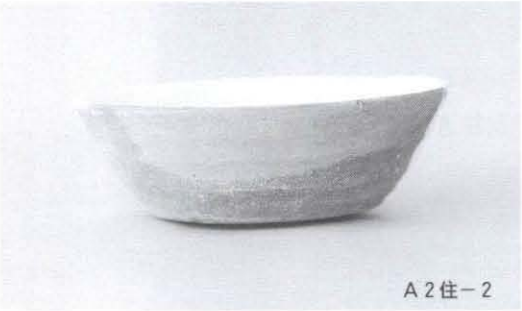

A 1 住－1


A 2 住－1

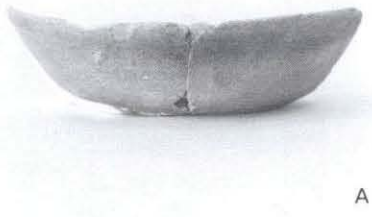

A 2 住－6

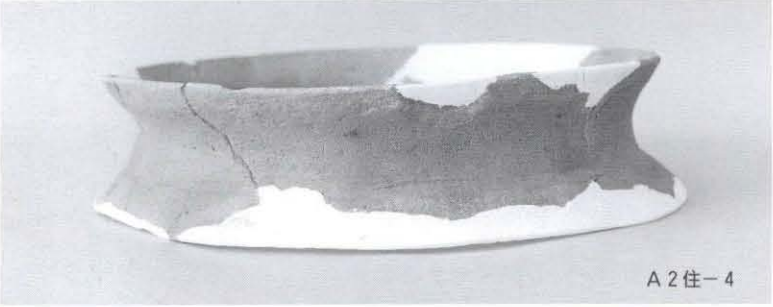
A 1 住－2

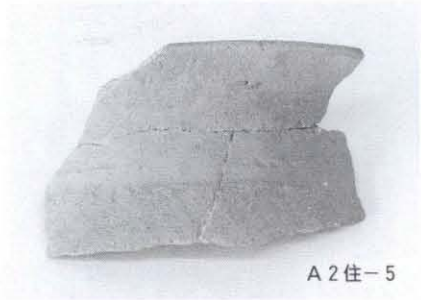
A 1 住－3


A 2 住－2

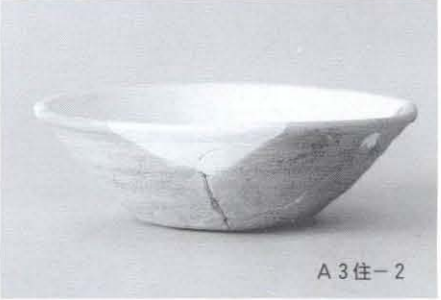
A 2 住－7

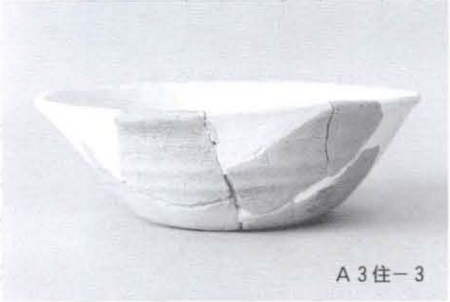

A 2 住－3

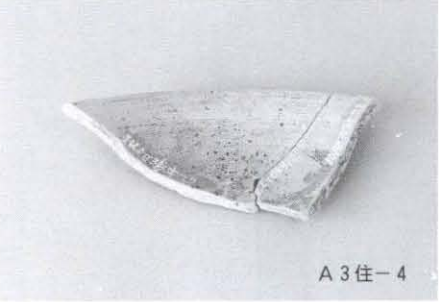

A 2 住－4


A 2 住－5

A 3 住－1


A 3 住－2

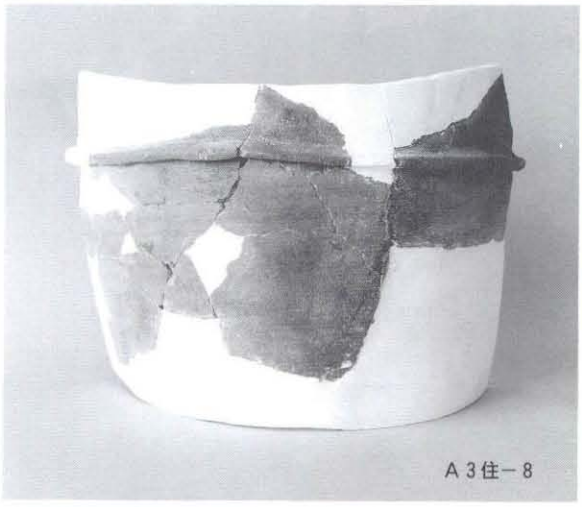

A 3 住－3


A 3 住－4

A 3 住－7

A 3 住－5

A 3 住－6


A 3住－8

A 3住－9

A 3住－10

A 3住－11

A 4住－3

A 4住－1

A 4住－2

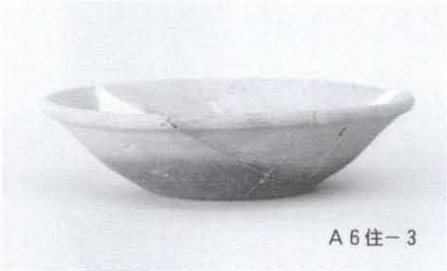
A 5住－1

A 5住－2

A 5住－3

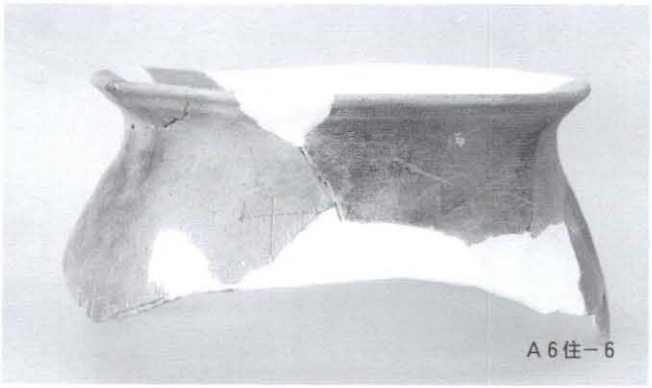
A 6住－1

A 6住－2

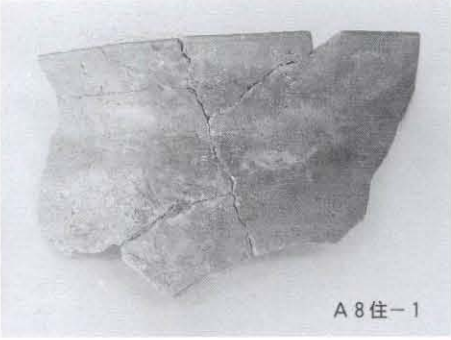

A 6住－3

A 6住－4

A 6住－5


A 6住－6

A 6住－7


A 8住－1

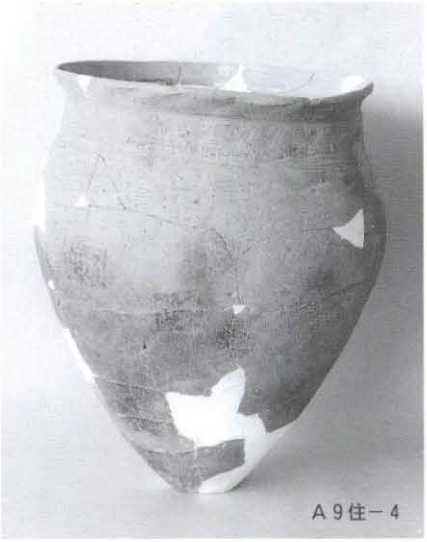
A 8住－2

A 9住－1

A 9住－2

A 9住－5

A 9住－3


A 9住－4

A 9住－6

A 9住－7

A 10住－1

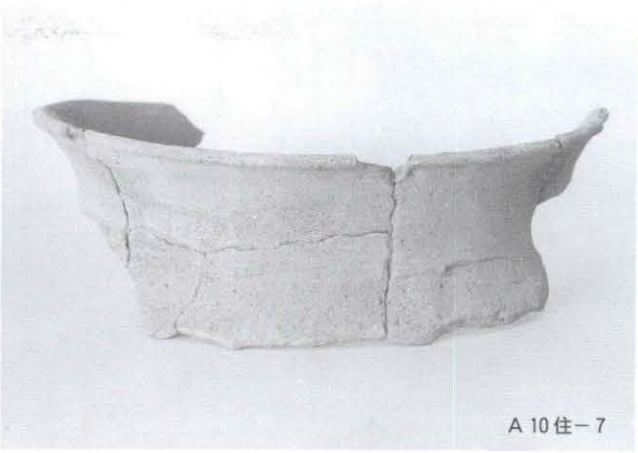
A 10住－2

A 10住－3

A 10住－4

A 10住－5

A 10住－6

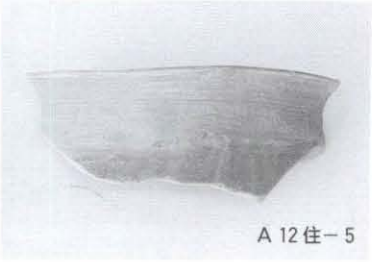

A 10住－7

A 10住－9

A 10住－8

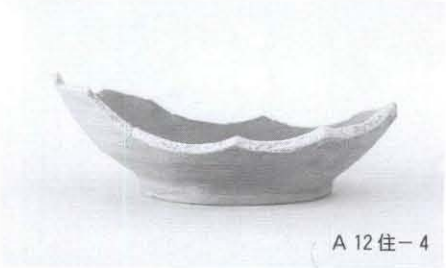
A 11住－1

A 12住－1


A 12住－5

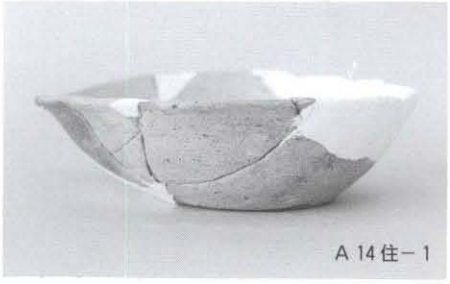
A 12住－2

A 12住－3


A 12住－4

A 12住－6

A 12住－7


A 14住－1

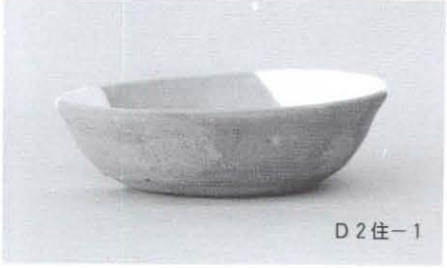
A 14住－2

A 15住－1

D 1住－1

D 1住－2

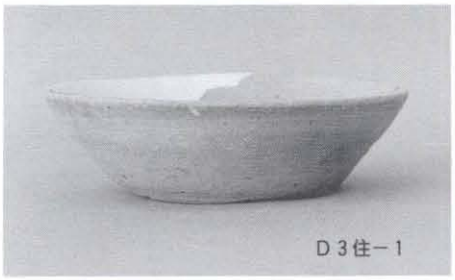
D 1住－3

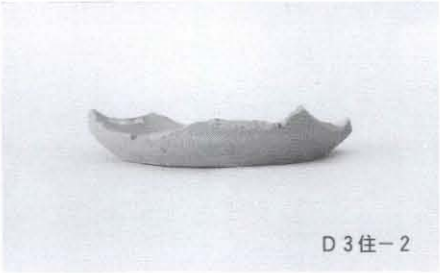

D 2住－1

D2住－2

D2住－3

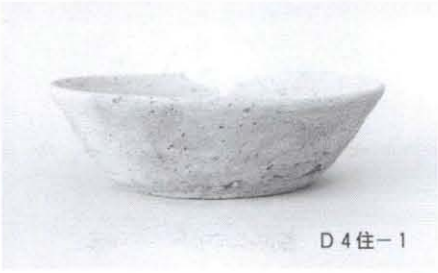
D2住－4

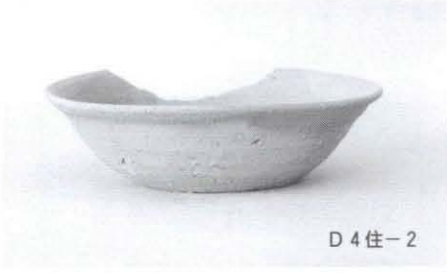

D3住－1


D3住－2

D3住－3

D3住－4

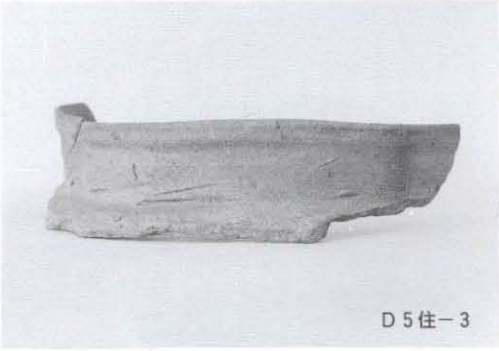

D4住－1


D4住－2

D4住－3

D5住－1

D5住－2


D5住－3

D6住－1

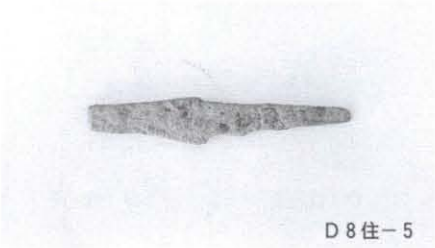
D8住－3

D8住－1

D8住－2

D8住－4

D8住－6


D8住－5

D9住－1

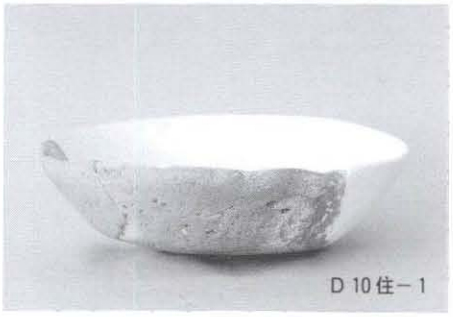
D 9住－2

D 9住－3

D 9住－4

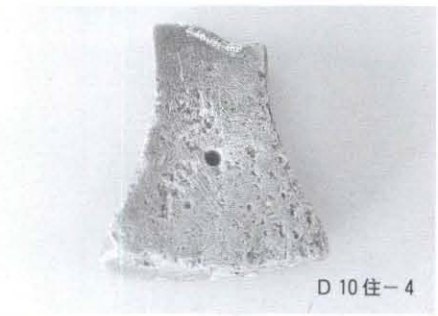
D 9住－5

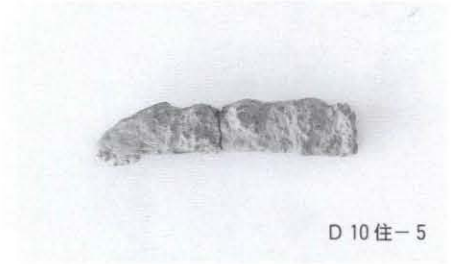
D 9住－6


D 10住－1

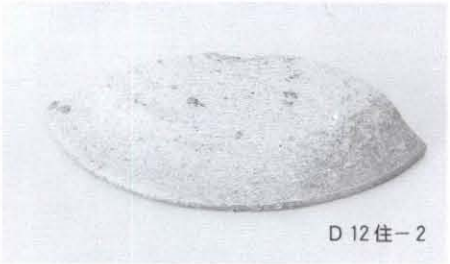
D 10住－2

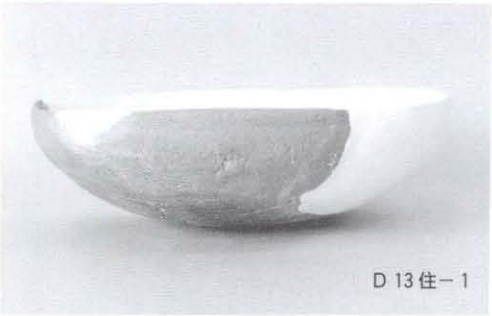
D 10住－3


D 10住－4


D 10住－5

D 12住－1


D 12住－2

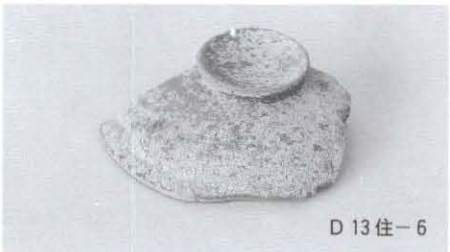

D 13住－1

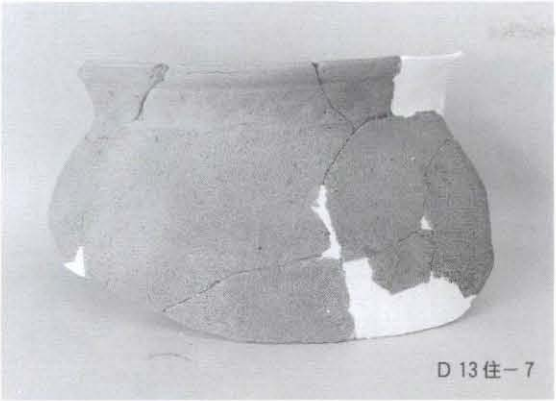
D 13住－2

D 13住－3

D 13住－4

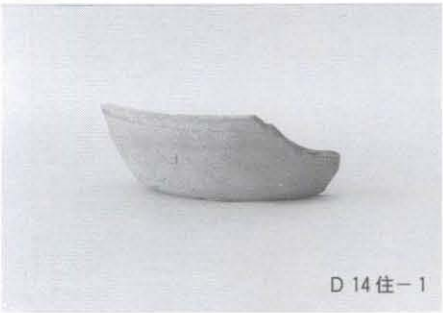
D 13住－5


D 13住－6


D 13住－7

D 13住－8

D 13住－9


D 14住－1

D 15住－1

D 16住－1

D 16住－2

D 16住－3

D 16住－4

D 16住－5

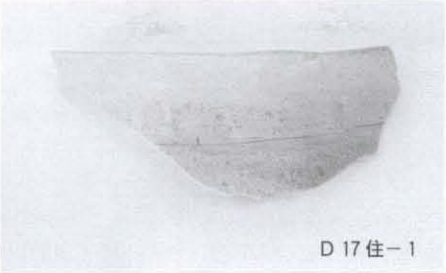
D 16住－6

D 16住－7

D 16住－8

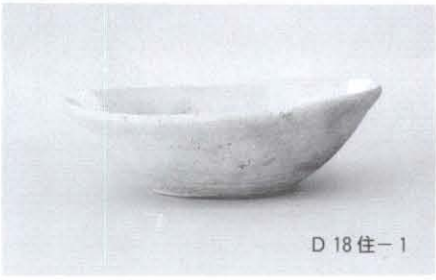
D 16住－9

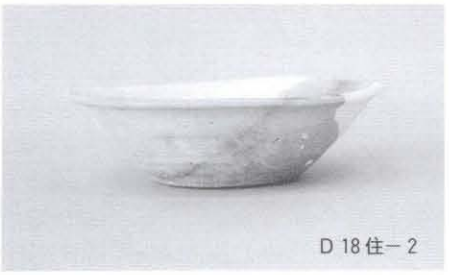
D 16住－10

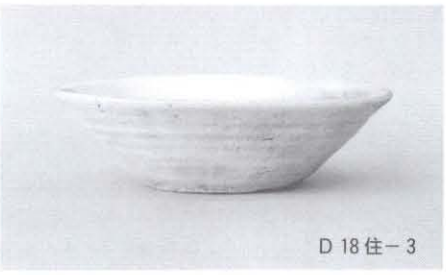

D 17住－1

D 17住－3

D 17住－2


D 18住－1


D 18住－2


D 18住－3

D 18住－4

D 18住－5

D 18住－6

D 18住－7

D 18住－8

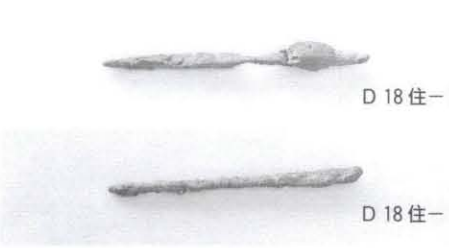
D 18住－9

D 18住－10

D 18住－11

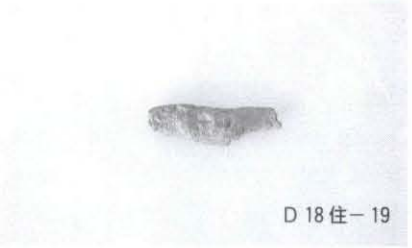
D 18住－12

D 18住－13

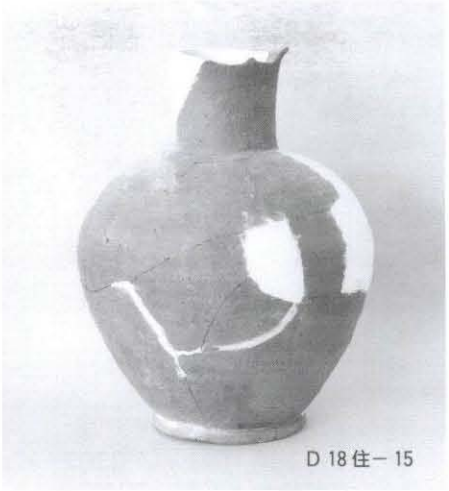

D 18住－16

D 18住－17

D 18住－18


D 18住－19

D 18住－14


D 18住－15

D 19住－2

D 19住－1

D 19住－3・4・5

D 20住－1

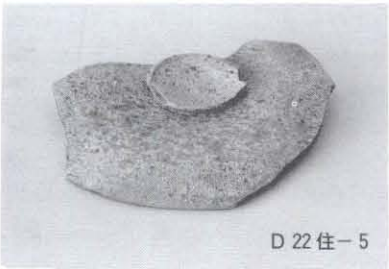
D 20住－2

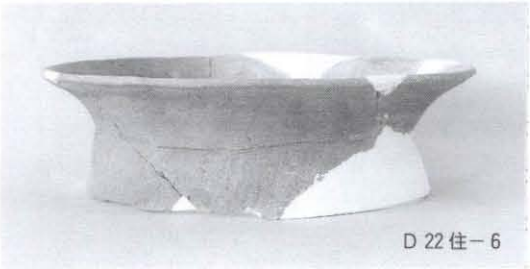
D 22住－1

D 22住－2

D 22住－3

D 22住－4


D 22住－5


D 22住－6

D 1溝－1

D 41土

中之条町埋蔵文化財発掘調査報告書第19集

伊勢町地区遺跡群上原遺跡

中之条町駅南土地区画整理事業に伴う埋蔵文化財発掘調査報告書第１集

平成11年３月31日　印刷・発行

編集・発行　中之条町教育委員会
〒377-0494
群馬県吾妻郡中之条町大字中之条町1091
TEL 0279-75-2111　FAX 0279-75-6562

印　刷　大道印刷工業